津市立東観中学校長寿命化改修工事

設計図

アルテック設計
津市大谷町２３３番地　TEL 059-225-1602

	意匠図						構造図
Ａ － １	図面リスト１	Ａ －３８	断面図	Ａ －７４	校舎Ｂ棟 建具表５	Ｓ － １	構造設計標準仕様書
Ａ － ２	図面リスト２	Ａ －３９	矩計図（改修前）	Ａ －７５	雑詳細図１	Ｓ － ２	鉄筋コンクリート配筋要領図
Ａ － ３	―	Ａ －３９’	矩計図（改修後）	Ａ －７６	雑詳細図２	Ｓ － ３	鉄骨構造標準図(1)
Ａ － ４	―	Ａ －４０	平面詳細図１	Ａ －７７	雑詳細図３	Ｓ － ４	鉄骨構造標準図(2)
Ａ － ５	―	Ａ －４１	平面詳細図２	Ａ －７８	雑詳細図４	Ｓ － ５	デッキプレート標準図
Ａ － ６	―	Ａ －４２	展開図１ 西階段	Ａ －７９	外部仮設計画図	Ｓ － ６	ベースパック柱脚工法 設計施工標準図
Ａ － ７	―	Ａ －４３	展開図２ 東階段	Ａ －８０	内部仮設計画図 １階	Ｓ － ７	ヘーベル縦壁ＨＤＲ構法(一般用) 設計施工標準図
Ａ － ８	―	Ａ －４４	展開図３ １階廊下１	Ａ －８１	内部仮設計画図 ２階	Ｓ － ８	基礎伏図・１階伏図・地中梁詳細図・基礎、スラブ詳細図
Ａ － ９	―	Ａ －４５	展開図４ １階廊下２	Ａ －８２	内部仮設計画図 ３階	Ｓ － ９	伏図・軸組図
Ａ －１０	改修工事特記仕様書１	Ａ －４６	展開図５ ２階廊下１	Ａ －８３	劣化調査図（参考）１	Ｓ －１０	鉄骨継手詳細図・鉄骨部材リスト・柱脚詳細図・ベースパック詳細図
Ａ －１１	改修工事特記仕様書２	Ａ －４７	展開図６ ２階廊下２	Ａ －８４	劣化調査図（参考）２	Ｓ －１１	鉄骨詳細図
Ａ －１２	改修工事特記仕様書３	Ａ －４８	展開図７ ３階廊下１	Ａ －８５	劣化調査図（参考）３		
Ａ －１３	改修工事特記仕様書４	Ａ －４９	展開図８ ３階廊下２	Ａ －８６	劣化調査図（参考）４		
Ａ －１４	改修工事特記仕様書５	Ａ －５０	展開図９ ２階普通教室	Ａ －８７	劣化調査図（参考）５		
Ａ －１５	改修工事特記仕様書６	Ａ －５１	展開図10 ２階特別支援教室	Ａ －８８	劣化調査図（参考）６		
Ａ －１６	付近見取図・配置図	Ａ －５２	展開図11 ３階普通教室	Ａ －８９	劣化調査図（参考）７		
Ａ －１７	敷地面積求積図	Ａ －５３	展開図12 ＥＬＶホール	Ａ －９０	劣化調査図（参考）８		
Ａ －１８	仕上表１	Ａ －５４	１階天井伏図	Ａ －９１	劣化調査図（参考）９		
Ａ －１９	仕上表２	Ａ －５５	２階天井伏図	Ａ －９２	劣化調査図（参考）10		
Ａ －２０	求積図	Ａ －５６	３階天井伏図	Ａ －９３	劣化調査図（参考）11		
Ａ －２１	面積区画表・平均地盤面算定表	Ａ －５７	Ｂ棟天井伏図	Ａ －９４	劣化調査図（参考）12		
Ａ －２２	１階全体平面図	Ａ －５８	１階建具指示図	Ａ －９５	劣化調査図（参考）13		
Ａ －２３	２階全体平面図	Ａ －５９	２階建具指示図	Ａ －９６	劣化調査図（参考）14		
Ａ －２４	３階全体平面図	Ａ －６０	３階建具指示図				
Ａ －２５	法チェック表	Ａ －６１	建具表１				
Ａ －２６	１階平面図（改修前）	Ａ －６２	建具表２				
Ａ －２７	１階平面図（改修後）	Ａ －６３	建具表３				
Ａ －２８	２階平面図（改修前）	Ａ －６４	建具表４				
Ａ －２９	２階平面図（改修後）	Ａ －６５	建具表５				
Ａ －３０	３階平面図（改修前）	Ａ －６６	建具表６				
Ａ －３１	３階平面図（改修後）	Ａ －６７	建具表７				
Ａ －３２	Ｒ階平面図（改修前）	Ａ －６８	校舎Ｂ棟 建具指示図１				
Ａ －３３	Ｒ階平面図（改修後）	Ａ －６９	校舎Ｂ棟 建具指示図２・消防活動用開口計算表				
Ａ －３４	立面図１（改修前）	Ａ －７０	校舎Ｂ棟 建具表１				
Ａ －３５	立面図１（改修後）	Ａ －７１	校舎Ｂ棟 建具表２				
Ａ －３６	立面図２（改修前）	Ａ －７２	校舎Ｂ棟 建具表３				
Ａ －３７	立面図２（改修後）	Ａ －７３	校舎Ｂ棟 建具表４				

ア ル テ ッ ク 設 計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊 藤 公 智

最終更新

原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

図面リスト１

Ａ － １

Ｓ： non

	電気設備図		機械設備図		昇降機設備図		
Ｅ － １	電気設備 特記仕様書１	Ｍ － １	特記仕様書（１）	ELV － １	エレベーター詳細図１		
Ｅ － ２	電気設備 特記仕様書２	Ｍ － ２	特記仕様書（２）	ELV － ２	エレベーター詳細図２		
Ｅ － ３	電気設備 特記仕様書３	Ｍ － ３	凡例、換気機器表、衛生器具表、系統図	ELV － ３	エレベーター詳細図３		
Ｅ － ４	高圧受変電設備 単線結線図	Ｍ － ４	給排水衛生設備 １階平面図(改修後)	ELV － ４	エレベーター詳細図４		
Ｅ － ５	幹線設備図	Ｍ － ５	給排水衛生設備 ２階平面図(改修後)	ELV － ５	エレベーター詳細図５		
Ｅ － ６	動力設備図	Ｍ － ６	給排水衛生設備 ３階平面図(改修後)	ELV － ６	エレベーター詳細図６		
Ｅ － ７	コンセント設備図	Ｍ － ７	給排水衛生設備 Ｒ階平面図(改修後)	ELV － ７	エレベーター詳細図７		
Ｅ － ８	照明器具姿図、弱電機器姿図	Ｍ － ８	給排水衛生設備 １,２階平面詳細図				
Ｅ － ９	電灯設備図	Ｍ － ９	給排水衛生設備 ３,Ｒ階平面詳細図				
Ｅ －１０	弱電設備図	Ｍ －１０	給排水衛生設備 Ｒ階平面図(改修前)				
Ｅ －１１	自動火災報知設備 系統図	Ｍ －１１	換気設備 ２,３階多目的便所平面図				
Ｅ －１２	自動火災報知設備 １階平面図	Ｍ －１２	空調設備 既設機器表				
Ｅ －１３	自動火災報知設備 ２階平面図	Ｍ －１３	空調設備 １階平面図(改修後)				
Ｅ －１４	自動火災報知設備 ３階平面図	Ｍ －１４	空調設備 ２階平面図(改修後)				
Ｅ －１５	自動火災報知設備 平面図（危害防止装置）	Ｍ －１５	空調設備 ３階平面図(改修後)				
Ｅ －１６	自動火災報知設備 １階平面図（危害防止装置）	Ｍ －１６	空調設備 １階平面図(改修前)(撤去工事)(仮設工事)				
Ｅ －１７	自動火災報知設備 ２・３平面図（危害防止装置）	Ｍ －１７	空調設備 ２階平面図(改修前)(撤去工事)(仮設工事)				
Ｅ －１８	電気設備 屋上平面図	Ｍ －１８	空調設備 北面立面図(改修後)				
Ｅ －１９	構内配電線路図						
Ｅ －２０	キュービクル廻り 詳細図						
Ｅ －２１	単線結線図 改修後						
Ｅ －２２	単線結線図 改修前						

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

図面リスト２

A － 2

S： non

工事特記仕様書（改修）

Ⅰ．工事名称　津市立東観中学校長寿命化改修工事

Ⅱ．工事概要

1　工事場所　津市 安濃町東観音寺 地内

2　敷地面積　18,489.00㎡

3　工事内容

棟名称　管理・教室・特別教室棟（校舎Ａ棟）、用務員室・柔剣道場・給食室・教室・特別教室棟（校舎Ｂ棟）、ＥＬＶ棟

構造　既存：鉄筋コンクリート造　増築：鉄骨造

建築面積　既存：3,069.31㎡　増築：23.14㎡

延べ面積　既存：6,231.77㎡　増築：38.56㎡

工事項目　防水改修、外壁改修、建具改修、内外装改修、塗装改修、躯体改修、受変電設備

Ⅲ．建築改修工事仕様

1　共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（以下「改修標準仕様書」という。）」による。

2　特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

(3) 項目欄に記載の（　）内表示番号は改標仕の該当項目等を示す。

章	項目・	特記事項・・・・
1 一般共通事項	① 適用基準等	① 公共建築工事標準仕様書（建築工事編） 国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版） ② 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編） 国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版） ③ 建築物解体工事共通仕様書 国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版） ④ 建築工事標準詳細図 国土交通大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
	② 施工条件	施工方法及び検査に関する事項 ※　工事契約後、速やかに調査及び施工計画書等を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。 ※　工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。 ※　本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。 ※　特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手する事とし、また、周辺住民からの苦情があった時は、工事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行い、工事の再開は市監督員の承認を得てから行うこと。 ※　工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周道路等に資材を落下させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。 ※　場外退出時、車両足廻りの洗浄等を行い、汚損等しないようにすること。 ※　工事車両の出入りについては、安全確保に十分配慮すること。 ※　工事期間中は誘導員を配置し、通行人及び救地周辺の安全に十分配慮すること。 ※　工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。 ※　工事着手前には、現況把握のために、破損箇所等があれば、市監督員立合いのもと写真に記録しておくこと。 ※　工事期間中、工事に起因し、既存施設に破損等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに原状復旧するとともに市監督員に報告書を提出すること。 ※　工事作業については、学校運営に支障をきたさないよう工事の遂行に必要な施工体制を確保すること。 ※　作業着手までの校内調査は事前に学校及び市監督員の承諾を得るものとし、学校終了後、体校日等の学校運営に影響を与えない範囲とする。 ※　撤去工事等の騒音及び振動が生じる作業は、原則、休日等の授業が行われていない時に行うこと。 ※　外部足場の設置及び解体は、原則、休日等の授業が行われていない時に行うこと。 ※　夏休み中等の学校休校日であっても部活動等の団体が利用する場合があるため、安全に十分注意すること。 ※　作業後の校舎等の施錠については学校側と十分協議を行うこと。 ※　原則として、撤去工事等の現場への本格着手は7月19日からとする。但し、学校及び監督員との協議により承諾を得た場合は、この限りではない。 ※　職員室、保健室及び職員玄関については、当該出入口から出入りできるよう、外部足場及び外部仮設を計画すること。 ※　９月以降はＡ棟の南面出入り口を学校職員、生徒、施設利用者等が通行できるよう外部足場及び外部仮設を計画すること。 ※　９月以降は南面足場のｼｰﾄ養生を撤去又は結束し、南面窓の採光、換気を確保すること。 ※　学校内部における作業については、生徒の安全を確保するため、休校日等の授業が行われていない時に行うものとする。 ※　防火ｼｬｯﾀｰ及び防火戸の改修については、原則休校日等の授業が行われていない時期に作業するものとする。 ※　本工事は、通常授業時に限らず夏休み中であっても生徒、施設利用者等が施設を利用をしながらの改修工事となるため、施工に先立ち、学校及び市監督員と協議の上、施工工程を作成し、市監督員の承諾を得てから工事を行うこと。 ※　外壁補修（浮き部、ひび割れ補修等）は、原則、休日等の授業が行われていない時に行うものとする。 ※　停電・断水を伴う作業は休校日に行うものとし、時期については事前に学校及び市監督員の承諾を得るものとする。 ※　通常授業時に校舎内を通行する際には、生徒の安全及び授業に支障をきたさないよう配慮するものとし、通行動線については学校及び市監督員と協議する。 ※　外部鉄部塗替えにおいて、下地調整ケレン時に集じん機付きディスクグラインダーの使用又は湿潤化し飛散養生するなど粉塵の飛散防止に努めること。 ※　高所等の施工箇所で完成検査時に確認が困難な工事については、足場解体前に市検査課による随時検査(書類を含む)を受けること。また、当該検査の合格をもって足場解体を行うこと。 ※　工事用水、電力については校内既存の施設を無償で利用できる。但し、学校行事に影響しないよう事前に打合せのうえ計画し、施工すること。 ※　設計図書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取り合いのはつり補修復旧は本工事に含む。なお内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。 ※　下記に示す諸室の改修工事について、２学期または３学期以降の学校運用に支障が無いよう、市検査課の中間検査（書類を含む）を受け、引き渡すこと。なお、下記に中間検査対象箇所及び引渡し計画時期を示す。 但し、学校との協議により運営に支障がない範囲であれば、施工範囲を変更できるものとする。 （８月中引渡） ＜Ａ棟＞ ・内部改修部 ・昇降口 ・外壁　南面 ＜Ｂ棟＞ ・防火シャッター、防火戸 ※　各諸室（１クラス３０名程度）について、作り付け家具のほか、机等の備品があるため、作業に際し移設及び養生を適宜行うこと。なお、下記に各諸室の主要な備品を明記する。 ・普通教室、特別支援教室：机、椅子及び教卓、ﾛｯｶｰ等 ・昇降口：傘立て、掲示板、下足入れ ・廊下：掲示板

③ 発生材の処理等 (1.3.12)

本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。

・分別解体等の方法

工程	作業の有無	分別解体等の方法
造成等	・有 (・)無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
基礎・基礎ぐい	・有 (・)無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
上部構造部分・外装	(・)有 ・無	・手作業 (・)手作業、機械作業の併用
屋根	・有 (・)無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
建築設備・内装等	(・)有 ・無	(・)手作業 ・手作業、機械作業の併用
その他 （　　）	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用

(・) 引き渡しを要するもの　(・) 無　・　　）

・ 特別管理産業廃棄物　・ 有（・PCBを含む機器類　・廃油、廃酸、廃アルカリ　・ダイオキシン類　・水銀を含む特別管理産業廃棄物　・廃水銀等　）

処理方法（　　）

・ 水銀使用製品産業廃棄物　・ 有（　・　蛍光ランプ　・　HIDランプ　・（　　））

「水銀廃棄物ガイドライン」（第２版）（平成31年3月　環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課）に基づき適切に処理すること。

(・) 石綿含有成形板等解体時の留意点

1. 手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。
2. 可能であれば湿潤状態（散水）として作業を進めること。
3. 飛散されない様にすること。
4. 保護具及び作業着を着用すること。
5. 解体されたボード等は、蓋のある容器に入れること。
6. 事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。

・ 現場において再利用を図るもの　（　　）

(・) 再資源化を図るもの　(・) コンクリート塊　(・) アスファルトコンクリート塊　(・) 建設発生木材　・（　　）

引渡を要するもの、再資源化を図るものについては調書を作成し、監督員へ提出すること。

引渡を要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員にマニフェストA、B2、D票を提示すること。

④ 建設副産物情報交換システムの利用

受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」（建設資材の搬入がある場合）及び「再生資源利用促進計画書」（建設副産物の搬出がある場合）を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

また、工事完了後には「再生資源利用実施書」（建設資材の搬入があった場合）及び「再生資源利用促進実施書」（建設副産物の搬出があった場合）をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。

なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICが運営する「建設副産物情報交換システム」に登録のうえ、行うこと。

⑤ 三重県産業廃棄物税

本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の４月１日から８月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。

なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。

⑥ 電気保安技術者 (1.3.3)

(・) 配置する

⑦ 技能士 (1.7.2)

職種別に可能なものについては、積極的に活用のこと。

⑧ 施工数量調査 (1.6.2)

調査範囲及び調査方法　(・) 工種別の特記による

9　調査のための破壊部分の補修 (1.5.3)

補修方法　・　図示（図面番号：　　）　・（　　）

⑩ 建築材料等

1）　本工事に使用する木材は、津市公共建築物等木材利用方針に基づき、木材の利用に努めること。

2）　本工事に使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量等は、F☆☆☆☆以上とする。

⑪ 化学物質の濃度測定 (1.6.9)

測定対象化学物質（●で示したものとする。）

適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジクロロベンゼン
(・)	学校,教育施設	●	●	●	●	●	●
	住宅	●	●	●	●	●	
	その他	●	●	●	●	●	

測定対象室及び測定個所数　(・) 図示（図面番号：　A-28,30　）　・（　　）

測定方法（(・) パッシブ法　・　アクティブ法）

測定時期　(・)（　改修前、改修後　）

報告書提出部数　２部

⑫ 特別な材料の工法

改修標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。

⑬ 騒音・振動の防止

低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。

⑭ 工事写真 (1.2.4)

営繕工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部（最新版）)に従い撮影する。

提出部数１部　用紙は上質紙とする。

なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について（令和5年3月1日国営建技14号）」による。

⑮ 完成図等 (1.8.2) (1.8.3)

作成する　（(・) 完成図　・　保全に関する資料　・（　　））

完成図作図範囲（設計図を訂正）

完成図はＣＡＤにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）にかかる使用権は発注者に移譲するものとする。また、製本２部（原図サイズ）により提出すること。

⑯ 完成写真

・ デジタルカメラで撮影し、全てＬ版相当サイズで印刷する。

（Ａ４版用紙に１ページあたり３枚）　１部

箇所数は外観４面各室２面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多大になる場合には、監督員と協議すること。写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。

⑰ 設備工事との取合い

施工範囲

・　図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔・開口部の補強

(・) 図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強

(・) 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強

(・) 駆動装置が電動による建具等の２次側の配管・配線及び操作スイッチ

施工図

(・) 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。

⑱ 既存部分等への処置 (1.3.13)

工事施工に際し、既存部分を汚損した場合又は損傷した場合は、監督職員に報告するとともに承諾を受けて原状に準じて補修する。

⑲ 事故の発生時

工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故発生報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出すること。

また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

⑳ 消防提出書類

1）　消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成

(・) 本工事（(・) 建築工事　(・) 電気設備工事　・　機械設備工事）　・　別途工事

2）　防火対象物使用開始届出書

書類の作成（電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入）を行うこと。

㉑ 労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置

労働安全衛生法第30条第１項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第２項の規定に基づき、本工事の請負者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。

㉒ 不正軽油の使用の禁止

1）　一般事項

工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。

2）　調査の協力

受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。

3）　是正措置

受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。

２３　屋外広告物

屋外広告物を設置する場合は、「三重県屋外広告物条例」第２３条に規定する屋外広告業の登録事業者であること。

㉔ 石綿含有建材の調査 (1.5.1)

(・) 石綿含有建材の事前調査

調査範囲　(・) 改修部分すべて　・（　　）

資与資料　・既存の設計図書　(・) 石綿含有建材の調査報告書　・（　　）

・分析調査

分析対象　アクチノライト、アモサイト、アンフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト

分析方法

材料名	定性分析法 JIS A 1481-1 JIS A 1481-2	定量分析法 JIS A 1481-3 JIS A 1481-4 JIS A 1481-5
	・箇所数（　）	・箇所数（　）
	・箇所数（　）	・箇所数（　）

サンプル数　1箇所あたり3サンプル

採取箇所　・図面(図面番号：　）　・（　　）

㉕ 設計ＧＬ

(・) 図面(図面番号：　A-22、A-39、S-11　)

設計ＧＬ＝ＫＢＭ-0.06m

2 仮設工事

1 騒音・粉じん等の対策 (2.1.3)
- ・ 防音パネル　設置範囲　・ 図示（図面番号：　）
- ・ 防音シート　設置範囲　・ 図示（図面番号：　）

② 足場

設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年４月）」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の２の(2)手すり据置き型方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

(2.2.1)
(表2.2.1)
- 内部足場の種別（参考）　(・) 脚立　・ 棚足場　(・) その他（ 階段足場、シャフト内足場 ）
- 外部足場の種別（参考）　(・) 手摺先行据置枠組本足場　・ 移動足場　・ 高所作業車
- ・ その他（　）
- 外部足場設置範囲（参考）　(・) 外部改修部　・ 設備改修部　・ 昇降用　・ 転落防止用
- 防護シート等による養生　(・) 適用する　・ 適用しない

足場の組立て後、足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行い記録を保存すること。
つり足場、張出し足場又は高さが１０ｍ以上の足場で、組立から解体までの期間が６０日以上のものについては、組立て後市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。
なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。
1） 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第１９条の２に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者
2） 労働安全衛生法第８１条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第８８条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者
3） 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記１）又は２）に掲げる者と同等の知識・経験を有する者

③ 既存部分の養生 (2.3.1)
- 既存部分の養生　(・) 図示
- 既存ブラインド・カーテンの養生
- 養生方法（　）
- 保管場所　・ 構内既存施設内
- 固定された備品、机、ロッカーの移動
- (・) 行う　・ 行わない

④ 仮設間仕切り (2.3.2) (表2.3.1)
- 屋内の仮設間仕切り　・ Ａ種　(・) Ｂ種　・ Ｃ種
- 合板　厚さ　・ ９mm　・（　）
- せっこうボード　厚さ　(・) 9.5mm　・（　）
- 合板又は石こうボードの塗装　・ 行う　(・) 行わない
- 仮設扉　設置箇所　(・) 図示（図面番号： A-80～82 ）
- 仕様　・ 合板張り木製扉　(・)（ アルミドア ）

⑤ 監督員事務所 (2.4.1)
- ・ 構内建物内の一部を使用する。
- ・ 設置する　(・) 設置しない
- 監督員事務所の規模(単位:㎡)

適用					
規模	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度

監督員事務所の仕上げ

部　位　等	仕　上　げ
床	合板張り又はビニル床シート張り
内壁・天井	合板張り又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルション塗り
屋根	装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り

6 監督員事務所の設備・備品等 (2.4.1)(2)(7)

種類	机・いす	書棚	黒板・白板	掛時計	温度計
数量	組	台	個	個	個
種類	長靴	雨合羽	保護帽	懐中電灯	衣類ロッカー
数量	足	着	個	個	台
種類	消火器	掃除具	受注者加入電話 FAX	冷暖房機器	インターネット
数量	個	個	台	台	台

⑦ 仮設便所
- 構内既存の施設
- ・ 利用できる　(・) 利用できない

⑧ 工事用水
- 構内既存の施設
- (・) 利用できる（ ・ 有償　(・) 無償）　・ 利用できない

⑨ 工事用電力
- 構内既存の施設
- (・) 利用できる（ ・ 有償　(・) 無償）　・ 利用できない
- 有償利用の場合において、本工事で新規受電又は既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は、本工事に含まれる。

⑩ 交通誘導警備員　配置　(・) 図示（図面番号： A-79 ）

3 防水改修工事

1 アスファルト防水 (3.3.3) (表3.3.3)～(表3.3.10)

工　法	種　別	施　工　箇　所
・ P1B	・ B-1　・ B-2	
・ P1E ・ P2E	・ E-1　・ E-2	

- 改質アスファルトルーフィングシート
- 種類　・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による　・（　）
- 厚さ　・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による　・（　）
- 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート
- 種類　・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による　・（　）
- 厚さ　・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による　・（　）

(3.3.2) 断熱工法の断熱材（P1BI,P2AI,P0DI,M3DI,M4DI）
- 材質　・（　）
- ・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ（スキンあり）
- ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号
- ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号
- 厚さ　・（　）
- ルーフドレン回り及び立上がり部周辺断熱材の張りじまい位置　・ 図示（図面番号：　）

(3.3.3)(2)(イ) (3.3.3)(3) 脱気装置（M3D,P0D,P0DI,M3DI,M4DI）
- ・ 設ける（設置数量　・ 図示（図面番号：　）、材質（　））
- ・ 設けない
- ・ 仕上塗料　種類（　）　使用量（　）

(3.3.5) 保護コンクリートの厚さ　こて仕上げ　・ 水下80mm以上　・（　）
- 床タイル張り　・ 水下60mm以上　・（　）

(表8.1.5) こて仕上げの場合のコンクリートの平たんさ　・ ａ種　・ ｂ種　・ｃ種
- 保護層　・ 設ける　・ 設けない
- 屋上排水溝の適用　・ 適用する
- 立上り保護　・ 乾式保護材（　）
- ・ れんが（材種　・ ＪＩＳ R1250）

2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2)
- 改質アスファルトシート
- 種類　・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による　・（　）
- 厚さ　・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による　・（　）
- 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシート
- 種類　・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による　・（　）
- 厚さ　・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による　・（　）
- 断熱工法の断熱材（M3ASI,M4ASI,P0ASI）
- 材質、厚さ（　）
- 図示　・（　）

(3.4.3) (表3.4.1)～(表3.4.3)

工法	種別	施工箇所	仕上塗料
・ M4AS	・ AS-T1　・ AS-T2 ・ AS-J2		

- 脱気装置
- ・ 設ける（設置数量　・ 図示（図面番号：　）、材質（　））
- ・ 設けない

3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (3.5.2)
- ルーフィングシート
- 種類　・ 改修標準仕様書(表3.5.1)～(表3.5.3)による　・（　）
- 厚さ　・ 改修標準仕様書(表3.5.1)～(表3.5.3)による　・（　）
- 絶縁用シート　・ 発泡ポリエチレンシート　・
- 固定金具の材質及びｓ寸法形状　・図示（　）
- 断熱工法の断熱材（P0SI,S4SI,S3SI,M4SI）
- 材質、厚さ（　）
- ・図示（　）

(3.5.3) (表3.5.1)～(表3.5.3)

工法	種別	種別	仕上塗料
・ S3S ・ S3SI	・ S-F1(SI-F1) ・ S-F2(SI-F2)		

(3.5.3) 脱気装置
- ・ 設ける（設置数量　・ 図示（図面番号：　）、材質（　））
- ・ 設けない

(3.5.4) 既存防水層下地がPCコンクリート部材の場合
- 目地処理　・ 図示（図面番号：　）
- 増張り　・ 図示（図面番号：　）
- 機械式固定方法
- 風圧力に対応した工法　・図示（図面番号：　）
- 保護層の施工・ 図示（図面番号：　）

④ 塗膜防水 (3.6.3) (表3.6.1) (3.6.3)(1)

工法	種別	施工箇所	仕上塗料
(・) P0X (・) L4X	(・) X-1　(・) X-2 ・ X-1H　・ X-2H	図示	フッ素
	(・) 自閉樹脂塗膜防水(A-2)	図示	フッ素

- 脱気装置
- (・) 設ける（設置数量 (・) 図示（図面番号： A-18 ）、材質（ SUS ））
- ・ 設けない

(3.6.3)(2)

工法	種別	施工箇所
・ P1Y ・ P2Y	・ Y-2　・	

- 保護層　・ 図示（図面番号：　）

5 既存防水層表面の仕上塗装の除去 (3.2.6)(3)(イ) (3.2.6)(3)(カ)
- (M4AS,M4ASI,M4C,M4DI)　・ 行う　・ 行わない
- (L4X)　・ 行う　・ 行わない

⑥ シーリング (3.7.2) (表3.7.1)

材料

種類	材種	施工箇所
(・) SR-1	シリコーン系	
(・) MS-2	変成シリコーン系	
・ PS-2	ポリサルファイド系	
(・) PU-2	ポリウレタン系	

(3.7.4～7) 工法
- (・) シーリング充填工法
- (・) シーリング再充填工法
- ・ 拡幅シーリング再充填工法
- ・ ブリッジ工法

(3.7.8) シーリング材の試験
- ・ 簡易接着性試験　・ 引張接着性試験　(・) 行わない

⑦ とい (3.8.2) (表3.8.1) (表3.8.2)
- 材種　(・) 硬質ポリ塩化ビニル管（カラー）　・ 配管用鋼管（白管）
- ・（　）

とい受金物及び足金物

といの材種	形状	取付け間隔
ＶＰ	ＳＵＳ	@1,000

工法　(・) 図示（図面番号： A-18 ）

⑧ アルミニウム製笠木 (3.9.2)(3) (表3.9.1)
- 部材の種類
- ・ 押出し250形
- (・) 押出し300形
- ・ 押出し350形
- ・ 板材折曲げ形（本体幅（　）mm、板厚　・ 2.0mm　・（　））

(3.9.3)(2)
- 固定金具の間隔（　mm）
- 固定方法　・（　）

(3.9.2)(4) (3.9.3)
- 表面処理　(・)（ BB-2 ）
- 工法　既存笠木等の撤去　・ 図示（図面番号：　）
- 下地補修の工法　・ 図示（図面番号：　）
- 板材折曲げ形の笠木の取付方法　・ 図示（図面番号：　）
- 笠木固定金具の工法　・ 図示（図面番号：　）
- 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応したか固定金具の間隔固定方法等は施工計画書として提出する。

⑨ 保証書

工事区分	材料名	保証年数
防水工事	(・) 防水	(・) 10年　・　年

※防水施工業者、製作メーカー、受注者の連名により提出する。

4 外壁改修工事

① 施工数量調査
- (・) 行う　・ 行わない
- 調査範囲　(・) 全面　・（　）
- 調査項目　(・) ひび割れ部（・ 幅0.2mm未満　(・) 0.2mm以上～1.0mm以下　(・) 1.0mm以上超）
- (・) はがれ及びはく落部分
- (・) 浮き部
- 調査方法　・ 打診、目視及びクラックスケール等（ (・) 足場　・ ゴンドラ）
- 報告書　２部（立面図等に記載、必要に応じて写真添付）

② 改修工法の種類 (4.1.4) (4.1.5)

外壁	種類	改修工法
・ コンリート打放し仕上げ外壁	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法 ・ Ｕカットシール材充填工法 ・ シール工法
	欠損部	・ 充填工法
(・) モルタル塗り仕上げ外壁	ひび割れ部	(・) 樹脂注入工法 (・) Ｕカットシール材充填工法 ・ シール工法
	欠損部	(・) 充填工法 ・ モルタル塗替え工法
	浮き部	(・) アンカーピンニング (・) 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法
・ タイル張り仕上げ外壁	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法
	欠損部	・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法
	浮き部	・ アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ エポキシ樹脂注入タイル固定工法 ・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法
	目地	・ 目地ひび割れ部改修工法 ・ 伸縮調整目地改修工法
(・) 塗り仕上げ外壁	新規仕上げ	(・) 薄付け仕上塗材塗り ・ 厚付け仕上塗材塗り (・) 複層仕上塗材塗り ・ 可とう形改修用仕上塗材塗り ・ マスチック塗材塗り ・ 外壁用塗膜防水材塗り

アルテック設計　三重県津市大谷町２３３番地　TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192　一級建築士　第177266号　伊藤　公智

最終更新　原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事　改修工事特記仕様書２

③ 改修工法等

(4.2.4)(1) (4.2.5) (4.3.6) (4.4.6)
⊙ 樹脂注入工法
種類 ⊙ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
注入量（ 25ml ）注入間隔（ 200～300mm ）
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法
注入量（ ）注入口間隔（ ）
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法
注入量（ ）注入口間隔（ ）
材料 エポキシ樹脂JIS A6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)
コア抜取検査 ・ 行う ⊙ 行わない
・ 抜取り個数（ ）
・ 抜取り部分補修方法（ ）

(4.2.4)(2) (4.2.6) (4.3.7)
⊙ Ｕカットシール材充填工法
材料 ⊙ シーリング用材充填
（ ⊙ ＰＵ－１ ・ ＰＵ－２ ・（ ））
・ 可とう性エポキシ樹脂充填
シーリング材の上にポリマーセメントモルタル充填
⊙ 行う ・ 行わない

(4.2.4)(3) (4.2.7) (4.3.8)
・ シール工法
材料 ・ パテ状エポキシ樹脂
・ 可とう性エポキシ樹脂

(4.2.4)(4) (4.2.8) (4.3.9)
⊙ 充填工法
材料 ⊙ エポキシ樹脂モルタル
・ ポリマーセメントモルタル

(4.3.5)(5) (4.3.10)
・ モルタル塗替え工法
材料 ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料
・ 既製目地材の適用及び形状（ ）
・ 仕上げ厚（ ）

(4.3.5)(6) (4.3.11)(4.4.9) (図4.3.1)
⊙ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
アンカーピンの本数 ⊙ 標準 ・（ ）
材料 ⊙ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・（ ）

(4.3.5)(6) (4.3.12)(4.4.10) (図4.3.2)
・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
アンカーピンの本数び注入口の数 ・ 標準 ・（ ）
材料 ・ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・（ ）

(4.3.5)(6) (4.3.13)(4.4.11) (図4.3.2)
・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
アンカーピンの本数び注入口の数 ・ 標準 ・（ ）
材料 ・ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・（ ）

(4.3.5)(7) (4.3.14)(4.4.12) (図4.3.3)
・ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
注入口付アンカーピンの本数 ・ 標準 ・（ ）
材料 ・ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・（ ）
呼び径 ・ 6mm ・（ ）

(4.3.5)(7) (4.3.15)(4.4.13) (図4.3.4)
・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
注入口付アンカーピンの本数及び注入口の数 ・ 標準 ・（ ）
材料 ・ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・（ ）
呼び径 ・ 6mm ・（ ）

(4.3.5)(7) (4.3.16)(4.4.14) (図4.3.4)
・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
注入口付アンカーピンの本数及び注入口の配置 ・ 標準 ・（ ）
材料 ・ ポリマーセメントスラリー（ ）
・ 注入口付アンカーピン（ ・ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・（ ））
呼び径 ・ 6mm ・（ ）

(4.4.5)(4) (4.4.7)
・ タイル部分張替え工法
張替え材料 ・ ポリマーセメントモルタル
・ 接着剤（一液反応硬化形変成シリコーン樹脂） ・（ ）

施工箇所	形状	寸法	耐滑り性	標準・特注色の別	耐凍害性の有無

・ 役物（ ・ 一体成形 ・ 接着加工）
・ 試験張り ・ 行う ・ 行わない
・ 見本焼き ・ 行う ・ 行わない
・ 既調合モルタル ・ 使用する ・ 使用しない

(4.4.5)(4) (4.4.8) (表4.4.5)
・ タイル張替え工法

タイルの種類	タイルの大きさ	工法	塗り厚(mm)
・ 外装 タイル	小口平 二丁掛 100角	・ 密着張り	5～8
		・ 改良圧着張り	下地側 4～6 タイル側 1～3
・ ユニットタイル	50二丁以下	・ マスク張り	3～4
		・ モザイクタイル貼り	3～5

(4.4.15)
・ 注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法
注入口付アンカーピンの本数（ 本）

(4.4.5)(5) (4.4.16)
・ 目地ひび割れ部改修工法
・ 伸縮調整目地改修工法
伸縮調整目地
（位置 寸法 × ）
検査 シーリング接着性試験
・ 行う（ ・ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験）

④ 塗り仕上げ

(4.5.2) (表4.5.1(その1)) (その2))

種 類	呼び名	仕上げ形状	工法
薄付け仕上塗材	⊙ 外装薄塗材Ｅ	⊙ 砂壁状 ・ ゆず肌状	吹付け
		・ 平たん状 ・ 凹凸状	こて
		・ ゆず肌状 ・ さざ波状	ローラー
		・着色骨材砂壁状	・ 吹付け ・ こて
	・（ ）	・（ ）	・（ ）
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材Ｃ	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け
		・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し ・ 掻き落とし	こて
	・ 外装厚塗材Si ・ 外装厚塗材Ｅ	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け
		・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し	・こて ・ローラー
複層仕上塗材	⊙ 複層塗材Ｅ ・ 複層塗材RE ・ 防水形複層塗材Ｅ ・ 防水形複層塗材RE	・ ゆず肌状	ローラー
		・ 凸部処理 ⊙ 凹凸状	吹付け
	・（ ）	・（ ）	・（ ）
可とう形改修用仕上塗材	・ 可とう形改修塗材Ｅ ・ 可とう形改修塗材RE ・ 可とう形改修塗材CE	・ 平たん状 ・ さざ波状	ローラー
		・ ゆず肌状	吹付け

・ 外装厚塗Ｃの上塗材がセメントスタッコ以外の場合
材所要量（ kg／m2）

(4.6.2) (表4.6.1)
・ マスチック塗材塗り ・ Ａ種 ・ Ｂ種

(表4.5.2)
複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の上塗材の種類

樹脂種類	溶媒種類	外観・・・・
・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
・ シリカ系	・ 水系	・ 艶無
・ ポリウレタン系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
・ アクリル シリコン系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
⊙ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
	⊙ 水系	⊙ 艶有 ・ 艶無

（注） 艶無及びメタリックは、可とう形複層塗材、防水形複層塗材、及び可とう形改修塗材には適用しない。

(表4.7.1)
外壁用塗膜防水材の仕上げの形状及び工法

種類	仕上げの形状	工法	上塗材
外壁用塗膜防水材	⊙ 凹凸状 ・ 凸部処理 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状	⊙ 吹付け ・ ローラー	⊙ フッ素

(4.5.4)
既存塗膜等の除去及び下地処理

工 法	処理範囲
・ サンダー工法	
⊙ 高圧水洗工法（30～50MPa）	外壁
・ 塗膜はく離剤工法	
⊙ 水洗い工法（ ⊙ 高圧ポンプ（10～15MPa） ・ デッキブラシ ）	笠木、巾木

(4.5.5)
下地調整
⊙ C-1 ・ C-2 ・ CM-2 ・ E ・（ ）

5 建具改修工事。。。

① 改修工法 (5.1.3)
⊙ かぶせ工法
⊙ カバー工法 ・ 持出し工法 ・ ノンシール工法
⊙ 撤去工法
⊙ はつり工法 ・ 引抜き工法

② 防火戸 (5.1.4)
・ 例示仕様 ⊙ 個別認定（認定番号： A-61、70 ）
・ 自動閉鎖機構 ・ 図示（図面番号： ）

3 見本の製作 (5.1.5)
・ 製作する ・ 製作しない

4 防犯建物部品 (5.1.7)
・ 図示（図面番号： ）

5 ブラインドボックス等 (5.1.6)(3)
・ 再使用する ・ 再使用しない

⑥ アルミニウム製建具 (5.2.2) (5.2.4) (表5.2.1)
外部建具の性能等級等 ・ Ａ種 ⊙ Ｂ種 ・ Ｃ種
⊙ 枠の見込み寸法 ⊙ 70mm ・（ ）
・ 防音ドアセット、防音サッシ（等級 ）
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ（等級 ）
・ 結露水の処理方法 ・ 図示（図面番号： ）

(表5.2.2)
アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理の種別
・ 外部に面する建具（過酷な環境の屋外）
・ BA-1 ・ BA-2 ・（ ）
⊙ 外部に面する建具（一般的な環境の屋外）
⊙ BB-1 ・ BB-2 ・（ ）
・ 内部に面する建具
・ BC-1 ・ BC-2 ・（ ）

7 網戸 (5.2.3)(5)
・ 可動式 ・ 固定式
防虫網の材質
・ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス(SUS316)製
網目
・ 16メッシュ ・ 18メッシュ

8 樹脂製建具 (5.3.2)～(5.3.5) (表5.3.1)～(表5.3.3)
外部に面する樹脂製建具の性能等級等
・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種
・ 防音ドアセット、防音サッシ（等級 ）
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ（等級 ）
・ 日射熱取得性（等級 ）
ガラス ・ 複層ガラス ・（ ）
建具枠見込寸法 ・ 図示（図面番号： ）
水切り ・ 図示（図面番号： ）
ぜん板 ・ 図示（図面番号： ）
丁番 ・ 改修標準仕様書(表5.7.3)による ・ 図示（図面番号： ）

⑨ 鋼製建具 (5.4.2)
鋼製建具の性能等級
⊙ 簡易気密性ドアセット
・ 外部に面する建具の耐風圧
・ S-4 ・ S-5 ・ S-6
・ 防音ドアセット、防音サッシ（等級 ）
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ（等級 ）
・ 耐震ドアセット（等級 ）

(5.4.4)
・ H>2400又はW>950の建具
鋼板類の厚さ ・ 図示（図面番号： ） ・ 改修標準仕様書表5.4.2による

10 鋼製軽量建具 (5.5.2) (5.5.5) (5.2.2)(2) (5.5.3) (5.5.4) (5.6.3)(1) (5.2.3)(1)
鋼製軽量建具の性能等級
⊙ 簡易気密性ドアセット
・ 防音ドアセット、防音サッシ（等級 ）
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ（等級 ）
・ 耐震ドアセット（等級 ）
・ H>2400又はW>950の建具
鋼板類の厚さ ・ 図示（図面番号： ） ・ 改修標準仕様書表5.5.1による

表面仕上げ
・ 塗装
・ ビニル被覆鋼板
・ カラー鋼板
・ ステンレス鋼板（ ・ HL ・ 鏡面）
・（ ）

11 ステンレス製建具 (5.6.2) (5.4.2) (5.6.3) (5.6.4) (5.6.5)
ステンレス製建具の性能等級
・ 簡易気密性ドアセット
・ 外部に面する建具の耐風圧
・ S-4 ・ S-5 ・ S-6
・ 防音ドアセット、防音サッシ（等級 ）
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ（等級 ）
・ 耐震ドアセット（等級 ） ・ ＭＤＦ 改修標準仕様書5.7.2(2)（イ）(a)～(c) ・（ ）

材料 ・ SUS304 ・（ ）
表面仕上げ ・ HL仕上げ ・（ ）
曲げ加工 ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ

12 木製建具 (5.7.2) (5.7.3)
含水率 ・ Ａ種 ・ Ｂ種
・ フラッシュ戸 表面材 ・（ ）
厚み ・ 改修標準仕様書表5.7.6 ・（ ）
表面材の品質等 ・ 改修標準仕様書5.7.2(2)（イ）(a)～(c) ・（ ）
・ ＭＤＦ 表裏面の状態による区分 ・（ ）
曲げ強さによる区分 ・（ ）
接着剤による区分 ・（ ）
難燃性による区分 ・（ ）
・ 引戸の召合せかまちをいんろう付きとする
・ かまち戸 見込み寸法 ・ 36mm ・（ ）
かまち及び鏡板の樹種 ・（ ）
・ ふすま 見込み寸法 ・ 19.5mm ・（ ）
種別 ・ Ｉ種 ・ Ⅱ種
ふすま紙の上張り種類 ・（ ）
縁の仕上げ ・（ ）
・ 戸ぶすま 見込み寸法 ・ 30mm ・（ ）
表面材 ・（ ）
厚み ・ 改修標準仕様書表5.7.6 ・（ ）
表面材の品質等 ・ 改修標準仕様書5.7.2(2)（イ）(a)～(c) ・（ ）
・ ＭＤＦ 表裏面の状態による区分 ・（ ）
曲げ強さによる区分 ・（ ）
接着剤による区分 ・（ ）
難燃性による区分 ・（ ）
・ 引戸の召合せかまちをいんろう付きとする
上張りの種類 ・（ ）
・ 紙張り障子 見込み寸法 ・ 30mm ・（ ）
枠及びくつずりの材料 ・（ ）

13 建具用金物 (5.8.2)
金物の見え掛かり部等の材質等
⊙ 改修標準仕様書(表5.8.1)による
・ 図示（図面番号： ）

(5.8.4)
マスターキー ・ 製作する ・ 製作しない
引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要

14 自動ドア開閉装置 (5.9.2) (5.9.3) (表5.9.4) (5.9.3)(9)
駆動装置及び検出装置の性能値（ ・ 車椅子使用者用便房出入口用 ）
・ 図示（図面番号： ）

引き戸用検出装置の種類
・ 図示（図面番号： ）

凍結防止措置 ・ あり ・ なし

⑮ 自閉式上吊り引戸装置
(5.10.3)

自閉式上吊り引戸装置の性能値
⊙ 改修標準仕様書(表5.10.1)による　・（　　）

⑯ 重量シャッター
(5.11.2)

種類
・ 管理用シャッター　・ 外壁用防火シャッター
⊙ 屋内用防火シャッター　⊙ 防煙シャッター

耐風圧強度（　　Pa以上）

(5.11.2)(3)
(表5.11.1)

開閉機能
⊙ 上部電動式（手動併用）　・ 上部手動式

(5.11.2)(6)
(5.11.3)

管理用重量シャッターのシャッターケース
・ 設ける　・ 設けない
・ めっき付着量　・ Z12　・ F12　・（　　）

１７ 軽量シャッター
(5.12.2)
(表5.12.1)
(5.12.3)
(5.12.4)

開閉形式
・ 上部電動式（手動併用）　・ 手動式

耐風圧強度（　　Pa以上）

スラットの材質及び形状
・ インターロッキング形　・ オーバーラッピング形
・ めっき付着量　JIS G 3312　・ Z06　・ F06　・（　　）
JIS G 3322　・ AZ90　・（　　）

１８ オーバーヘッドドア
(5.13.2)

型式及び機構
セクション材料
・ スチールタイプ　・ アルミニウムタイプ　・ ファイバーグラスタイプ

耐風圧強度（　　Pa以上）

開閉方式
・ バランス式　・ チェーン式　・ 電動式

収納形式
・ スタンダード形　・ ローヘッド形　・ ハイリフト形　・ バーチカル形

(5.13.3)

ガイドレール
・ 溶融亜鉛めっき鋼板　・ ステンレス鋼板

⑲ 板ガラス
(5.14.2)(1)
(5.14.3)

⊙ 図示（図面番号：　A-61,66　）

⑳ ガラス留め材
(5.14.2)(2)

⊙ シーリング　・ ガスケット（　　）

㉑ ガラス溝の寸法、形状等
(5.14.3)

・ 図示（図面番号：　　）
⊙ 建具の製造所の仕様による

２２ ガラスブロック積み
(5.14.5)

ガラスブロック
表面形状、寸法、厚さ　・ 図示（図面番号：　　）
金属枠、補強材　・ 図示（図面番号：　　）

化粧カバー　・ 図示（図面番号：　　）
工法　・ 図示（図面番号：　　）
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施行計画書として提出する。

6 内装改修工事。。。

① 一般事項
(6.1.3)(2)

既存間仕切壁の撤去に伴う取り合い部分の改修範囲

改修部分	改修範囲・・
・ 天井	・ 図示（図面番号：　　）
・ 壁	・ 図示（図面番号：　　）
・ 床	・ 図示（図面番号：　　）

(6.1.3)(3)

天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い部の天井改修範囲
・ 図示（図面番号：　　）　・（　　）

(6.1.3)(5)

天井の撤去に伴う取り合い部の壁面改修
・ 図示（図面番号：　　）　・（　　）

② 既存床撤去、下地補修
(6.2.2)(1)(7)

既存床仕上げ材の除去等
浮き、欠損部等による下地モルタルの撤去
・ 行う　⊙ 行わない

(6.2.2)(1)(イ)

合成樹脂塗り床材の除去等
・ 機械的除去工法　・ 目荒し工法

(6.2.2)(3)

改修後の床の清掃範囲
⊙ 施工範囲及び施工によって汚れが生じた範囲
・（　　）

３ 既存壁撤去、下地補修
(6.3.2)

既存間仕切壁の撤去に伴う他の構造体の補修工法
・（　　）

４ 木下地等
(6.5.2)(1)(イ)
(表6.5.1)

木材の含水率（工事現場搬入時、質量比）

部材名称	種別・・
下地材	・ Ａ種　・ Ｂ種
造作材	・ Ａ種　・ Ｂ種

(6.5.2)(2)(ア)

製材
「製材の日本農林規格」による製材

部位	樹種・寸法・形状	等級	含水率	保存処理	材面の品質
下地用 針葉樹製材	・ 図示 （図面番号：　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）
造作用 針葉樹製材	・ 図示 （図面番号：　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）
広葉樹製材	・ 図示 （図面番号：　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）	・（　　）

(6.5.2)(2)(イ)
(6.5.2)(2)(ウ)
(表6.5.2)

「製材の日本農林規格」以外の製材
樹種、寸法、材面の品質、防虫処理、含水率　・ 図示（図面番号：　　）
造作材の材面の品質　・ Ａ種　・（　　）
樹種

(5.5.6)(1)～
(5.5.9)(1)

部位・・	樹種・・	県産材・・

(6.5.2)(3)(ア)

造作用集成材
「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

部位・・	品名・樹種・・	見付け材面の寸法・品質・数	厚さ
造作用集成材	・ 図示 （図面番号：　　）	・ 図示 （図面番号：　　）	
化粧ばり造作用集成材	・ 図示 （図面番号：　　）	・ 図示 （図面番号：　　）	・（　　）
化粧ばり構造用造作用集成柱	・ 図示 （図面番号：　　）		・（　　）

(6.5.2)(3)(イ)

「集成材の日本農林規格」以外の製材
樹種、寸法、見付け材面の品質　・ 図示（図面番号：　　）
含水率　・ １５%以下　・（　　）

(6.5.2)(4)(ア)

造作用単板積層材
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

部位	品名・寸法	表面の品質	防虫処理
造作用単板積層材	・ 図示 （図面番号：　　）	・（　　）	・（　　）

(6.5.2)(4)(イ)

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材
寸法、表面の品質、防虫処理　・ 図示（図面番号：　　）
含水率　・ １４%以下　・（　　）

(6.5.2)(5)

「直交集成板の日本農林規格」による直交集成板
品名、曲げ強度、種別、接着性能、樹種及び寸法　・ 図示（図面番号：　　）

(6.5.2)(6)

・ 合板等

品名（品目）	樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理等	厚さ

(6.5.3)(1)

接合具等
造作材化粧面の釘打ち　・ 隠し釘打ち　・（　　）

(6.5.3)(2)

諸金物
形状、寸法及び材質　・ 図示（図面番号：　　）

(6.5.5)(1)

・ 防腐、防蟻処理
適用部位　図示（図面番号：　　）
保存処理性能区分（　　）
薬剤の塗布等の処理方法（　　）
附属書Ａに基づく表面処理用木材保存剤　・ 適用する（　・薬剤の種類（　　）　・ 適用部材（　　））
ボード原料接着剤への防腐・防蟻処理（　　）

(6.5.5)(2)

・ 防虫処理
・ 図示（図面番号：　　）

⑤ 軽量鉄骨天井下地
(6.6.2)
(表6.6.1)
(6.6.3)

野縁等の種類
⊙ 屋内　⊙ 19形　・（　　）
⊙ 屋外　⊙ 25形　・（　　）

形式及び寸法
⊙ 屋外　⊙ 図示（図面番号：　A-54　）
・ 耐震天井　・ 図示（図面番号：　　）
・ ふところ≧3.0m　・ 改修標準仕様書(6.6.4)(8)　・ 図示（図面番号：　　）

(6.6.4)

既存埋込みインサート
⊙ 使用する　・ 使用しない
既存埋込みインサート、あと施工アンカーの確認試験
・ 行う（ 図示（図面番号：　　））　⊙ 行わない
・ 確認試験の箇所数（　　箇所）　・ 確認強度（　　）
耐震性・耐風圧性を考慮した補強
・ 図示（図面番号：　　）

⑥ 軽量鉄骨壁下地
(6.7.3)

スタッド、ランナー等の種類
⊙ 図示（図面番号：　A-19　）

⑦ ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り
(6.8.2)
(6.8.2)(1)

材料
⊙ ビニル床シート【JIS A 5705（ビニル系床材）】

種類の記号	色柄	厚さ	備考
ＦＳ	マーブル	2.0mm	一般
ＦＳ	マーブル	2.0mm	多湿

(6.8.2)(2)

・ ビニル床タイル【JIS A 5705（ビニル系床材）】

種類の記号	色柄	寸法	厚さ	備考
ＫＴ			2.0mm	

(6.8.2)(3)(ア)(イ)

・ 帯電防止床シート又は床タイル

種類	性能	寸法	厚さ	備考

(6.8.2)(3)(ウ)

・ 視覚障害者用床タイル

種類	形状	備考
ビニル床タイル	300×300×7.0mm	

(6.8.2)(3)(エ)

・ 耐動荷重性床シート

種類	厚さ	備考

(6.8.2)(3)(オ)(カ)

・ 防滑性床シート又は床タイル

種類	寸法	厚さ	備考

(6.8.2)(5)

・ ゴム床タイル

種類	色柄	寸法	厚さ	備考

(6.8.3)(1)

工法
下地　⊙ モルタル塗り　・ セルフレベリング材塗り　・ 木下地　・ その他（　　）

(6.8.3)(2)(ウ)

ビニル床シート張り
熱溶接工法　⊙ 適用する　・ 適用しない

８ カーペット敷き
(6.9.2)(1)
(表6.9.1)

・ 織じゅうたん

種別	糸の種類	パイルの形状	帯電性	品質の程度	色柄
・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種	・ そ毛 ・ 紡糸 ・（　）	・ カットパイル ・ ループパイル ・ カット、ループ併用	・ 人体帯電圧 3KV以下 ・（　　）	・（　　）	・ 無地 ・ 柄物

品質の程度欄に記載した商品名は、品質の程度を示すための参考商品名である。（以下同様）

(6.9.2)(2)
(表6.9.2)

・ タフテッドカーペット

パイルの形状	パイル長(mm)	帯電性	工法	品質の程度
・ カットパイル ・ ループパイル ・ カット、ループ併用		・ 人体帯電圧 3KV以下 ・（　　）	・ 全面接着工法 ・ グリッパー工法	・（　　）

(6.9.2)(3)
(表6.9.2)

・ タイルカーペット

種類	パイルの形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	品質の程度
	・ カットパイル ・ ループパイル	・500×500 ・（　　）	・6.5 ・（　　）	・（　　）

(6.9.2)(4)
(6.9.2)(5)

下敷き材　・ 第２種第２号、厚さ８mm　・（　　）
見切り、押え金物　・ 適用する（材質、種類及び形状　・ 図示（図面番号：　　））

(6.9.3)(3)

織じゅうたんの接合方法
・ ヒートボンド工法　・（　　）

(6.9.3)(5)

タイルカーペットの敷き方

平場	・ 市松敷き　・ 模様流し　・（　　）
階段部分	・ 市松敷き　・ 模様流し　・（　　）

９ 合成樹脂塗床
(6.10.3)(2)(ア)
(表6.10.4)
(6.10.3)(2)(イ)
(6.10.3)(3)
(表6.10.5)～
(表6.10.8)

弾性ウレタン樹脂系塗床の仕上げ種類、工程
・ 平滑仕上げ　・ 防滑仕上げ　・ つや消し仕上げ

エポキシ樹脂系塗床の仕上げ種類
・ 薄膜流しのべ仕上げ（・ 平滑　・ 防滑）　・ 厚膜流しのべ仕上げ（・ 平滑　・ 防滑）
・ 樹脂モルタル仕上げ（・ 平滑　・ 防滑）　・ 薄膜型塗床仕上げ（・ 平滑）

１０ フローリング張り
(6.11.4)
(表6.11.2)

・ 釘留め工法

材料	種別	樹種
・ フローリングボード （根太張用）		・ なら ・（　　）
・ 複合フローリング （根太張用）	・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種	

防湿処理　・ 図示（図面番号：　　）

(6.11.5)
(表6.11.5)
(表6.11.6)

・ 接着工法

材種	樹種	厚さ	大きさ
・ フローリングボード（直張用） ・ フローリングブロック（直張用） ・ 複合フローリング（直張用） ・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種	・ なら ・（　　）		

緩衝材　・ 合成樹脂発泡シート　・ 図示（図面番号：　　）

(6.11.6)

塗替え
下地調整　・（　　）
塗装
・ ウレタン樹脂ワニス塗り（１液形、Ｂ種）
・ オイルステイン塗りのうえワックス塗り
・ 生地のままワックス塗り
・（　　）

１１ 畳敷き
(6.12.2)
(表6.12.1)

種別　・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種　・ Ｄ種
・ Ｄ種の畳床　ＫＴ－（ ・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ｋ　・Ｎ ）

㉒ せっこうボード、その他ボード及び合板張り
(6.13.2)
(表6.13.1)

材種	種別	厚さ(mm)
⊙ せっこうボード		壁 ・ 9.5(準不燃) 壁 ⊙ 12.5(不燃) 天井 ・ 9.5(準不燃) 天井 ・ 12.5(不燃)
⊙ 化粧せっこうボード	⊙ トラバーチン模様	・ 9.5(不燃)　⊙ 9.5(準不燃)
	・ 木目模様	・ 9.5(不燃)　・ 9.5(準不燃)
・ ロックウール化粧吸音板	・ 普通	・ 9(　　)　・（　　）
	・ 立体模様	・ 9(　　)　・（　　）
・ けい酸カルシウム板	・ タイプⅡ0.8FK	
⊙ 化粧けい酸カルシウム板		⊙ 6.0

(6.13.3)(4)(ｲ)　合板類の張付け
⊙ A種　・ B種

(6.13.3)(6)(7)　せっこうボードの目地工法
(表6.13.5)　⊙ 継目処理　・ 突付け　・ 目透し

13　壁紙張り
(6.14.2)

施工箇所	種類	防火性能
		・ 不燃　・ 準不燃
		・ 不燃　・ 準不燃
		・ 不燃　・ 準不燃

14　モルタル塗り
(6.15.3)
(6.15.5)
(6.15.6)

モルタル　⊙ 現場調合材料　・ 既調合材料
既製目地材　・ 使用する（形状：　　）
床の目地　・ 図示（図面番号：　　）
下地処理　・ 壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mm超　図示（図面番号：　　）

15　タイル張り
(6.16.2)
(6.16.3)

伸縮調整目地
位置　・ 図示（図面番号：　　）

タイルの種類

施工箇所	工　法	種　類	形状寸法	耐滑り性	うわぐすり	役　物	標準・特注色の別	耐凍害性の有無

(6.16.3)(2)　試験張り　・ 行う　・ 行わない
見本焼き　・ 行う　・ 行わない
既調合モルタル　・ 使用できる　・ 使用できない

16　セルフレベリング材塗り
(6.17.2)
(6.17.3)

・ せっこう系　・ セメント系
塗厚（　　）mm

17　断熱材
(9.3.2)

断熱材打込み工法

種類	種別	厚さ（mm）	施工箇所
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム			
・ 押出法ポリスチレンフォーム			
・ A種硬質ウレタンフォーム			
・ フェノールフォーム			

(9.3.3)　断熱材現場発泡工法（吹付硬質ウレタンフォーム）

種類	厚さ[mm]	施工箇所
・ A種１ ⊙ A種１H ・（　　）	・（　　）	・ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所 ・（　　）

7　塗装改修工事。。。

1　材料
(7.1.3)

⊙ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・ 次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　　）

2　下地調整
(7.2.1～7.2.7)
(表7.2.1)～
(表7.2.7)

既存塗膜の除去範囲（塗り替えでＲＢ種の場合）
⊙ 図示（図面番号：　A-44、46、48　）

種別

下地	種別	ひび割れ部の補修
⊙ 木部	・ RA種　⊙ RB種　・ RC種	
⊙ 鉄鋼面	・ RA種　⊙ RB種　・ RC種	
・ 亜鉛めっき鋼面	・ RA種　・ RB種　・ RC種	
⊙ モルタル、プラスター面	・ RA種　⊙ RB種　・ RC種	⊙ 行う
・ コンクリート、ＡＬＣパネル面	・ RA種　・ RB種　・ RC種	・ 行う
・ コンクリート、押出成形セメント板面	・ RA種　・ RB種　・ RC種	・ 行う
⊙ せっこうボード、その他ボード面	・ RA種　⊙ RB種　・ RC種	

3　素地ごしらえ
(7.3.1～7.3.7)
(表7.3.1)～
(表7.3.7)

種別

下地	種別
・ 木部	・ A種　・ B種
⊙ 鉄鋼面	・ A種　・ B種　⊙ C種
・ 亜鉛めっき鋼面	・ A種　・ B種
⊙ モルタル、プラスター面	・ A種　⊙ B種
・ コンクリート、ＡＬＣパネル面	・ A種　・ B種
・ コンクリート、押出成形セメント板面	・ A種　・ B種
⊙ せっこうボード、その他ボード面	・ A種　⊙ B種

4　錆止め塗料塗り
(7.4.2)
(7.4.3)
(表7.4.3)～
(表7.4.5)

錆止め塗料種別
鉄鋼面　・ A種　⊙ B種　・ C種　・ D種　⊙ E種
亜鉛めっき鋼面　・ A種　・ B種　・ C種
錆止め塗料塗り種別
鉄鋼面　・ A種　⊙ B種　⊙ C種
亜鉛めっき鋼面　・ A種　・ B種　・ C種

5　合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)
(7.5.3～7.5.4)
(表7.5.1)～
(表7.5.3)

塗料種別　・ 1種　・（　　）
種別

下地	種別
・ 木部	・ A種　・ B種　・ C種
・ 鉄鋼面	・ A種　・ B種　・ C種
・ 亜鉛めっき鋼面	・ A種　・ B種　・ C種

6　クリヤラッカー塗り(CL)
(7.6.2)
(表7.6.1)

種別
木部　⊙ A種　・ B種

7　アクリル樹脂系非水分散形塗料(NAD)
(7.7.2)
(表7.7.1)

種別
・ A種　・ B種

8　耐候性塗料塗り(DP)
(7.8.2)～
(7.8.4)
(表7.8.1)～
(表7.8.3)

上塗り等級
⊙ 1級（フッ素系）　・ 2級（シリコン系）　・ 3級（ポリウレタン系）

下地	種別
コンクリート面及び押出成形セメント板面	・ A－1種　・ A－2種 ・ B－1種　・ B－2種 ・ C－1種　・ C－2種

9　つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)
(7.9.2)～(7.9.5)
(表7.9.1)～
(表7.9.4)

種別

下地	種別
コンクリート、モルタル、プラスター、せっこうボード、その他ボード面	・ A種　・ B種　・ C種 しみ止め（　　）
木部（屋内）	・ A種　⊙ B種　・ C種
鉄鋼面（屋内）	・ A種　⊙ B種　・ C種
亜鉛めっき鋼面（屋内）	・ A種　・ B種　・ C種

10　合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)
(7.10.2)
(表7.10.1)

種別
・ A種　⊙ B種　・ C種
しみ止め　・（　　）

11　ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)
(7.11.2)
(表7.11.1)

種別
・ A種　・ B種
工程１の着色　・ 適用する　・ 適用しない

12　ステイン塗り(OS)
(7.12.2)
(表7.12.1)

種類　・ ピグメントステイン塗り　・ オイルステイン塗り
オイルステイン塗りの工程、塗料　・（　　）

13　木材保護塗料塗り(WP)
(7.13.2)
(表7.13.1)

種別
・ A種　・ B種

8の1　耐震改修工事共通事項

（一般事項）
1 適用範囲
(8.1.1)
(8.1.2)

工事内容
・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
・ 鉄骨ブレースの設置工事
・ 柱補強工事（溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法）
・ 柱補強工事（鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法）
・ 柱補強工事（連続繊維補強工法）
・ 耐震スリット新設工事
・ 免震改修・制振改修工事

工事種別
・ 鉄筋工事（構造特記による）
⊙ あと施工アンカー工事
・ コンクリート工事（構造特記による）
・ 鉄骨工事（構造特記による）
⊙ グラウト工事
・ ~~連続繊維補強工事~~
・ ~~スリット新設工事~~
・ ~~免震改修、制振改修工事~~
⊙ 土工事及び地業工事

8の2　耐震改修工事。。。撤去工事。。。

1 既存部分の撤去等
(8.21.2)

撤去の範囲
・ 図示（図面番号：　　）
・ 新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分
⊙ 既存コンクリート撤去範囲に面する部分
・（　　）

既存設備機器、配管撤去、新設、移設等処置
本工事の範囲
・ 本工事の範囲として図示された設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分
・ 設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分は本工事の範囲としない。
・（　　）
撤去範囲　・ 図示（図面番号：　　）

2 既存構造体の撤去
(8.21.2)
(8.22.2)
(8.23.2)
(8.24.4)

既存構造体の撤去
撤去範囲　⊙ 図示（図面番号：　A-44、46、48　）
はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置

既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断

鉄筋の切断	範囲	適用
・既存鉄筋は切断せず残す	・図示（図面番号：　　） ・全ての撤去部分 ・（　　）　・適用なし	
・コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・図示（図面番号：　　） ・全ての撤去部分 ・（　　）　・適用なし	
⊙ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ⊙ 全ての撤去部分	

はつりだした鉄筋の処置
・ 鉄筋に損傷を与えないよう適切な養生を施す。
・（　　）

はつりだした鉄骨の処置
・ 発泡スチロール等で養生する。
・（　　）

（既存部分の処理）
3 既存構造体コンクリート面の目荒らし
(8.21.3)
(8.22.3)
(8.23.3)

既存構造体コンクリート面の目荒らし
目荒らし程度
・ 平均深さ2～5mmで最大深さ5～7mm程度の凹面を、打継ぎ面の15～30%程度の面積となるように施す。
・ 図示（図面番号：　　）

8の3　耐震改修工事。。。鉄筋工事。。。

1 鉄筋
(8.2.1)
(表8.2.1)

材料　改修標準仕様書(表8.2.1)による

種別	径(mm)
⊙ SD295	D16以下
⊙ SD345	D19以上
・ SD390	
・（　　）	

2 溶接金網
(8.2.2)

網目の形状、寸法及び鉄線の径

網目の形状、寸法	鉄線の径(mm)
150	6

3 加工
(8.3.2)

90°未満の折曲げの内法直径　・ 図示（図面番号：　　）

4 鉄筋の継手及び定着
(8.3.4)

	径	部位
重ね継手	⊙ Ｄ１６以下	
ガス圧接	・ Ｄ１９以上	

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ
⊙ 改修標準仕様書(8.3.4)(3)(ｱ)による
・ 図示（図面番号：　　）

継手位置
・ 各部配筋参考図による
・ 図示（図面番号：　　）

先組み工法等
・ 柱・梁主筋の継手を同一箇所に設ける

鉄筋の定着長さ
⊙ 改修標準仕様書(表8.3.4)による
・（表8.3.4）のフックありの定着長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法　図示（図面番号：　　）
・ 図示（図面番号：　　）

機械式定着工法　適用箇所（　　）　種類（　　）

帯筋組立の形、継手及び定着
・ 図示（図面番号：　　）

5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
(8.3.5)
(表8.3.6)

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ　・（　　）mm

6 各部配筋

⊙ 図示（図面番号：　S-8　）

7 ガス圧接
(8.3.8)

圧接完了後の試験
超音波探傷試験　・ 行う　・ 行わない

(現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨ブレースの設置工事等)
8 割裂補強筋
(8.21.6)
(8.22.7)

割裂補強筋の適用

種類	材料	材種	径	本数・ピッチ	適用箇所
・スパイラル筋	・鉄筋コンクリート用棒鋼 ・（　　）	・ R235 ・（　　） ・（　　）	・ 6Φ ・ 9Φ ・（　　）	スパイラルの径(mm) （　　） スパイラルのピッチ(mm) （　　）	・図示 （図面番号：　　）
・はしご筋	・鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋) ・（　　）	・ 295 ・（　　）	・ 10 ・（　　）	壁内方向筋 （　　） 壁面外方向筋 （　　）	

9 鉄筋の機械式継手及び溶接継手
(8.4.2)
(8.4.3)

・ 機械式継手
種類　（　　）　適用箇所　（　　）
性能　（　　）　鉄筋相互のあき　（　　）mm
施工完了後の継手部の試験　（　　）
不合格となった継手部への措置等　（　　）

・ 溶接継手
工法　（　　）　適用箇所　（　　）
性能　（　　）　鉄筋相互のあき　（　　）mm
溶接完了後の溶接部の試験　（　　）
不合格となった溶接部への措置等　（　　）

8の4　耐震改修工事。。。コンクリート工事。。。

（コンクリート工事一般事項）
1 コンクリートの種類及び強度
(8.1.3)
(8.1.4)

コンクリートの類別
⊙ Ⅰ類　・ Ⅱ類

普通コンクリートの設計基準強度

設計基準強度Fc [N/mm2]	適用範囲	気乾単位容積質量	スランプ
⊙ 18	⊙ 構造図参照	⊙ 2.3t/m3程度	
⊙ 21	⊙ 構造図参照	⊙ 2.3t/m3程度	

軽量コンクリートの設計基準強度

設計基準強度Fc [N/mm2]	種類	適用箇所	気乾単位容積質量	スランプ
・ 36	・ 1種 ・ 2種			
・（　　）				

(8.9.1)
(8.9.2)
(表8.9.1)

2 構造体コンクリートの仕上り
(8.1.4)
(表8.1.4)
(表8.1.5)

合板せき板を用いる場合の打放し仕上げの種別
・ A種　⊙ B種　・ C種
コンクリートの仕上りの平たんさ
・ a種　⊙ b種　・ c種

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士　第177266号
伊藤　公智

最終更新

原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

改修工事特記仕様書５

（コンクリート）

③ コンクリートの材料
(8.2.5)
(表8.2.3)

セメントの種類
⊙ 普通ポルトランドセメント
・ 高炉セメントＡ種
・ シリカセメントＡ種
・ フライアッシュセメントＡ種
・（　　）
・ 高炉セメントＢ種及びフライアッシュセメントＢ種
適用箇所　（　　）

骨材
アルカリシリカ反応性による区分
・ ＡＬ（コンクリート中のアルカリ総量を規制）
⊙ Ａ（安全と認められる骨材を使用）
なお、ＡＬで規制できない場合は、Ａとし、その試験は、施工着手前、工事中１回／６ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、請負者立ち会いのもと、試験を行う者が生コン工場のストックヤードから試料を採取して試験を行うこと。
・ 特殊な骨材の使用
・ フェロニッケルスラグ細骨材
・ 銅スラグ細骨材
・ 電気炉酸化スラグ骨材
・ 再生骨材Ｈ（普通エコセメントを使用するコンクリートに限る）

④ 混和材料
(8.2.5)

① 混和剤
混和剤の種類
⊙ 改修標準仕様書(8.2.5)(4)(a)による
・ 図示（図面番号：　　）

・ 混和材
混和材の種類
・ 改修標準仕様書(8.2.5)(4)(b)による
・ 図示（図面番号：　　）

⑤ 調合管理強度
(8.2.5)
(8.8.3)
(8.10.2)

構造体強度補正値（S）
・ ３N/mm2　・ ６N/mm2　⊙（ 改修標準仕様書 表8.2.4 による ）

6　養生
(8.7.7)

・ 普通エコセメント使用の場合の湿潤養生期間　（　　）

⑦ 型枠
(8.2.7)
(8.7.8)

材料
⊙ 複合合板（厚さ ⊙ 12mm　・（　　））
スリーブ
・ 材種（　　）　規格（　　）
型枠存置期間及び取外し
・ 普通エコセメント使用の場合の最小存置期間　（　　）

⑧ 暑中コンクリート
(8.10.2)

構造体強度補正値（S）
⊙ 6N/mm2　・（　　）

9　無筋コンクリート
(8.11.1)

コンクリートの種類
・ 普通コンクリート　・（　　）
設計基準強度
・ 18N/mm2　・（　　）
スランプ
・ 15cm　・18cm　・（　　）

（現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事、溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法）
10　コンクリートの打込み工法等
(8.21.8)
(8.23.5)

部位別のコンクリートの打設工法の指定

補強工法	打設工法	部位
現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	・流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(ｱ)及び(2)	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(ｲ)及び(3)	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・（　　）	・図示（図面番号：　　） ・（　　）
鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(ｱ)及び(2)	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(ｲ)及び(3)	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示（図面番号：　　） ・（　　）
	・（　　）	・図示（図面番号：　　） ・（　　）

(8.23.6)

柱頭柱脚の隙間部間の型枠
・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む
・（　　）

柱頭柱脚の隙間寸法
・ 図示（図面番号：　　）

打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ
・ 図示（図面番号：　　）　・ 60mm　・（　　）

① 増設壁工事後の仕上げ
(8.21.10)
(8.23.7)

⊙ 図示（図面番号：　A-37　）

8の5　耐震改修工事。。。あと施工アンカー工事

（あと施工アンカー）

① あと施工アンカーの材料
(8.2.4)
(表8.2.2)

種類
・ 金属系　セットの方式　・ 本体打込み式（　・ 改良型　・ 従来型）
径及び埋込み長さ　・ 図示（図面番号：　　）
引張耐力　・ 図示（図面番号：　　）
せん断耐力　・ 図示（図面番号：　　）
接合筋の種類・径・長さ　・ 図示（図面番号：　　）

⊙ 接着系　アンカーの種類　⊙ カプセル型回転・打撃式　・（　　）
接着剤の品質　・ 有機系　⊙ 無機系
径及び埋込み長さ　⊙ 図示（図面番号：　A-37　）
引張耐力　⊙ 図示（図面番号：　A-37　）
せん断耐力　・ 図示（図面番号：　　）
アンカー筋の種類　⊙ 図示（図面番号：　A-37　）
アンカー筋の新設壁内への定着長さ　⊙ 図示（図面番号：　A-37　）
あと施工アンカーの性能確認試験　・ 行う　⊙ 行わない

② あと施工アンカーの施工
(8.12.4)
(8.12.6)
(8.12.7)

穿孔
埋込み配管等の探査の方法
⊙ 鉄筋探知機(金属探知機)により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
・ はつり出しによる。
・（　　）

あと施工アンカーの施工確認試験　・ 実施する　⊙ 実施しない
試験方法　・ 引張試験機による引張試験　・（　　）
１ロットの単位　・ １日に施工されたものの径及び仕様ごと　・（　　）
試験の箇所数　・ １ロットに対し３本（無作為）　・（　　）
確認強度　・（　　）

（場所打ちコンクリート壁の増設工事）
3　シアコネクター

場所打ちコンクリート壁の打増部に用いる既存部とのシアコネクタ
種類　・ 金属系あと施工アンカーの異形差筋アンカー
・ 接着系あと施工アンカーの異形差筋アンカー
径[mm]　・ Ｄ１０
長さ[mm]　・ 増打壁厚－４０　・（　　）
彫込み深さ[mm]　・ ５ｄ(d: シアコネクタの径)以上　・（　　）
間隔[mm]　・ ５００×５００

シアコネクタとセパレーターの兼用　・ 兼用してもよい　・ 兼用しない　・（　　）

8の7　耐震改修工事　グラウト工事

（グラウト工事）

① モルタル及びグラウト材
(8.2.6)
(8.2.12)
(表8.2.5)
(表8.2.10)

構造体用モルタル
・ 改修標準仕様書(8.2.6)及び(8.2.12)による。
無収縮モルタル
⊙ 改修標準仕様書(8.2.12)(1)による
・（　　）
グラウト材
・ 改修標準仕様書(8.2.12)(2)による。

（現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨ブレースの設置工事等）

増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法

部位	処理方法	備考
⊙ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入 ⊙ 無収縮モルタルを注入	⊙ 寸法は図示による
・（　　）	・（　　）	・（　　）

2　既存構造体との取合部の処理方法
(8.21.9)
(8.22.7)

8の10　その他工事

① 土工事
(8.28.2)
(8.28.3)

既存杭の撤去
・ 図示（図面番号：　　）
埋戻し及び盛土の材料及び工法
・Ａ種　⊙Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種
建設発生土の処理
・処分地指定　処分地（　　）
⊙処分地未定につき相互協議する。
暫定運搬距離　・ 8km　⊙ 4km　・（　　）

山留めの撤去
・撤去（鋼矢板等の抜き跡の処理　・ 直ちに砂で充填する　・（　　））
・存置

2　地業工事
(8.28.4)

杭の施工監理
杭工事特記仕様書による。
適用基準
本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。
国土交通省告示第468号　「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」（平成28年3月4日）

施工記録
受注者は、杭の施工期間中は、１ 週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。
なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。

根拠資料
共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料（施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等）は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第３１条第４項又は第５項（第３８条においてこれらの規定を準用する場合を含む。）の規定による引渡しを受けた日から１０年とする。
また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。

試験杭及び試験擁
・ 試験杭　位置、本数及び寸法は図示(図面番号：　）による。
・ 試験擁　位置、本数及び寸法は図示(図面番号：　）による。

杭の支持層
支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ　・ 図示(図面番号：　　）　・（　　）

水平方向の位置ずれの精度
・（　　）mm以下

杭の載荷試験
試験方法　・ 鉛直載荷　・ 水平載荷　・（　　）
試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。^m
位置　・ 図示(図面番号：　）　載荷荷重　（　　kN）
報告書　・ 提出部数　2部

地盤の載荷試験
試験方法　・ 平板載荷　・（　　）
試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。^m
位置　・ 図示(図面番号：　）　載荷荷重　（　　kN）
報告書　・ 提出部数　2部

杭地業の工法、寸法
・図示（図面番号：　　）

杭頭処置
・行う　・行わない

砂利及び砂地業
範囲　・ 図示（図面番号：　　）　厚さ（mm）　・ 60　⊙（ 100 ）

捨てコンクリート地業
範囲　・ 図示（図面番号：　　）　厚さ（mm）　⊙ 50　・（　　）

9　環境配慮改修工事

① 石綿含有建材の除去工事
(9.1.1)

・ 石綿粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）
・	測定１	処理作業前	処理作業室内	計　点
・	測定２		調査対象室外部の付近	計　点
・	測定３	処理作業中	処理作業室内	計　点
・	測定４		負圧・除じん装置の排出吹出し口	出口吹出し風速1m/s以下の位置 計　点
・	測定５		処理作業室外（敷地境界）	計　点
・	測定６	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	計　点
・	測定７	処理作業後シート撤去後１週間以降	処理作業室内	計　点
・	測定８		調査対象室外部の付近	計　点

測定方法

	測定 3	測定 1,2,4,6,7,8	測定 5
メンブレンフィルタ直径(mm)	25	25	47
試料の吸引流量(L/min)	・1　・（　　）	・5　・（　　）	・10　・（　　）
試料の吸引時間(min)	・5　・（　　）	・120　・（　　）	・240　・（　　）

(9.1.3)

・ 石綿含有吹付け材の除去
除去対象範囲　・ 図示（図面番号：　　）
除去工法　・ 改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による　・（　　）
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止
・ 湿潤化　・ 固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場）　・ 中間処理（溶融又は無害化による）

(9.1.4)

・ 石綿含有保温材等の除去
除去対象範囲　・ 図示（図面番号：　　）
除去方法　・ 改修標準仕様書9.1.4(1)による　・（　　）
除去した石綿含有保温材等の処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場）　・ 中間処理（溶融又は無害化による）

(9.1.5)

・ 石綿含有成形板の除去
除去対象範囲　・ 図示（図面番号：　　）
石綿含有せっこうボードの処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場）
石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板の処分
・ 埋立処分（安定型最終処分場）　・ 中間処理（溶融又は無害化による）

(9.1.6)

⊙ 石綿含有仕上塗材の除去
除去対象範囲　⊙ 図示（図面番号：　A-44、46、48　）
除去した石綿含有仕上塗材等の処分
⊙ 埋立処分（安定型最終処分場）　⊙ 中間処理（溶融又は無害化による）
※大気汚染防止法および石綿障害予防規則に加え、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル（令和3年3月）」に基づき適切に処理すること。

⊙ 除去等作業の結果報告
除去等作業が終了したときは環境省令で定めるところにより、その結果を遅滞なく発注者に書面で報告すること。

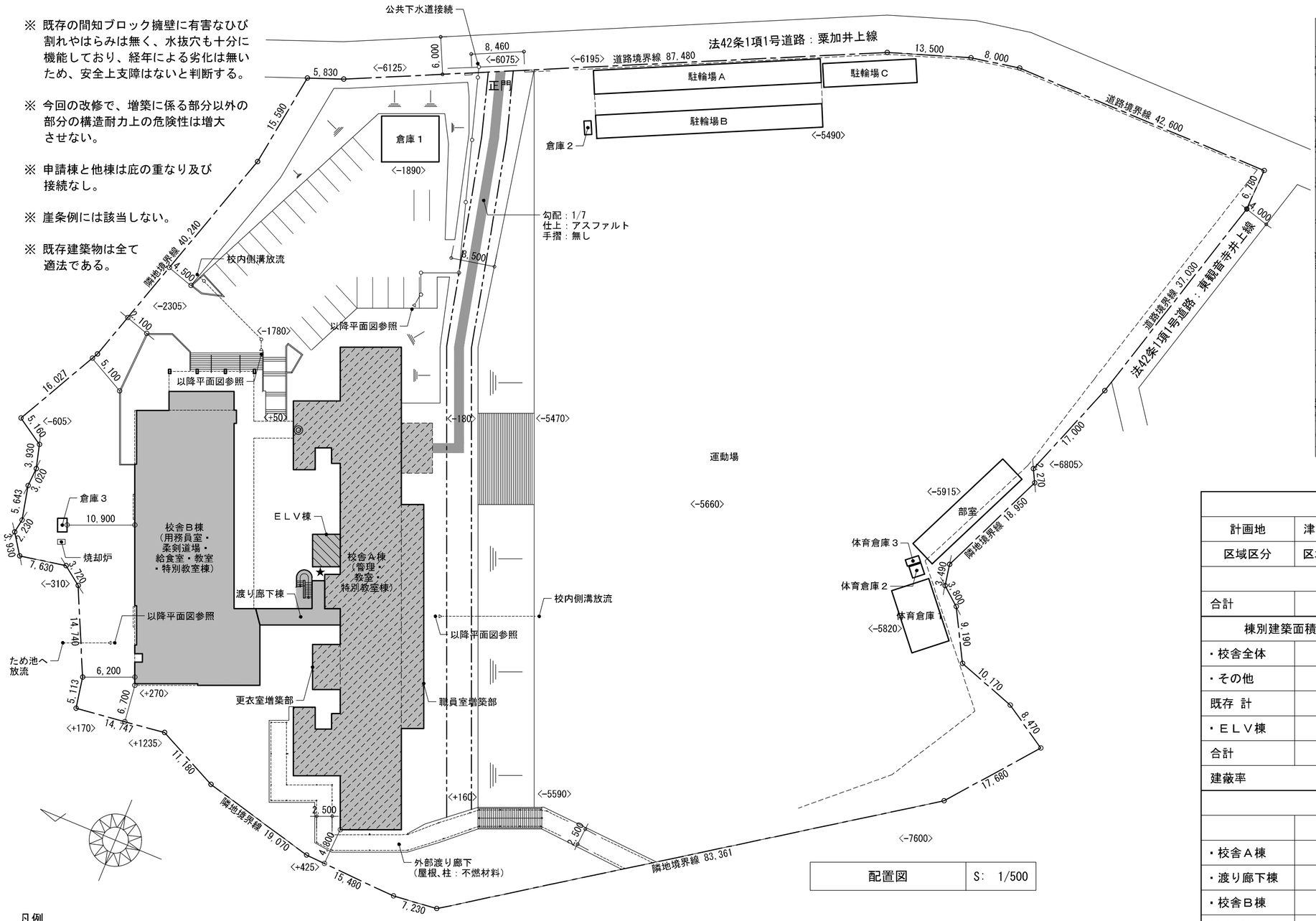
※ 既存の間知ブロック擁壁に有害なひび割れやはらみは無く、水抜穴も十分に機能しており、経年による劣化は無いため、安全上支障はないと判断する。

※ 今回の改修で、増築に係る部分以外の部分の構造耐力上の危険性は増大させない。

※ 申請棟と他棟は庇の重なり及び接続なし。

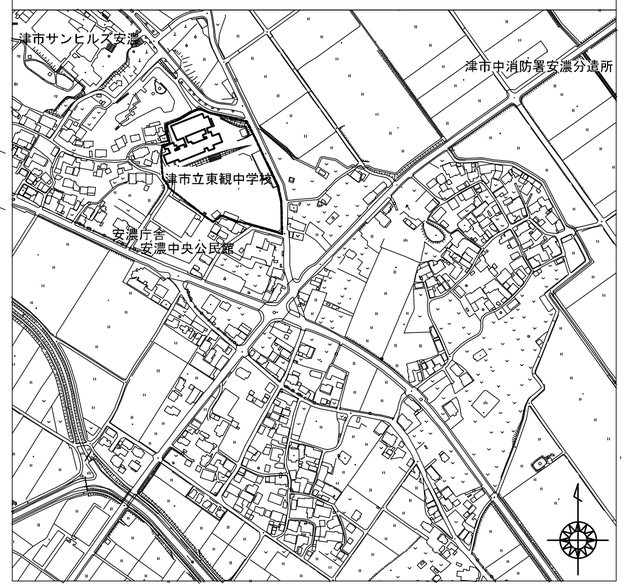
※ 崖条例には該当しない。

※ 既存建築物は全て適法である。



配置図　S: 1/500

付近見取図



凡例

- 敷地内通路(1.5m)
- 非常用進入口通路(4m)
- 増築建物を示す
- 改修建物を示す
- 申請対象建物を示す
- ★ ボーリング調査位置
- 〈±0〉 敷地レベルを示す
- ◎ KBM±0 H=0.00m

敷地概要			
計画地	津市安濃町大字東観音寺494-1	防火地域	法22条区域
区域区分	区域区分非設定都市計画区域	接道幅/長さ	6.0m / 157.41m
敷地面積（㎡）			
合計	18,489.00		

棟別建築面積（㎡）		最高高さ	最高軒高	建物の構造	耐火の別
・校舎全体	2,140.13	11.34m	10.87m	ＲＣ造	耐火
・その他	929.18	—	—	—	—
既存 計	3,069.31	—	—	—	—
・ＥＬＶ棟	23.14	11.37m	10.60m	Ｓ造	耐火
合計	3,092.45	—	—	—	—
建蔽率	16.73 / 70.00 %				

棟別床面積（㎡）	１階	２階	３階	ＰＨ	計
・校舎Ａ棟	1,082.18	908.77	908.77	—	2,899.72
・渡り廊下棟	45.92	45.92	45.92	—	137.76
・校舎Ｂ棟	838.11	709.85	717.15	—	2,265.11
校舎 計	1,966.21	1,664.54	1,671.84	—	5,302.59
・その他	929.18	0.00	0.00	—	929.18
既存 計	2,895.39	1,664.54	1,671.84	—	6,231.77
・ＥＬＶ棟	16.28	23.14	23.14	—	62.56
合計	2,911.67	1,687.68	1,694.98	—	6,294.33
・(昇降路)	8.00	8.00	8.00	—	24.00
・(備蓄倉庫)	0.00	0.00	0.00	—	0.00
延床面積	2,903.67	1,679.68	1,686.98	—	6,270.33
容積率	33.91 / 200.00 %				

その他概要

	駐輪場Ａ	駐輪場Ｂ	駐輪場Ｃ	部室	体育倉庫１	体育倉庫２	体育倉庫３	倉庫１	倉庫２	倉庫３	外部渡り廊下	その他 計
建築面積（㎡）	262.80	136.50	57.00	89.10	66.15	3.80	2.42	68.08	2.53	3.30	237.50	929.18
１階面積（㎡）	262.80	136.50	57.00	89.10	66.15	3.80	2.42	68.08	2.53	3.30	237.50	929.18
延床面積（㎡）	262.80	136.50	57.00	89.10	66.15	3.80	2.42	68.08	2.53	3.30	237.50	929.18
建物高さ（m）	2.50m	2.50m	2.90m	2.90m	3.60m	2.60m	2.40m	4.80m	2.50m	2.40m	2.40m	
建物の構造	ＲＣ・Ｓ造	Ｓ造	Ｓ造	Ｓ造	Ｓ造	軽Ｓ造	軽Ｓ造	Ｓ造	軽Ｓ造	軽Ｓ造	Ｓ造	
耐火の別	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

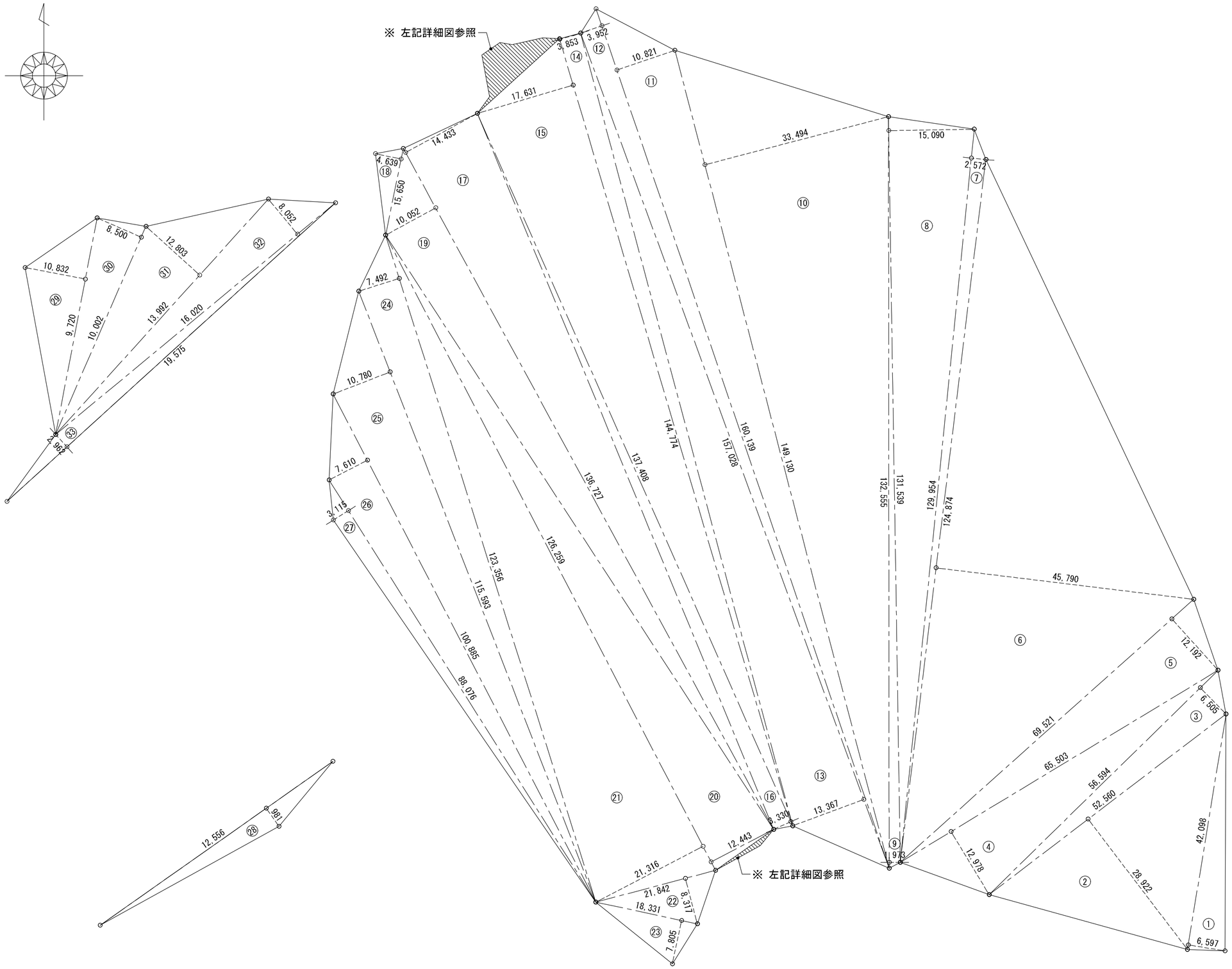
原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

配置図・付近見取図

A － 16

S: 1/500



敷地面積（㎡）					
1	42,098	×	6,597	＝	277.721
2	52,560	×	28,922	＝	1,520.140
3	56,544	×	6,505	＝	367.819
4	65,503	×	12,978	＝	850.098
5	69,521	×	12,192	＝	847.600
6	124,874	×	45,790	＝	5,717.980
7	129,954	×	2,572	＝	334.242
8	131,539	×	15,090	＝	1,984.924
9	132,555	×	1,973	＝	261.531
10	149,130	×	33,494	＝	4,994.960
11	160,139	×	10,821	＝	1,732.864
12	160,139	×	3,952	＝	632.869
13	157,028	×	13,367	＝	2,098.993
14	144,774	×	3,853	＝	557.814
15	144,774	×	17,631	＝	2,552.510
16	137,408	×	3,330	＝	457.569
17	136,727	×	14,433	＝	1,973.381
18	15,605	×	4,639	＝	72.392
19	136,727	×	10,052	＝	1,374.380
20	126,259	×	12,443	＝	1,571.041
21	126,259	×	21,316	＝	2,691.337
22	21,842	×	8,317	＝	181.660
23	18,331	×	7,805	＝	143.073
24	123,356	×	7,492	＝	924.183
25	115,593	×	10,780	＝	1,246.093
26	100,885	×	7,610	＝	767.735
27	88,076	×	3,115	＝	274.357
28	12,556	×	981	＝	12.317
29	9,720	×	10,832	＝	105.287
30	10,002	×	8,500	＝	85.017
31	13,992	×	12,803	＝	179.140
32	16,020	×	8,052	＝	128.993
33	19,575	×	2,962	＝	57.981
計（倍面積）					36,978.000
敷地面積					
	36,978.000	÷	2	＝	18,489.00

敷地面積求積図	S: 1/500

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

敷地面積求積図

A － 17

S： 1/500

外部仕上表（改修前）

校舎本体	屋根	初期防水層Ａ	防水モルタル金コテ仕上げ t=30　均しモルタル t=15 シンダーコン t=70　均しモルタル t=15 アスファルト防水 A-2　伸縮目地共	屋根	ルーフドレーン	【鋳鉄製 φ100】	外壁	外壁(耐震部)	ALC-100 複層塗材ＲＥ
					笠木Ａ	アルミ製 W=225（ＥＬＶ棟新設部分のみ撤去）		玄関幕板	ALC-50 複層塗材ＲＥ
		屋上防水Ｂ	初期防水層の上【タールウレタン系塗膜防水】		笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ		玄関柱型	化粧鋼板
		屋上防水Ｃ	初期防水層の上【ウレタン系塗膜防水 脱気筒10ヶ所】		玄関屋根	瓦棒葺き カラー鋼板 t=0.8		巾木(一般部)	防水モルタル金コテ仕上げ
		屋上防水Ｄ	初期防水層の上【ゴムシート防水 脱気筒4ヶ所】		玄関笠木	アルミ製 W=225		巾木(耐震部)	ＲＣ打放し補修
		屋上防水Ｅ	初期防水層の上 自閉樹脂塗膜防水		玄関軒天	石膏ボード t=12.5 外装薄塗材Ｅ	外部床	玄関床	フェロコン系床仕上げ
		屋上防水Ｆ	初期防水層の上 ウレタン系塗膜防水		玄関下端見切り	アルミ製		犬走り・側溝	防水モルタル金コテ仕上げ（ＥＬＶ棟新設部分のみ撤去）
		防水立上りＢ	【タールウレタン系塗膜防水】モルタル下地		竪樋	ＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000【一部：撤去】		階段	防水モルタル金コテ仕上げ
		防水立上りＣ	【ウレタン系塗膜防水】モルタル下地	庇	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	その他	壁換気パイプ	塩ビ製 φ40 防虫網付き
		防水立上りＥ	自閉樹脂塗膜防水 モルタル下地		庇裏	防水モルタル金コテ押え 外装薄塗材Ｅ		耐震壁見切り	SUS製
		防水立上りＦ	ウレタン系塗膜防水 モルタル下地	外壁	外壁(一般部)	モルタル刷毛引き 複層塗材Ｅ		フェンス	スチールネットフェンス H=1,250/550 ＶＰ
		屋上腰壁	モルタル刷毛引き 複層塗材Ｅ		外壁(耐震部)	ＲＣ打放し補修 複層塗材ＲＥ		Exp.J	SUS製
更衣室増築部	屋根	屋上防水Ｇ	シート防水 モルタル下地	外壁	外壁	モルタル金コテ押え 複層塗材Ｅ（ＲＣ/CB-150下地）	犬走り	犬走り	モルタル金コテ仕上げ
		防水立上りＧ	【シート防水】モルタル下地		笠木	アルミ製 W=225	その他	Exp.J	アルミ製 t=2.0 加工品
		コーナードレーン	【鋳鉄製 φ100】		飾り桝	塩ビ製 φ100用			
		竪樋	ＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000		巾木	モルタル金コテ仕上げ			
職員室増築部	屋根	屋根	瓦棒葺き カラーSUS t=0.6	パラペット	笠木	アルミ製 W=225	外壁	腰壁	ＲＣ打放し 複層塗材ＲＥ
		軒天	ケイカル板 t=0.8 ＶＰ		屋根幕板	ALC-50 複層塗材ＲＥ		巾木	モルタル金コテ仕上げ
		谷樋	SUS製 t=0.6		下端見切り	アルミ製	犬走り	犬走り、階段	ＲＣ金コテ押え
		竪樋	ＶＰ φ75 SUS掴み金物 @1,000	外壁	外壁	ALC-100 複層塗材ＲＥ	その他	Exp.J	SUS製

外部仕上表（改修後）

※ 表中(屋上防水、防水立上り)　《下地調整》：ポリマーセメント下地調整(ケレン掛け、清掃共)　《目地処理》：既存伸縮目地撤去の上 目地処理テープ貼り　《脱気筒共》：脱気筒SUS製 1ヶ所/50㎡

校舎本体	屋根	初期防水層Ａ	既存のまま	屋根	ルーフドレーン	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》	外壁	外壁(耐震部)	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
		屋上防水Ｂ	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(階段はX-2)		笠木Ａ	一時取外し、復旧		玄関幕板	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
		屋上防水Ｃ	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》(斜面、庇はX-2)		笠木Ｂ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》		玄関柱型	《下地調整の上 ＤＰ》
					玄関屋根	既存のまま		巾木(一般部)	《水洗い》
		屋上防水Ｄ	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》		玄関笠木	既存のまま		巾木(耐震部)	《水洗い》
		屋上防水Ｅ	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》		玄関軒天	《下地調整の上 外装薄塗材Ｅ》	外部床	玄関床	既存のまま
		屋上防水Ｆ	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(斜面はX-2)		玄関下端見切り	既存のまま		犬走り・側溝	既存のまま
		防水立上りＢ	《水洗い、下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-2)(上塗材：フッ素)》		竪樋	既存のまま《一部：カラーＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000 集水器共》		階段	既存のまま
		防水立上りＣ	《水洗い、下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-2)(上塗材：フッ素)》	庇	庇	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》	その他	壁換気パイプ	既存のまま
		防水立上りＥ	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-2)(上塗材：フッ素)》		庇裏	《高圧水洗、下地調整の上 外装薄塗材Ｅ》		耐震壁見切り	既存のまま
		防水立上りＦ	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-2)(上塗材：フッ素)》	外壁	外壁(一般部)	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》		フェンス	《ネット：張替え、支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》
		屋上腰壁	《高圧水洗、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》		外壁(耐震部)	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》		Exp.J	既存のまま
更衣室増築部	屋根	屋上防水Ｇ	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》	外壁	外壁	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	犬走り	犬走り	既存のまま
		防水立上りＧ	《水洗い、下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-2)(上塗材：フッ素)》		笠木	既存のまま	その他	Exp.J	既存のまま
		コーナードレーン	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》		飾り桝	既存のまま			
		竪樋	既存のまま		巾木	《水洗い》			
職員室増築部	屋根	屋根	既存のまま	パラペット	笠木	既存のまま	外壁	腰壁	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
		軒天	《下地調整の上 ＤＰ》		屋根幕板	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》		巾木	《水洗い》
		谷樋	既存のまま		下端見切り	既存のまま	犬走り	犬走り、階段	既存のまま
		竪樋	既存のまま	外壁	外壁	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	その他	Exp.J	既存のまま

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士　第177266号
伊藤　公智

最終更新

原図：A2
【 】内は撤去を示す。《 》内は新設を示す。
カッコ無しのものは既存のままとする。

津市立東観中学校長寿命化改修工事

仕上表１

A － 18
S： non

外部仕上表（改修後）

ＥＬＶ棟	屋根	屋上防水	《下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素) SUS脱気筒共》	ピロティ	床	《土間コン t=120 直均し仕上げ》	その他	ピット	床・壁《ケイ酸質系塗布防水(C-SUI) コンクリート打放し下地》
		防水立上り	《下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-2)(上塗材：フッ素)》	外壁	外壁	《ALCパネル t=125 下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》		断熱材	屋根裏《硬質ウレタンフォーム吹付け t=25（ノンフロン･Ａ種１Ｈ)》
		躯体縁切り	《硬質ウレタンフォーム t=10》		外壁	《ＲＣ壁 t=120 モルタル金コテ押え 下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》		耐火被覆	柱・梁《ロックウール吹付け(半乾式) t=25》
		コーナードレーン	《鋳鉄製 φ75》		笠木	《アルミ製》W=300		Exp.J	新設（詳細図参照）
		竪樋	《カラーＶＰ φ75 SUS掴み金物@900 集水器共》		下端水切り	《アルミ製》W=70		犬走り・側溝	新設（詳細図参照）
	ピロティ	天井	《防水石膏ボード t=9.5 の上 化粧ケイカル板 t=6.0》		巾木	《モルタル金コテ仕上げ》		ＲＣ舗装	一部撤去、復旧（詳細図参照）
		廻り縁	《アルミ製》W=25						

内部仕上表

※ 表内網掛部 ▨ はアスベスト含有建材を示す。

室名	改修	床	巾木	腰壁	壁	梁型	天井高	廻り縁	天井	備考
廊下	前	ビニル床シート t=2.0【一部撤去】 モルタル下地	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ H=100 【一部撤去】	—	シナベニヤ t=5.5 目透かし ＯＰ 木製下地 ▨ モルタル金コテ仕上げ ＶＰ【一部撤去】 ケイカル板 t=10 ＥＰ 石膏ボード t=12.5 鋼製下地	石膏プラスター塗り モルタル下地	3,250～3,300	—	繊維系内装塗材(パルポイド) モルタル下地	
	後	既存のまま	《下地調整の上 ＥＰ》	—	《下地調整の上 ＥＰＧ》 《下地調整の上 ＥＰ》 《下地調整の上 ＥＰ》	《下地調整の上 ＥＰ》 欠損部 樹脂モルタル補修共	3,250～3,300	—	《下地調整の上 内装薄塗材Ｅ》 (砂壁状 吹付け)	
	新設部	《ビニル床シート t=2.0 モルタル下地》	《モルタル金コテ仕上げ ＥＰ H=100》	—	《モルタル金コテ仕上げ ＥＰ》	—	3,250～3,300	—	—	
階段	前	ビニル床シート t=2.0 モルタル下地 ウレタン系塗床 モルタル下地	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ H=100	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ H=900	▨ モルタル金コテ仕上げ ＶＰ 内装薄塗材Ｅ モルタル下地	石膏プラスター塗り モルタル下地	—	—	石膏ボード t=9.5 ＶＰ 鋼製下地 リシン吹付け モルタル下地	手摺壁笠木：木製
	後	既存のまま	《下地調整の上 ＥＰ》	《下地調整の上 ＥＰ》	《下地調整の上 ＥＰ》 《下地調整の上 内装薄塗材Ｅ》	《下地調整の上 ＥＰ》 欠損部 樹脂モルタル補修共	—	—	《下地調整の上 ＥＰ》 《下地調整の上 内装薄塗材Ｅ》 (砂壁状 吹付け)	手摺壁笠木 《下地調整の上 ＯＳＣＬ》
第3学習室 1-A、B 第1学習室 2-A、B、C 教材室･E組	前	フローリングブロック t=15 ＵＣ モルタル下地	木製 ＳＯＰ H=100	—	シナベニヤ t=5.5 目透かし ＯＰ 木製下地 ▨ モルタル金コテ仕上げ ＶＰ ケイカル板 t=10 ＥＰ 石膏ボード t=12.5 鋼製下地	石膏プラスター塗り モルタル下地	3,200～3,450	—	繊維系内装塗材(パルポイド) モルタル下地	
	後	既存のまま	《下地調整の上 ＥＰＧ》	—	《下地調整の上 ＥＰＧ》 《下地調整の上 ＥＰ》 《下地調整の上 ＥＰ》	《下地調整の上 ＥＰ》 欠損部 樹脂モルタル補修共	3,200～3,450	—	《下地調整の上 内装薄塗材Ｅ》 (砂壁状 吹付け)	
ホール （ＥＬＶ棟）	新	《ビニル床シート t=2.0 モルタル下地》	《塩ビ製 H=100》	—	《石膏ボード t=12.5(一部 12.5+12.5) ＥＰ LGS-65下地》	—	2,350	《塩ビ製》	《化粧石膏ボード t=9.5 鋼製下地》	
多目的便所 （ＥＬＶ棟）	新	《ビニル床シート t=2.0 モルタル下地》	《塩ビ製 H=100》		《メラミン化粧板 t=3.0 耐水石膏ボード t=12.5(一部 12.5+12.5) / 耐水合板 t=12 LGS-65下地》	—	2,400	《塩ビ製》	《化粧石膏ボード t=9.5 鋼製下地》	

躯体の改修について(パラペット・庇・外壁)

◆躯体浮きの改修方法
- アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法（一般部：16本/㎡、25ml/穴）
- アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法（見上面、庇鼻先、マグサ隅角部：25本/㎡、25ml/穴）
  （細幅部：5本/m、25ml/穴）

◆躯体ひび割れの改修方法
- 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法（1mm未満）
- Ｕカットシール材充填工法（1mm以上）

◆躯体欠損、爆裂の改修方法
- 鉄筋防錆の上、樹脂モルタル充填

◆シーリングの改修方法
- 打継誘発目地は撤去の上新設（PU-2）
- 建具周囲、Exp.J取合い目地は撤去の上新設（MS-2）

- 浮き、ひび割れ改修等は事前に施工数量調査を行い、市監督員による確認後に施工すること。
- 塗装工事の際は、壁、天井、梁の配管類、Box、盤、その他設備機器、家具等の養生を行うこと。

- アルミサッシ、鋼製建具の撤去は、内外共にカッター入れとする。(カバー工法による改修部分を除く)
- 本工事に使用する材料は全て『Ｆ☆☆☆☆』とする。

- 新設部分及び増築部分には、石綿及びクロルピリホス含有建材は使用しない。

認定番号等
- 耐火構造（ＲＣ造）：告示第1399号（柱・梁・壁・床・屋根・階段）
- 耐火構造（Ｓ造）：告示第1399号（壁・床・屋根）　※ 壁はALCパネル t=125
- 耐火構造（Ｓ造）：FP060CN-9460（柱）、FP060BM-9408（梁）　※ 柱、梁は被覆 t=25
- １時間耐火（ＱＬデッキ）：FP060FL-9095（連続支持）、FP060FL-9101（単純指示）

認定番号等
- 不燃材料
  コンクリート、陶磁器質タイル、鉄鋼：告示第1400号
  強化石膏ボード t=12.5：NM-8615　石膏ボード t=12.5：NM-8619　メラミン化粧板 t=3.0：NM-2183
  防水石膏ボード t=12.5：NM-9639　吹付けロックウール：NM-8601　グラスウール保温板：NM-8605
  スチールパーテーション：NM-2300　ＮＡＤ：NM-8585　化粧ケイカル板：NM-8579
- 準不燃材料
  化粧石膏ボード t=9.5：QM-0524　石膏ボード t=9.5：QM-9828
  防水石膏ボード t=9.5：QM-9826　ビニルクロス：QM-9408

※ 階別収容人員
  １階：177人　２階：238人　３階：269人　建物全体：269人（従業員31人）

※ アスベスト含有建材(ＶＰ塗装下地調整塗材に含有)の撤去は、湿式集塵装置付ディスクグラインダー工法にて行うこと。

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

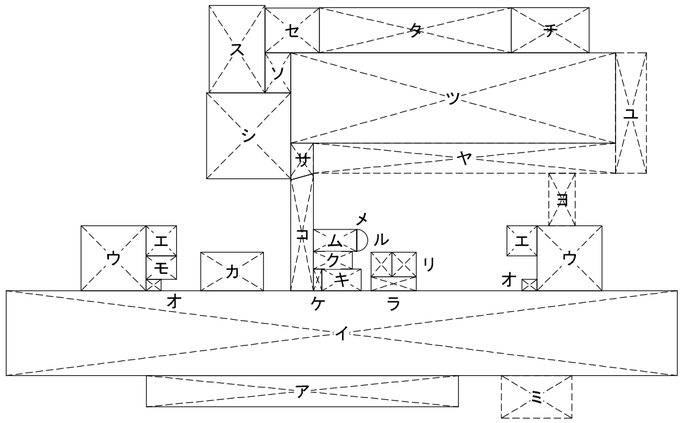
最終更新

原図：A2
【 】内は撤去を示す。《 》内は新設を示す。
カッコ無しのものは既存のままとする。

津市立東観中学校長寿命化改修工事

仕上表２

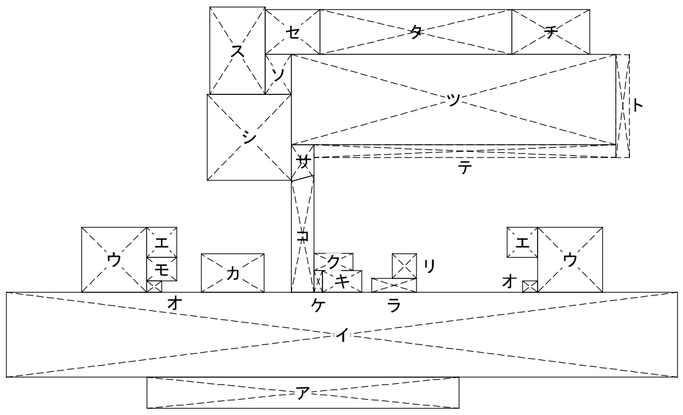
A － 19
S： non



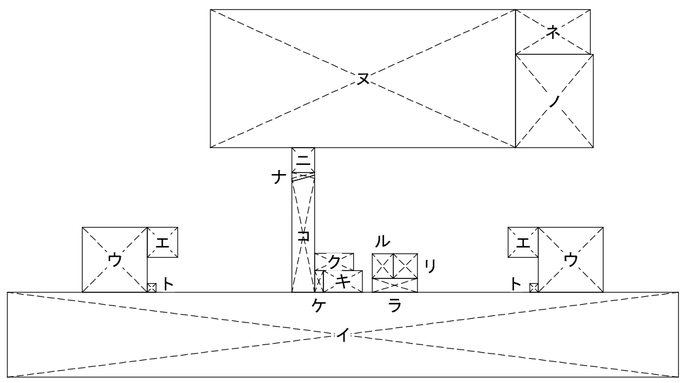
建築面積求積図

床面積求積表（㎡）																								
棟	1階							2階								3階								計
校舎A棟	ア	36,000	×	3,600	＝	129.600	イ	77,400	×	9,800	＝	758.520	イ	77,400	×	9,800	＝	758.520		
	イ	77,400	×	9,800	＝	758.520	ウ	7,500	×	7,500	＝	56.250	ウ	7,500	×	7,500	＝	56.250		
	ウ	7,500	×	7,500	＝	56.250	ウ	7,500	×	7,500	＝	56.250	ウ	7,500	×	7,500	＝	56.250		
	ウ	7,500	×	7,500	＝	56.250	エ	3,500	×	3,500	＝	12.250	エ	3,500	×	3,500	＝	12.250		
	エ	3,500	×	3,500	＝	12.250	エ	3,500	×	3,500	＝	12.250	エ	3,500	×	3,500	＝	12.250		
	エ	3,500	×	3,500	＝	12.250	キ	4,500	×	2,500	＝	11.250	キ	4,500	×	2,500	＝	11.250		
	オ	1,750	×	1,300	＝	2.275	ト	1,000	×	1,000	＝	1.000	ト	1,000	×	1,000	＝	1.000		
	オ	1,750	×	1,300	＝	2.275	ト	1,000	×	1,000	＝	1.000	ト	1,000	×	1,000	＝	1.000		
	カ	7,230	×	4,400	＝	31.812														
	キ	4,500	×	2,500	＝	11.250														
	モ	3,500	×	2,700	＝	9.450														
						1,082.18						908.77						908.77	2,899.72
渡り廊下棟	ク	4,500	×	2,000	＝	9.000	ク	4,500	×	2,000	＝	9.000	ク	4,500	×	2,000	＝	9.000		
	ケ	1,000	×	2,500	＝	2.500	ケ	1,000	×	2,500	＝	2.500	ケ	1,000	×	2,500	＝	2.500		
	コ	2,620	×	13,138	＝	34.422	コ	2,620	×	13,138	＝	34.422	ハ	2,620	×	1,350	＝	3.537		
													ヒ	2,620	×	11,788	＝	30.885		
						45.92						45.92						45.92	137.76
校舎B棟	サ	2,620	×	3,862	＝	10.118	ナ	2,620	×	662	＝	1.734	ネ	8,625	×	5,170	＝	44.591		
	シ	9,680	×	9,900	＝	95.832	ニ	2,620	×	2,895	＝	7.585	フ	2,620	×	3,647	＝	9.555		
	ス	6,420	×	10,105	＝	64.874	ヌ	35,200	×	15,905	＝	559.856	ヘ	35,480	×	16,030	＝	568.744		
	セ	6,280	×	5,170	＝	32.468	ネ	8,625	×	5,170	＝	44.591	ホ	4,240	×	10,645	＝	45.135		
	ソ	2,980	×	4,630	＝	13.797	ノ	8,950	×	10,735	＝	96.078	マ	4,710	×	10,430	＝	49.125		
	タ	22,160	×	5,185	＝	114.900														
	チ	8,965	×	5,185	＝	46.484														
	ツ	37,460	×	10,430	＝	390.708														
	テ	34,840	×	1,450	＝	50.518														
	ト	1,550	×	11,880	＝	18.414														
						838.11						709.85						717.15	2,265.11
既存校舎						1,966.21						1,664.54						1,671.84	5,302.59
ＥＬＶ棟	ラ	5,200	×	1,590	＝	8.268	ラ	5,200	×	1,590	＝	8.268	ラ	5,200	×	1,590	＝	8.268		
	リ	2,800	×	2,860	＝	8.008	リ	2,800	×	2,860	＝	8.008	リ	2,800	×	2,860	＝	8.008		
							ル	2,400	×	2,860	＝	6.864	ル	2,400	×	2,860	＝	6.864		
						16.28						23.14						23.14	62.56
校舎合計						1,982.49						1,687.68						1,694.98	5,365.15

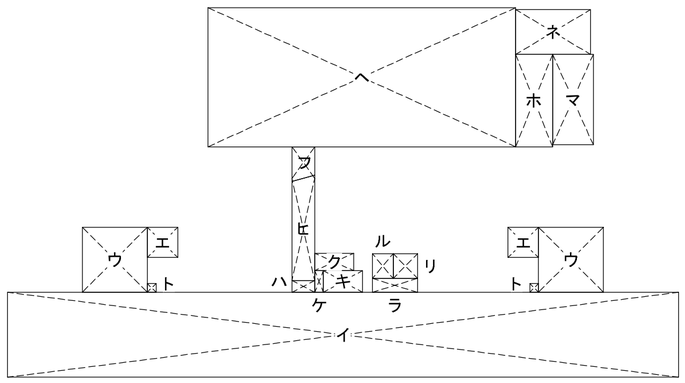
建築面積求積表（㎡）					
ア	36,000	×	3,600	＝	129.600
イ	77,400	×	9,800	＝	758.520
ウ	7,500	×	7,500	＝	56.250
ウ	7,500	×	7,500	＝	56.250
エ	3,500	×	3,500	＝	12.250
エ	3,500	×	3,500	＝	12.250
オ	1,750	×	1,300	＝	2.275
オ	1,750	×	1,300	＝	2.275
カ	7,230	×	4,400	＝	31.812
キ	4,500	×	2,500	＝	11.250
ク	4,500	×	2,000	＝	9.000
ケ	1,000	×	2,500	＝	2.500
コ	2,620	×	13,138	＝	34.422
サ	2,620	×	3,862	＝	10.118
シ	9,680	×	9,900	＝	95.832
ス	6,420	×	10,105	＝	64.874
セ	6,280	×	5,170	＝	32.468
ソ	2,980	×	4,630	＝	13.797
タ	22,160	×	5,185	＝	114.900
チ	8,965	×	5,185	＝	46.484
ツ	37,460	×	10,430	＝	390.708
テ	34,840	×	1,450	＝	50.518
ト	1,550	×	11,880	＝	18.414
既存校舎					2,140.13
ラ	5,200	×	1,590	＝	8.268
リ	2,800	×	2,860	＝	8.008
ル	2,400	×	2,860	＝	6.864
ＥＬＶ棟					23.14
校舎 計					2,163.27



１階床面積求積図



２階床面積求積図



３階床面積求積図

※ 台形部分は「上底＋下底＝長さ（平均）」として長さ×高さで計算。

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

求積図

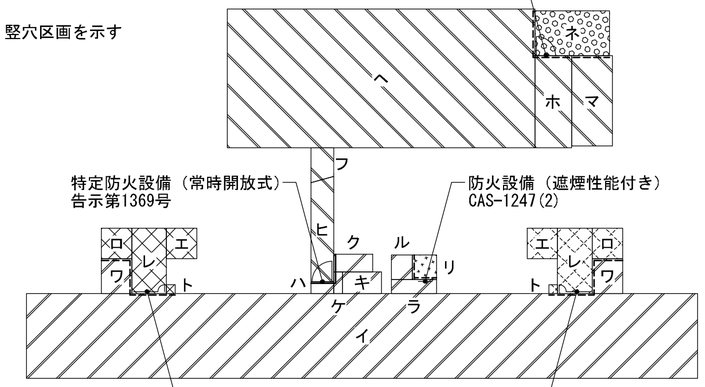
A － 20

S： 1/500

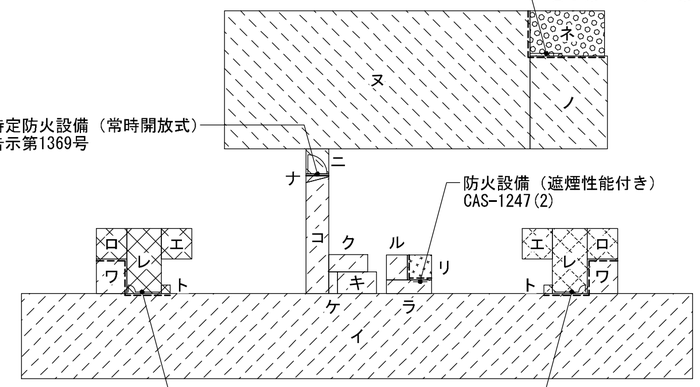
凡例

——— 面積区画を示す

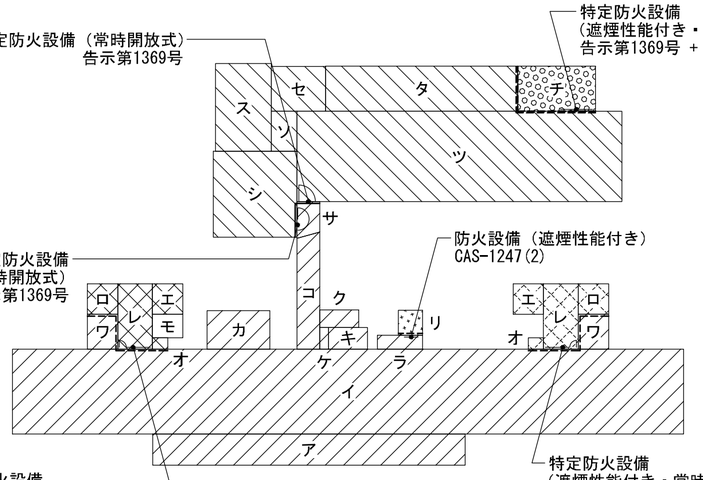
------ 竪穴区画を示す



３階区画面積求積図



２階区画面積求積図



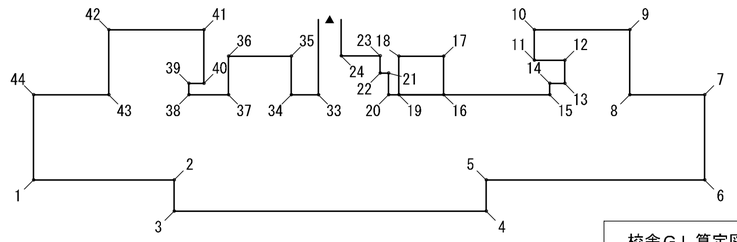
１階区画面積求積図

区画面積表（㎡）

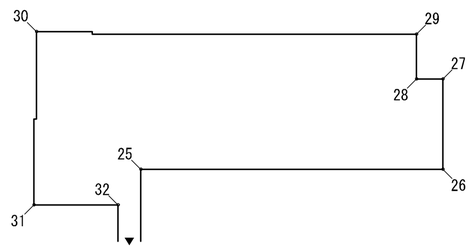
区画		1階		2階		3階	計
A	ア	36,000 × 3,600 ＝ 129.600					1,023.49
	イ	77,400 × 9,800 ＝ 758.520					
	カ	7,230 × 4,400 ＝ 31.812					
	キ	4,500 × 2,500 ＝ 11.250					
	ク	4,500 × 2,000 ＝ 9.000					
	ケ	1,000 × 2,500 ＝ 2.500					
	コ	2,620 × 13,138 ＝ 34.422					
	サ	2,620 × 3,862 ＝ 10.118					
	ラ	5,200 × 1,590 ＝ 8.268					
	ワ	3,500 × 4,000 ＝ 14.000					
	ワ	3,500 × 4,000 ＝ 14.000					
B	シ	9,680 × 9,900 ＝ 95.832					712.58
	ス	6,420 × 10,105 ＝ 64.874					
	セ	6,280 × 5,170 ＝ 32.468					
	ソ	2,980 × 4,630 ＝ 13.797					
	タ	22,160 × 5,185 ＝ 114.900					
	ツ	37,460 × 10,430 ＝ 390.708					
C			イ	77,400 × 9,800 ＝ 758.520			860.56
			キ	4,500 × 2,500 ＝ 11.250			
			ク	4,500 × 2,000 ＝ 9.000			
			ケ	1,000 × 2,500 ＝ 2.500			
			コ	2,620 × 13,138 ＝ 34.422			
			ナ	2,620 × 662 ＝ 1.734			
			ラ	5,200 × 1,590 ＝ 8.268			
			ル	2,400 × 2,860 ＝ 6.864			
			ワ	3,500 × 4,000 ＝ 14.000			
			ワ	3,500 × 4,000 ＝ 14.000			
D			ニ	2,620 × 2,895 ＝ 7.585			663.52
			ヌ	35,200 × 15,905 ＝ 559.856			
			ノ	8,950 × 10,735 ＝ 96.078			
E					イ	77,400 × 9,800 ＝ 758.520	827.94
					キ	4,500 × 2,500 ＝ 11.250	
					ク	4,500 × 2,000 ＝ 9.000	
					ケ	1,000 × 2,500 ＝ 2.500	
					ハ	2,620 × 1,350 ＝ 3.537	
					ラ	5,200 × 1,590 ＝ 8.268	
					ル	2,400 × 2,860 ＝ 6.864	
					ワ	3,500 × 4,000 ＝ 14.000	
					ワ	3,500 × 4,000 ＝ 14.000	
F					ヒ	2,620 × 11,788 ＝ 30.885	703.44
					フ	2,620 × 3,647 ＝ 9.555	
					ヘ	35,480 × 16,030 ＝ 568.744	
					ホ	4,240 × 10,645 ＝ 45.135	
					マ	4,710 × 10,430 ＝ 49.125	
G	エ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	エ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	エ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	161.78
	オ	1,750 × 1,300 ＝ 2.275	ト	1,000 × 1,000 ＝ 1.000	ト	1,000 × 1,000 ＝ 1.000	
	レ	4,000 × 7,000 ＝ 28.000	レ	4,000 × 7,000 ＝ 28.000	レ	4,000 × 7,000 ＝ 28.000	
	ロ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	ロ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	ロ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	
H	エ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	エ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	エ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	161.78
	オ	1,750 × 1,300 ＝ 2.275	ト	1,000 × 1,000 ＝ 1.000	ト	1,000 × 1,000 ＝ 1.000	
	レ	4,000 × 7,000 ＝ 28.000	レ	4,000 × 7,000 ＝ 28.000	レ	4,000 × 7,000 ＝ 28.000	
	ロ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	ロ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	ロ	3,500 × 3,500 ＝ 12.250	
I	チ	8,965 × 5,185 ＝ 46.484	ネ	8,625 × 5,170 ＝ 44.591	ネ	8,625 × 5,170 ＝ 44.591	135.67
J	リ	2,800 × 2,860 ＝ 8.008	リ	2,800 × 2,860 ＝ 8.008	リ	2,800 × 2,860 ＝ 8.008	24.02

平均地盤面算定表（mm）

点	測定高	次点	距離	次点高	見付面積
1	50	2	16,200	100	1,215,000
2	100	3	3,600	110	378,000
3	110	4	36,000	35	2,610,000
4	35	5	3,600	300	603,000
5	300	6	25,200	−100	2,520,000
6	−100	7	9,800	−195	−1,445,500
7	−195	8	8,650	170	−108,125
8	170	9	7,500	50	825,000
9	50	10	11,000	60	605,000
10	60	11	3,500	65	218,750
11	65	12	3,500	50	201,250
12	50	13	2,700	50	135,000
13	50	14	1,750	20	61,250
14	20	15	1,300	25	29,250
15	25	16	12,200	25	305,000
16	25	17	4,450	25	111,250
17	25	18	5,200	20	117,000
18	20	19	4,450	20	89,000
19	20	20	1,150	20	23,000
20	20	21	2,500	10	37,500
21	10	22	1,000	30	20,000
22	30	23	2,000	45	75,000
23	45	24	4,500	145	427,500
24	145	25	12,500	160	1,906,250
25	160	26	34,840	45	3,571,100
26	45	27	10,430	105	782,250
27	105	28	3,035	190	447,663
28	190	29	5,170	50	620,400
29	50	30	43,825	270	7,012,000
30	270	31	20,005	200	4,701,175
31	200	32	9,680	220	2,032,800
32	220	33	12,900	370	3,805,500
33	370	34	3,130	355	1,134,625
34	355	35	4,435	305	1,463,550
35	305	36	7,230	245	1,988,250
36	245	37	4,435	175	931,350
37	175	38	4,570	175	799,750
38	175	39	1,300	180	230,750
39	180	40	1,750	180	315,000
40	180	41	2,700	150	445,500
41	150	42	3,500	85	411,250
42	85	43	3,500	60	253,750
43	60	44	11,000	40	550,000
44	40	1	9,800	50	441,000
設計ＧＬ	0	周長	381.485	見付計	42,897.038
見付計 ／ 周長			112.45	平均地盤面	112



校舎ＧＬ算定図



アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

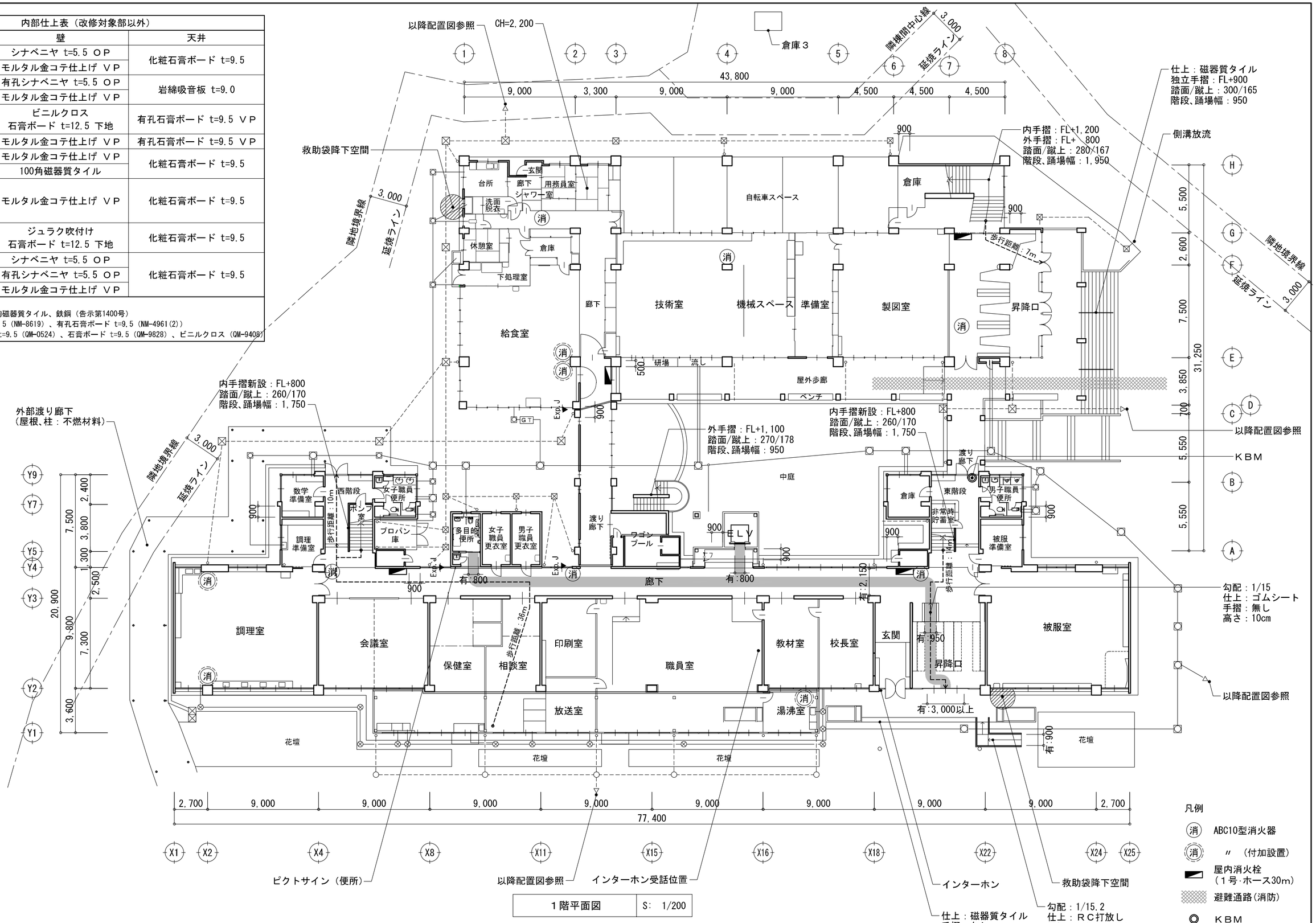
面積区画表・平均地盤面算定表

A － 21

S： 1/500

内部仕上表（改修対象部以外）		
室名	壁	天井
製図室	シナベニヤ t=5.5 ＯＰ モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	化粧石膏ボード t=9.5
放送室	有孔シナベニヤ t=5.5 ＯＰ モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	岩綿吸音板 t=9.0
校長室	ビニルクロス 石膏ボード t=12.5 下地	有孔石膏ボード t=9.5 ＶＰ
調理室、被服室	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	有孔石膏ボード t=9.5 ＶＰ
給食室	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ 100角磁器質タイル	化粧石膏ボード t=9.5
会議室、保健室、相談室、職員室、休憩室	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	化粧石膏ボード t=9.5
用務員室	ジュラク吹付け 石膏ボード t=12.5 下地	化粧石膏ボード t=9.5
技術室	シナベニヤ t=5.5 ＯＰ 有孔シナベニヤ t=5.5 ＯＰ モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	化粧石膏ボード t=9.5

認定番号等
不　燃：コンクリート、陶磁器質タイル、鉄鋼（告示第1400号）
　　石膏ボード t=12.5（NM-8619）、有孔石膏ボード t=9.5（NM-4961(2)）
準不燃：化粧石膏ボード t=9.5（QM-0524）、石膏ボード t=9.5（QM-9828）、ビニルクロス（QM-9408）

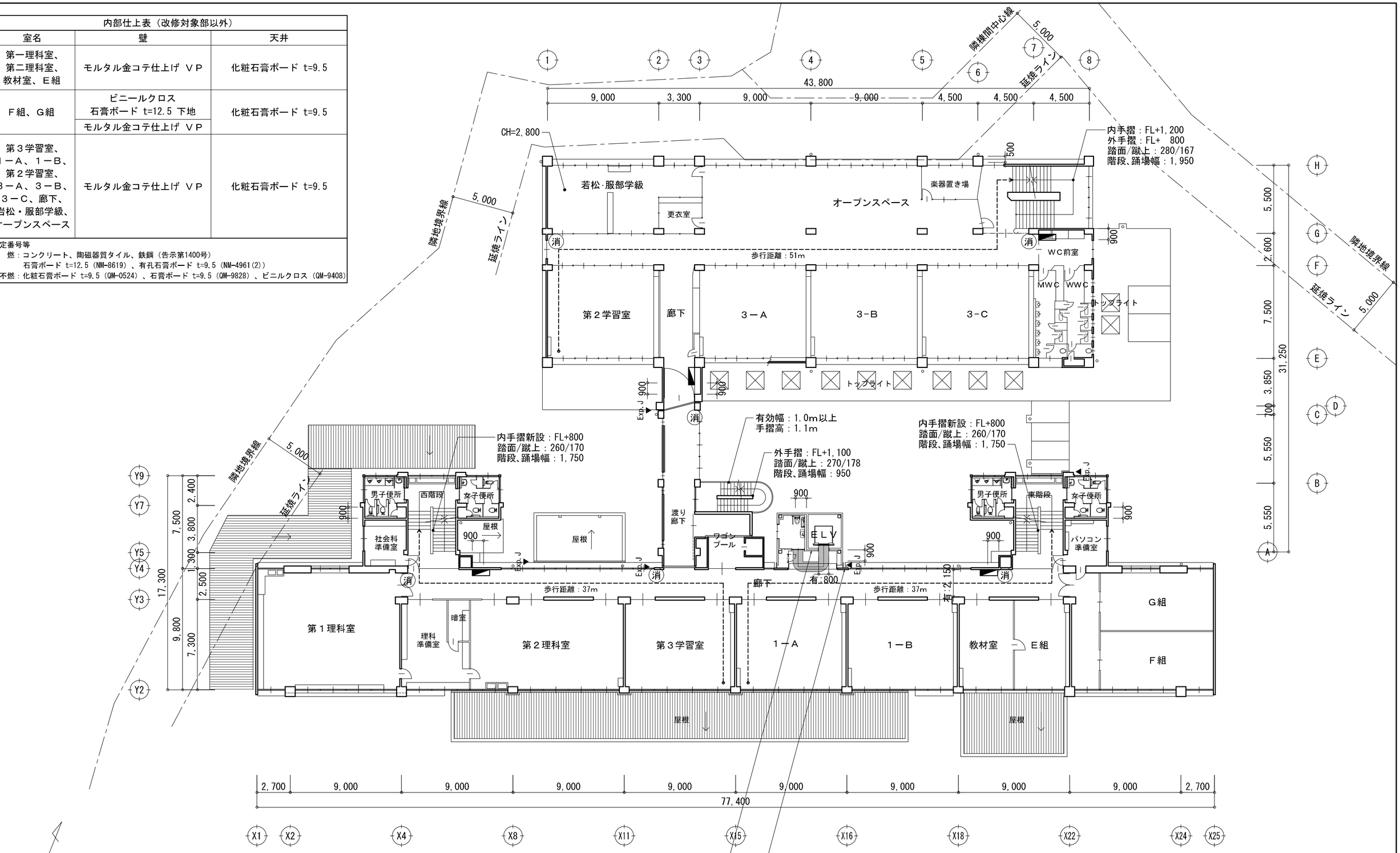


１階平面図　S: 1/200

アルテック設計	三重県津市大谷町２３３番地 TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192	一級建築士 第177266号 伊藤　公智	最終更新	原図：A2	津市立東観中学校長寿命化改修工事	１階全体平面図	A － 22 S: 1/200

内部仕上表（改修対象部以外）		
室名	壁	天井
第一理科室、第二理科室、教材室、Ｅ組	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	化粧石膏ボード t=9.5
Ｆ組、Ｇ組	ビニールクロス 石膏ボード t=12.5 下地 モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	化粧石膏ボード t=9.5
第３学習室、１－Ａ、１－Ｂ、第２学習室、３－Ａ、３－Ｂ、３－Ｃ、廊下、岩松・服部学級、オープンスペース	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	化粧石膏ボード t=9.5

認定番号等
不　燃：コンクリート、陶磁器質タイル、鉄鋼（告示第1400号）
　　石膏ボード t=12.5（NM-8619）、有孔石膏ボード t=9.5（NM-4961(2)）
準不燃：化粧石膏ボード t=9.5（QM-0524）、石膏ボード t=9.5（QM-9828）、ビニルクロス（QM-9408）



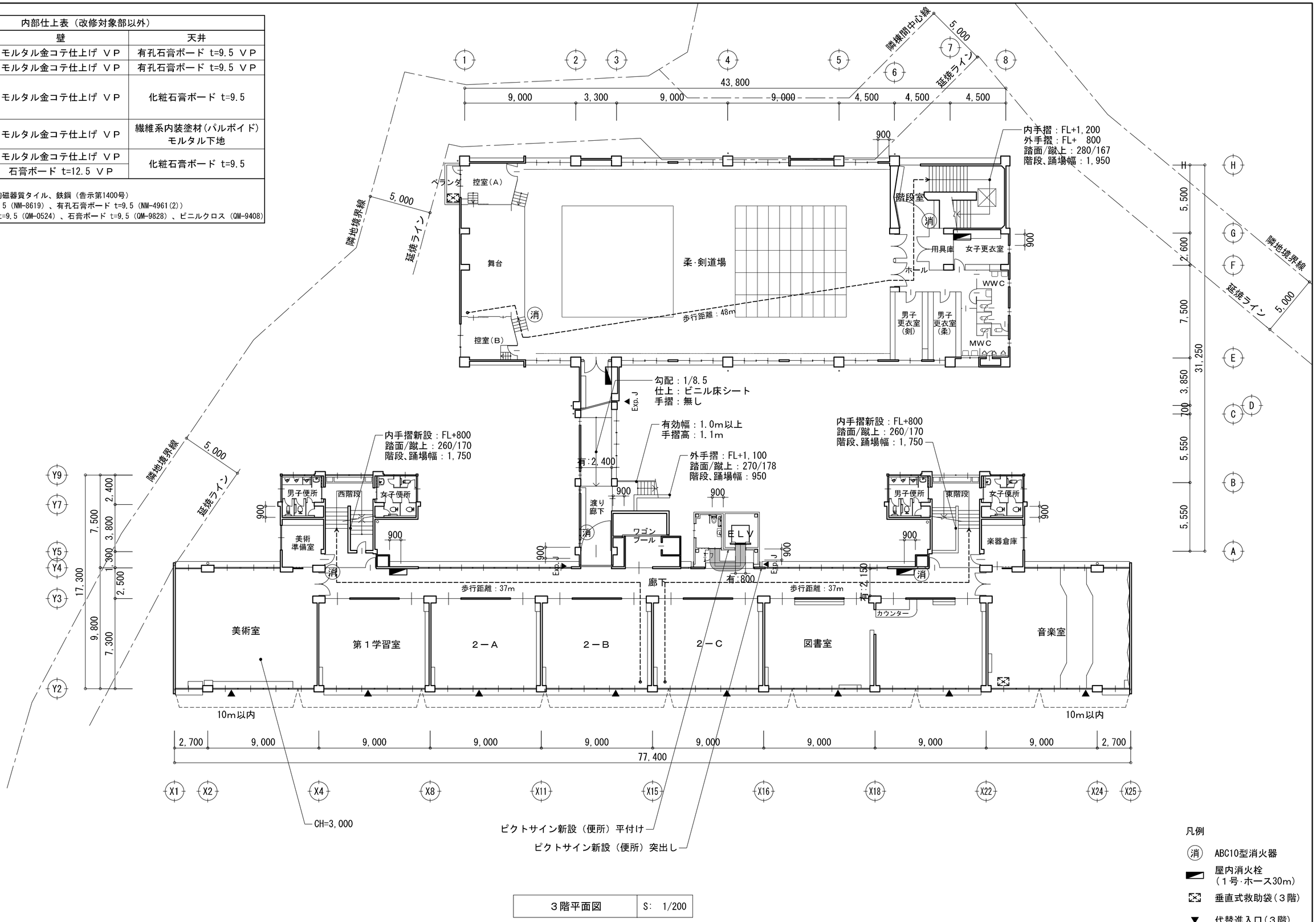
２階平面図　S: 1/200

凡例
消　ABC10型消火器
屋内消火栓（１号･ホース30m）

アルテック設計	三重県津市大谷町２３３番地 TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	最終更新	原図：A2	津市立東観中学校長寿命化改修工事	２階全体平面図	A － 23 S: 1/200

内部仕上表（改修対象部以外）		
室名	壁	天井
音楽室	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	有孔石膏ボード t=9.5 ＶＰ
美術室	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	有孔石膏ボード t=9.5 ＶＰ
第１学習室、２－Ａ、２－Ｂ、２－Ｃ	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	化粧石膏ボード t=9.5
図書室	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ	繊維系内装塗材(パルボイド) モルタル下地
柔・剣道場	モルタル金コテ仕上げ ＶＰ 石膏ボード t=12.5 ＶＰ	化粧石膏ボード t=9.5

認定番号等
不　燃：コンクリート、陶磁器質タイル、鉄鋼（告示第1400号）
　　石膏ボード t=12.5（NM-8619）、有孔石膏ボード t=9.5（NM-4961(2)）
準不燃：化粧石膏ボード t=9.5（QM-0524）、石膏ボード t=9.5（QM-9828）、ビニルクロス（QM-9408）



凡例
- 消 ABC10型消火器
- 屋内消火栓（１号･ホース30m）
- 垂直式救助袋（３階）
- ▼ 代替進入口（３階）

３階平面図	S: 1/200

アルテック設計	三重県津市大谷町２３３番地 TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	最終更新	原図：A2	津市立東観中学校長寿命化改修工事	３階全体平面図	A － 24 S: 1/200

階	室名	居室面積：A(㎡)	建具	必要採光 A/5	有効採光面積：L(㎡)	必要換気 A/20	有効換気面積：V(㎡)	必要排煙 A/50	有効排煙面積：S(㎡)
1	調理室	11.700 × 9.800 ＝ 114.660	AW-101d	22.932	1.935 × 1.200 × 3 × 3.00 ＝ 27.864	5.733	0.967 × 1.200 × 4 ＝ 4.642	2.293	0.967 × 0.500 × 4 ＝ 1.934
					1.935 × 0.300 × 4 × 3.00 ＝ 6.966		0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160		
			AW-102b		1.000 × 1.200 × 1 × 1.00 ＝ 1.200		1.000 × 0.300 × 1 ＝ 0.300		
					2.000 × 0.300 × 1 × 1.00 ＝ 0.600				
			AW-111b		0.990 × 0.980 × 1 × 1.00 ＝ 0.970		0.990 × 0.300 × 1 ＝ 0.297		
					1.980 × 0.300 × 1 × 1.00 ＝ 0.594				
			AW-401b		1.415 × 1.050 × 1 × 1.00 ＝ 1.486		0.707 × 1.050 × 1 ＝ 0.742		
					0.707 × 1.050 × 1 × 1.00 ＝ 0.742				
		A ＝ 114.660			判定 ： ＯＫ　L ＝ 33.456		判定 ： ＯＫ　V ＝ 7.141		判定 ： NG　S ＝ 1.934
	会議室	4.500 × 7.300 ＝ 32.850	AW-101f	6.570	1.935 × 1.200 × 2 × 1.00 ＝ 9.288	1.643	0.967 × 1.200 × 4 ＝ 4.642	0.657	0.967 × 0.250 × 4 ＝ 0.967
					1.935 × 0.300 × 4 × 1.00 ＝ 2.322		0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160		
		A ＝ 32.850			判定 ： ＯＫ　L ＝ 6.966		判定 ： ＯＫ　V ＝ 5.802		判定 ： ＯＫ　S ＝ 0.967
	保健室	4.500 × 10.900 ＝ 49.050	AD-301	14.092	1.873 × 2.000 × 1 × 1.00 ＝ 3.746	3.523	0.936 × 2.000 × 1 ＝ 1.872	1.409	0.936 × 0.130 × 1 ＝ 0.122
		1.350 × 3.860 ＝ 5.211			1.873 × 1.600 × 1 × 1.00 ＝ 2.997		0.936 × 1.600 × 3 ＝ 4.493		0.936 × 0.680 × 3 ＝ 1.909
		4.500 × 3.600 ＝ 16.200			1.872 × 1.600 × 2 × 1.00 ＝ 5.990				
		A ＝ 70.461			判定 ： ＯＫ　L ＝ 12.733		判定 ： ＯＫ　V ＝ 6.365		判定 ： ＯＫ　S ＝ 2.031
	相談室	4.500 × 10.900 ＝ 49.050	AW-301c	8.768	1.715 × 1.600 × 2 × 1.00 ＝ 5.488	2.192	0.857 × 1.600 × 2 ＝ 2.742	0.877	0.857 × 0.730 × 2 ＝ 1.251
		-1.350 × 3.860 ＝ -5.211							
		A ＝ 43.839			判定 ： ＯＫ　L ＝ 5.488		判定 ： ＯＫ　V ＝ 2.742		判定 ： ＯＫ　S ＝ 1.251
	放送室	4.500 × 4.500 ＝ 20.250	AW-301a	4.050	1.715 × 1.600 × 2 × 1.00 ＝ 5.488	1.013	0.857 × 1.600 × 2 ＝ 2.742	0.405	0.857 × 0.730 × 2 ＝ 1.251
		A ＝ 20.250			判定 ： ＯＫ　L ＝ 5.488		判定 ： ＯＫ　V ＝ 2.742		判定 ： ＯＫ　S ＝ 1.251
	職員室	13.500 × 10.900 ＝ 147.150	AD-302	29.430	1.720 × 2.000 × 1 × 3.00 ＝ 10.320	7.358	0.860 × 2.000 × 1 ＝ 1.720	2.943	0.860 × 0.180 × 1 ＝ 0.155
					1.720 × 0.450 × 1 × 3.00 ＝ 2.322		0.860 × 0.450 × 1 ＝ 0.387		0.860 × 0.450 × 1 ＝ 0.387
					1.720 × 1.600 × 1 × 3.00 ＝ 8.256		0.860 × 1.600 × 1 ＝ 1.376		0.860 × 0.730 × 1 ＝ 0.628
					0.860 × 1.600 × 1 × 3.00 ＝ 4.128				
			AW-302		1.573 × 1.600 × 1 × 3.00 ＝ 7.550		0.786 × 1.600 × 1 ＝ 1.258		0.786 × 0.730 × 1 ＝ 0.574
					1.572 × 1.600 × 2 × 3.00 ＝ 15.091		0.786 × 1.600 × 2 ＝ 2.515		0.786 × 0.730 × 2 ＝ 1.148
					0.786 × 1.600 × 1 × 3.00 ＝ 3.773				
		A ＝ 147.150			判定 ： ＯＫ　L ＝ 51.440		判定 ： 機械換気 690m3/h ×2		判定 ： NG　S ＝ 2.891
	校長室	4.500 × 7.300 ＝ 32.850	AW-116	6.570	0.932 × 1.200 × 1 × 3.00 ＝ 3.355	1.643	0.967 × 1.200 × 1 ＝ 1.160	0.657	0.967 × 0.250 × 1 ＝ 0.242
					0.932 × 0.300 × 2 × 3.00 ＝ 1.678		0.967 × 0.300 × 1 ＝ 0.290		
					1.935 × 1.200 × 1 × 3.00 ＝ 6.966				
					1.935 × 0.300 × 1 × 3.00 ＝ 1.742				
		A ＝ 32.850			判定 ： ＯＫ　L ＝ 13.740		判定 ： 機械換気 690m3/h ×1		判定 ： NG　S ＝ 0.242
	被服室	11.700 × 9.800 ＝ 114.660	AW-101a	22.932	1.935 × 1.200 × 4 × 1.00 ＝ 9.288	5.733	0.967 × 1.200 × 4 ＝ 4.642	2.293	0.967 × 0.250 × 4 ＝ 0.967
					1.935 × 0.300 × 4 × 1.00 ＝ 2.322		0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160		
			AW-102a		2.000 × 1.200 × 1 × 1.00 ＝ 2.400		1.000 × 1.200 × 1 ＝ 1.200		1.000 × 0.250 × 1 ＝ 0.250
					2.000 × 0.300 × 1 × 1.00 ＝ 0.600		1.000 × 0.300 × 1 ＝ 0.300		
			AW-111a		0.990 × 0.980 × 1 × 1.00 ＝ 0.970		0.990 × 0.980 × 1 ＝ 0.970		0.990 × 0.030 × 1 ＝ 0.030
					1.980 × 0.300 × 1 × 1.00 ＝ 0.594		0.990 × 0.300 × 1 ＝ 0.297		
			AW-401a		1.415 × 1.050 × 2 × 1.00 ＝ 2.972		0.707 × 1.050 × 2 ＝ 1.485		
		A ＝ 114.660			判定 ： ＯＫ　L ＝ 19.146		判定 ： ＯＫ　V ＝ 10.054		判定 ： NG　S ＝ 1.247
	給食室	3.660 × 1.700 ＝ 6.222	AW-210	19.626	1.806 × 1.060 × 3 × 1.00 ＝ 5.743	4.906	0.903 × 1.060 × 3 ＝ 2.872	1.963	
			AW-211		1.730 × 1.060 × 1 × 3.00 ＝ 5.501		0.865 × 1.060 × 1 ＝ 0.917		
					0.900 × 1.060 × 1 × 3.00 ＝ 2.862				
		9.340 × 9.840 ＝ 91.906	AW-212		1.640 × 1.060 × 5 × 1.00 ＝ 8.692		0.820 × 1.060 × 5 ＝ 4.346		
		A ＝ 98.128			判定 ： ＯＫ　L ＝ 22.798		判定 ： ＯＫ　V ＝ 8.134		判定 ： NG　S ＝ 0.000
	休憩室	3.660 × 2.700 ＝ 9.882	AW-208'	1.976	1.700 × 1.200 × 1 × 1.00 ＝ 2.040	0.494	0.850 × 1.200 × 1 ＝ 1.020	0.198	0.850 × 0.350 × 1 ＝ 0.298
		A ＝ 9.882			判定 ： ＯＫ　L ＝ 2.040		判定 ： ＯＫ　V ＝ 1.020		判定 ： ＯＫ　S ＝ 0.298
	用務員室	2.780 × 2.720 ＝ 7.562	AW-206	3.466	1.700 × 1.200 × 1 × 1.00 ＝ 2.040	0.866	0.850 × 1.200 × 1 ＝ 1.020	0.347	0.850 × 0.190 × 1 ＝ 0.162
		2.640 × 3.700 ＝ 9.768	AW-206		1.700 × 1.200 × 1 × 1.00 ＝ 2.040		0.850 × 1.200 × 1 ＝ 1.020		0.850 × 0.390 × 1 ＝ 0.332
		A ＝ 17.330			判定 ： ＯＫ　L ＝ 4.080		判定 ： ＯＫ　V ＝ 2.040		判定 ： ＯＫ　S ＝ 0.493
	技術室	14.500 × 10.100 ＝ 146.450	AD-203	29.290	1.741 × 0.900 × 2 × 1.00 ＝ 3.134	7.323	0.870 × 2.000 × 1 ＝ 1.740	2.929	0.870 × 0.480 × 2 ＝ 0.835
					1.741 × 1.100 × 2 × 1.00 ＝ 3.830		0.870 × 1.100 × 1 ＝ 0.957		
					1.741 × 0.640 × 4 × 1.00 ＝ 4.457		0.870 × 0.640 × 2 ＝ 1.114		
					0.836 × 1.100 × 1 × 1.00 ＝ 0.920				
					0.836 × 0.640 × 1 × 1.00 ＝ 0.535				
			AD-204		1.741 × 0.900 × 1 × 1.00 ＝ 1.567		0.870 × 2.000 × 1 ＝ 1.740		0.870 × 0.480 × 4 ＝ 1.670
					1.741 × 1.100 × 3 × 1.00 ＝ 5.745		0.870 × 1.100 × 3 ＝ 2.871		
					1.741 × 0.640 × 4 × 1.00 ＝ 4.457		0.870 × 0.640 × 4 ＝ 2.227		
					0.836 × 1.100 × 1 × 1.00 ＝ 0.920				
					0.836 × 0.640 × 1 × 1.00 ＝ 0.535				
			AW-204		1.741 × 1.100 × 2 × 1.00 ＝ 3.830		0.877 × 1.100 × 2 ＝ 1.929		0.877 × 0.480 × 2 ＝ 0.842
					1.741 × 0.640 × 2 × 1.00 ＝ 2.228		0.877 × 0.640 × 2 ＝ 1.123		
					0.836 × 1.100 × 1 × 1.00 ＝ 0.920				
					0.836 × 0.640 × 1 × 1.00 ＝ 0.535				
			AW-205		1.741 × 1.100 × 4 × 1.00 ＝ 7.660		0.870 × 2.000 × 4 ＝ 6.960		0.870 × 0.480 × 4 ＝ 1.670
					1.741 × 0.640 × 4 × 1.00 ＝ 4.457		0.870 × 1.100 × 4 ＝ 3.828		
					0.836 × 1.100 × 1 × 1.00 ＝ 0.920		0.870 × 0.640 × 4 ＝ 2.227		
					0.836 × 0.640 × 1 × 1.00 ＝ 0.535				
		A ＝ 146.450			判定 ： ＯＫ　L ＝ 47.185		判定 ： ＯＫ　V ＝ 26.716		判定 ： ＯＫ　S ＝ 5.018

階	室名	居室面積：A(㎡)	建具	必要採光 A/5	有効採光面積：L(㎡)	必要換気 A/20	有効換気面積：V(㎡)	必要排煙 A/50	有効排煙面積：S(㎡)
1	製図室	9.000 × 10.100 ＝ 90.900	AD-205	18.180	1.741 × 0.900 × 2 × 3.00 ＝ 9.401	4.545	0.870 × 2.000 × 2 ＝ 3.480	1.818	0.870 × 0.480 × 4 ＝ 1.670
					1.741 × 1.100 × 2 × 3.00 ＝ 11.491		0.870 × 1.100 × 2 ＝ 1.914		
					1.741 × 0.640 × 4 × 3.00 ＝ 13.371		0.870 × 0.640 × 4 ＝ 2.227		
					0.836 × 1.100 × 1 × 3.00 ＝ 2.759				
					0.836 × 0.640 × 1 × 3.00 ＝ 1.605				
			AW-202		1.755 × 1.100 × 2 × 1.00 ＝ 3.861		0.877 × 1.100 × 2 ＝ 1.929		0.877 × 0.480 × 2 ＝ 0.842
					1.755 × 0.640 × 2 × 1.00 ＝ 2.246		0.877 × 0.640 × 2 ＝ 1.123		
		A ＝ 90.900			判定 ： ＯＫ　L ＝ 42.488		判定 ： ＯＫ　V ＝ 9.551		判定 ： ＯＫ　S ＝ 2.512
2	第一理科室	11.700 × 9.800 ＝ 114.660	AW-117	22.932	1.935 × 1.200 × 3 × 3.00 ＝ 20.898	5.733	0.967 × 1.200 × 3 ＝ 3.481	2.293	0.967 × 0.300 × 3 ＝ 0.870
					1.935 × 0.300 × 3 × 3.00 ＝ 5.225		0.967 × 0.300 × 3 ＝ 0.870		
			AW-102b		1.000 × 1.200 × 1 × 3.00 ＝ 3.600				
			AW-111b		1.980 × 0.300 × 1 × 3.00 ＝ 1.782		0.990 × 0.300 × 1 ＝ 0.297		
			AW-401b		1.415 × 1.050 × 1 × 3.00 ＝ 4.457		0.707 × 1.050 × 1 ＝ 0.742		
		A ＝ 114.660			判定 ： ＯＫ　L ＝ 35.962		判定 ： 機械換気 600m3/h ×3		判定 ： NG　S ＝ 0.870
	第二理科室	12.475 × 7.300 ＝ 91.067	AW-101d	18.214	1.935 × 1.200 × 3 × 3.00 ＝ 27.864	4.553	0.967 × 1.200 × 4 ＝ 4.642	1.821	0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160
					1.935 × 0.300 × 4 × 3.00 ＝ 6.966		0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160		
			AW-110		1.935 × 0.300 × 1 × 3.00 ＝ 1.742		0.967 × 0.300 × 1 ＝ 0.290		
					0.932 × 1.200 × 2 × 3.00 ＝ 6.710				
					0.932 × 0.300 × 2 × 3.00 ＝ 1.678				
		A ＝ 91.067			判定 ： ＯＫ　L ＝ 29.605		判定 ： ＯＫ　V ＝ 6.092		判定 ： NG　S ＝ 1.160
	第3学習室 1ーA 1ーB	9.000 × 7.300 ＝ 65.700	AW-701	13.140	1.935 × 1.600 × 4 × 3.00 ＝ 37.152	3.285	0.967 × 1.600 × 4 ＝ 6.189	1.314	0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160
		A ＝ 65.700			判定 ： ＯＫ　L ＝ 37.152		判定 ： ＯＫ　V ＝ 6.189		判定 ： NG　S ＝ 1.160
	教材室 E組	4.500 × 7.300 ＝ 32.850	AW-101c	6.570	1.935 × 1.200 × 2 × 3.00 ＝ 13.932	1.643	0.967 × 1.200 × 2 ＝ 2.321	0.657	0.967 × 0.300 × 2 ＝ 0.580
					1.935 × 0.300 × 2 × 3.00 ＝ 3.483		0.967 × 0.300 × 2 ＝ 0.580		
		A ＝ 32.850			判定 ： ＯＫ　L ＝ 17.415		判定 ： ＯＫ　V ＝ 2.901		判定 ： NG　S ＝ 0.580
	F組・G組	11.700 × 9.800 ＝ 114.660	AW-101d	22.932	1.935 × 1.200 × 3 × 3.00 ＝ 27.864	5.733	0.967 × 1.200 × 4 ＝ 4.642	2.293	0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160
					1.935 × 0.300 × 4 × 3.00 ＝ 6.966		0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160		
			AW-102a		2.000 × 1.200 × 1 × 3.00 ＝ 7.200		1.000 × 1.200 × 1 ＝ 1.200		1.000 × 0.300 × 1 ＝ 0.300
			AW-111a		1.980 × 0.980 × 1 × 3.00 ＝ 5.821		0.990 × 0.980 × 1 ＝ 0.970		0.990 × 0.080 × 1 ＝ 0.079
					1.980 × 0.300 × 1 × 3.00 ＝ 1.782		0.990 × 0.300 × 1 ＝ 0.297		
			AW-401b		1.415 × 1.050 × 1 × 3.00 ＝ 4.457		0.707 × 1.050 × 1 ＝ 0.742		
		A ＝ 114.660			判定 ： ＯＫ　L ＝ 47.124		判定 ： ＯＫ　V ＝ 9.012		判定 ： NG　S ＝ 1.540
	第2学習室 3ーA 3ーB 3ーC	9.000 × 7.500 ＝ 67.500	AW-220	13.500	1.741 × 1.440 × 4 × 1.00 ＝ 10.028	3.375	0.870 × 1.440 × 4 ＝ 5.011	1.350	0.870 × 0.540 × 4 ＝ 1.879
					1.741 × 0.350 × 4 × 1.00 ＝ 2.437		0.870 × 0.350 × 4 ＝ 1.218		
					0.836 × 1.440 × 1 × 1.00 ＝ 1.204				
					0.836 × 0.350 × 1 × 1.00 ＝ 0.293				
		A ＝ 67.500			判定 ： ＯＫ　L ＝ 13.962		判定 ： ＯＫ　V ＝ 6.229		判定 ： ＯＫ　S ＝ 1.879
	若松・ 服部学級	9.000 × 5.500 ＝ 49.500	AW-220	11.606	1.741 × 1.440 × 4 × 1.00 ＝ 10.028	2.902	0.870 × 1.440 × 4 ＝ 5.011	1.161	0.870 × 0.540 × 4 ＝ 1.879
		3.300 × 2.585 ＝ 8.530			1.741 × 0.350 × 4 × 1.00 ＝ 2.437		0.870 × 0.350 × 4 ＝ 1.218		
					0.836 × 1.440 × 1 × 1.00 ＝ 1.204				
					0.836 × 0.350 × 1 × 1.00 ＝ 0.293				
			AW-221		1.540 × 1.440 × 1 × 1.00 ＝ 2.218		0.770 × 1.440 × 1 ＝ 1.109		0.770 × 0.540 × 1 ＝ 0.416
					1.540 × 0.350 × 1 × 1.00 ＝ 0.539		0.770 × 0.350 × 1 ＝ 0.270		
					0.770 × 1.440 × 1 × 1.00 ＝ 1.109				
					0.770 × 0.350 × 1 × 1.00 ＝ 0.270				
		A ＝ 58.031			判定 ： ＯＫ　L ＝ 18.097		判定 ： ＯＫ　V ＝ 7.607		判定 ： ＯＫ　S ＝ 2.295
3	美術室 音楽室	11.700 × 9.800 ＝ 114.660	AW-101a	22.932	1.935 × 1.200 × 4 × 3.00 ＝ 27.864	5.733	0.967 × 1.200 × 4 ＝ 4.642	2.293	0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160
					1.935 × 0.300 × 4 × 3.00 ＝ 6.966		0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160		
			AW-102a		2.000 × 1.200 × 1 × 3.00 ＝ 7.200		1.000 × 1.200 × 1 ＝ 1.200		1.000 × 0.300 × 1 ＝ 0.300
			AW-103		1.910 × 0.980 × 2 × 1.00 ＝ 3.744		0.955 × 0.980 × 2 ＝ 1.872		0.955 × 0.080 × 2 ＝ 0.153
					1.910 × 0.300 × 2 × 1.00 ＝ 1.146		0.955 × 0.300 × 2 ＝ 0.573		
					1.150 × 0.980 × 1 × 1.00 ＝ 1.127				
					1.150 × 0.300 × 1 × 1.00 ＝ 0.345				
			AW-111a		1.980 × 0.980 × 1 × 1.00 ＝ 1.940		0.990 × 0.980 × 1 ＝ 0.970		0.990 × 0.080 × 1 ＝ 0.079
					1.980 × 0.300 × 1 × 1.00 ＝ 0.594		0.990 × 0.300 × 1 ＝ 0.297		
		A ＝ 114.660			判定 ： ＯＫ　L ＝ 50.926		判定 ： ＯＫ　V ＝ 10.714		判定 ： NG　S ＝ 1.692
	第1学習室 2ーA 2ーB 2ーC	9.000 × 7.300 ＝ 65.700	AW-101b	13.140	1.935 × 1.200 × 3 × 3.00 ＝ 20.898	3.285	0.967 × 1.200 × 3 ＝ 3.481	1.314	0.967 × 0.100 × 3 ＝ 0.290
					1.935 × 0.300 × 4 × 3.00 ＝ 6.966		0.967 × 0.300 × 4 ＝ 1.160		
		A ＝ 65.700			判定 ： ＯＫ　L ＝ 27.864		判定 ： ＯＫ　V ＝ 4.642		判定 ： NG　S ＝ 0.290
	図書室	18.000 × 7.300 ＝ 131.400	AW-101c	26.280	1.935 × 1.200 × 8 × 3.00 ＝ 55.728	6.570	0.967 × 1.200 × 8 ＝ 9.283	2.628	0.967 × 0.100 × 8 ＝ 0.774
					1.935 × 0.300 × 6 × 3.00 ＝ 10.449		0.967 × 0.300 × 6 ＝ 1.741		
		A ＝ 131.400			判定 ： ＯＫ　L ＝ 66.177		判定 ： ＯＫ　V ＝ 11.024		判定 ： NG　S ＝ 0.774
	柔・剣道場	29.700 × 15.600 ＝ 463.320	AW-228	92.664	1.741 × 1.695 × 18 × 1.00 ＝ 53.118	23.166	0.870 × 1.695 × 18 ＝ 26.544	9.266	0.870 × 0.075 × 18 ＝ 1.175
					1.741 × 0.600 × 18 × 1.00 ＝ 18.803		0.870 × 0.600 × 18 ＝ 9.396		
			AW-229		1.755 × 1.695 × 2 × 3.00 ＝ 17.848		0.877 × 1.695 × 2 ＝ 2.973		0.877 × 0.075 × 2 ＝ 0.132
					1.755 × 0.600 × 2 × 3.00 ＝ 6.318		0.877 × 0.600 × 2 ＝ 1.052		
					0.780 × 1.695 × 2 × 3.00 ＝ 7.933				
					0.780 × 0.600 × 2 × 3.00 ＝ 2.808				
		A ＝ 463.320			判定 ： ＯＫ　L ＝ 106.828		判定 ： ＯＫ　V ＝ 39.965		判定 ： NG　S ＝ 1.306

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士　第177266号
伊藤　公智

最終更新

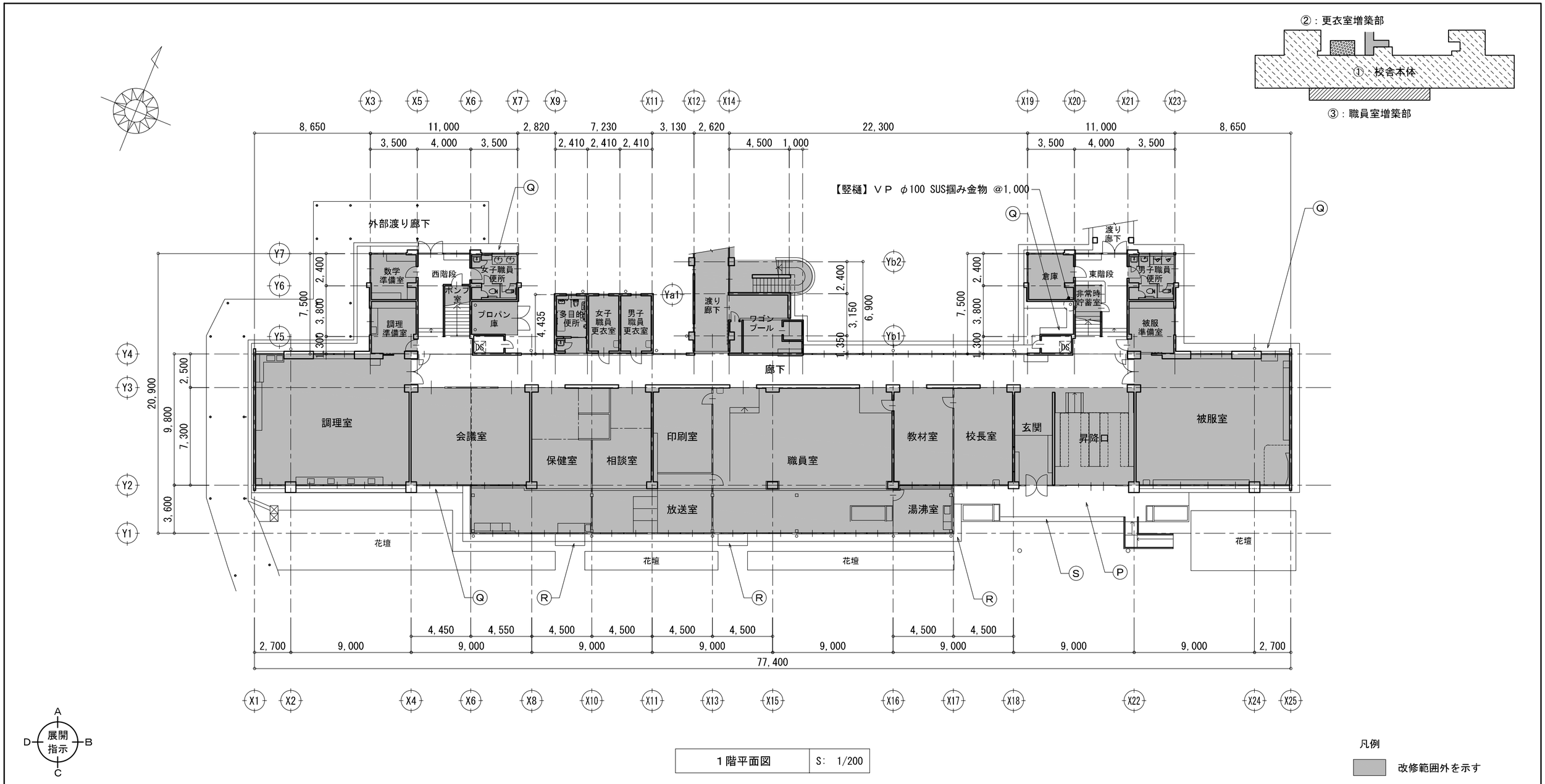
原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

法チェック表

A － 25

S： non



1階平面図	S: 1/200

凡例

改修範囲外を示す

外 部 仕 上 表

凡例	箇所	改修前	改修後
A	初期防水層 A	防水モルタル金コテ仕上げ t=30 均しモルタル t=15 シンダーコン t=70 均しモルタル t=15 アスファルト防水 A-2 伸縮目地共	
B	屋上防水Ｂ	初期防水層の上【タールウレタン系塗膜防水】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(階段はX-2)
C	屋上防水Ｃ	初期防水層の上【ウレタン系塗膜防水 脱気筒10ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》(斜面、庇はX-2)
D	屋上防水Ｄ	初期防水層の上【ゴムシート防水 脱気筒4ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》
E	屋上防水Ｅ	初期防水層の上 自閉樹脂塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
F	屋上防水Ｆ	初期防水層の上 ウレタン系塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(斜面はX-2)
G	屋上防水Ｇ	シート防水 モルタル下地	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
H	玄関屋根	瓦棒葺き カラー鋼板 t=0.8	既存のまま
I	屋根	瓦棒葺き カラーSUS t=0.6	既存のまま
J	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》
K	ルーフドレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
L	コーナードレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
M	谷樋	SUS製 t=0.6	既存のまま
N	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧
O	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》
P	玄関床	フェロコン系床仕上げ	既存のまま
Q	犬走り	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
R	犬走り、階段	ＲＣ金コテ押え	既存のまま
S	階段	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
T	Exp.J	SUS製	既存のまま
U	屋上防水	―	《下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素) SUS脱気筒共》
V	コーナードレーン	―	《鋳鉄製 φ75》
W	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
X	フェンス	スチールネットフェンス H=1,250/550 ＶＰ	《ネット：張替え》《支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》

※ 表中(屋上防水、防水立上り) 《下地調整》：ポリマーセメント下地調整(ケレン掛け、清掃共) 《目地処理》：既存伸縮目地撤去の上 目地処理テープ貼り 《脱気筒共》：脱気筒SUS製 1ヶ所/50㎡ ※ 細部は詳細図による

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

原図：A2

【 】内は撤去を示す。《 》内は新設を示す。

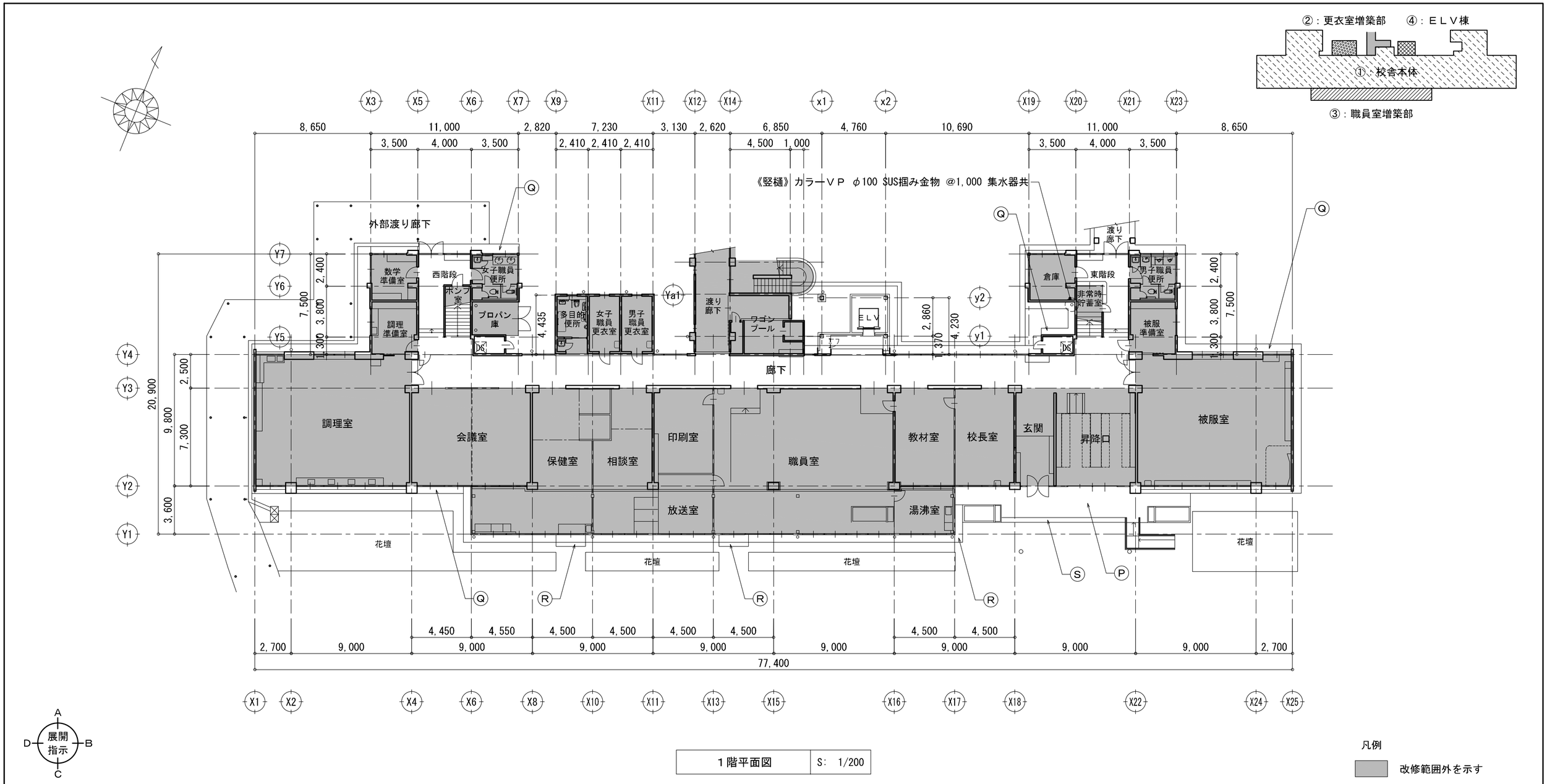
カッコ無しのものは既存のままとする。

津市立東観中学校長寿命化改修工事

1階平面図(改修前)

A － 26

S: 1/200



1階平面図	S: 1/200

凡例

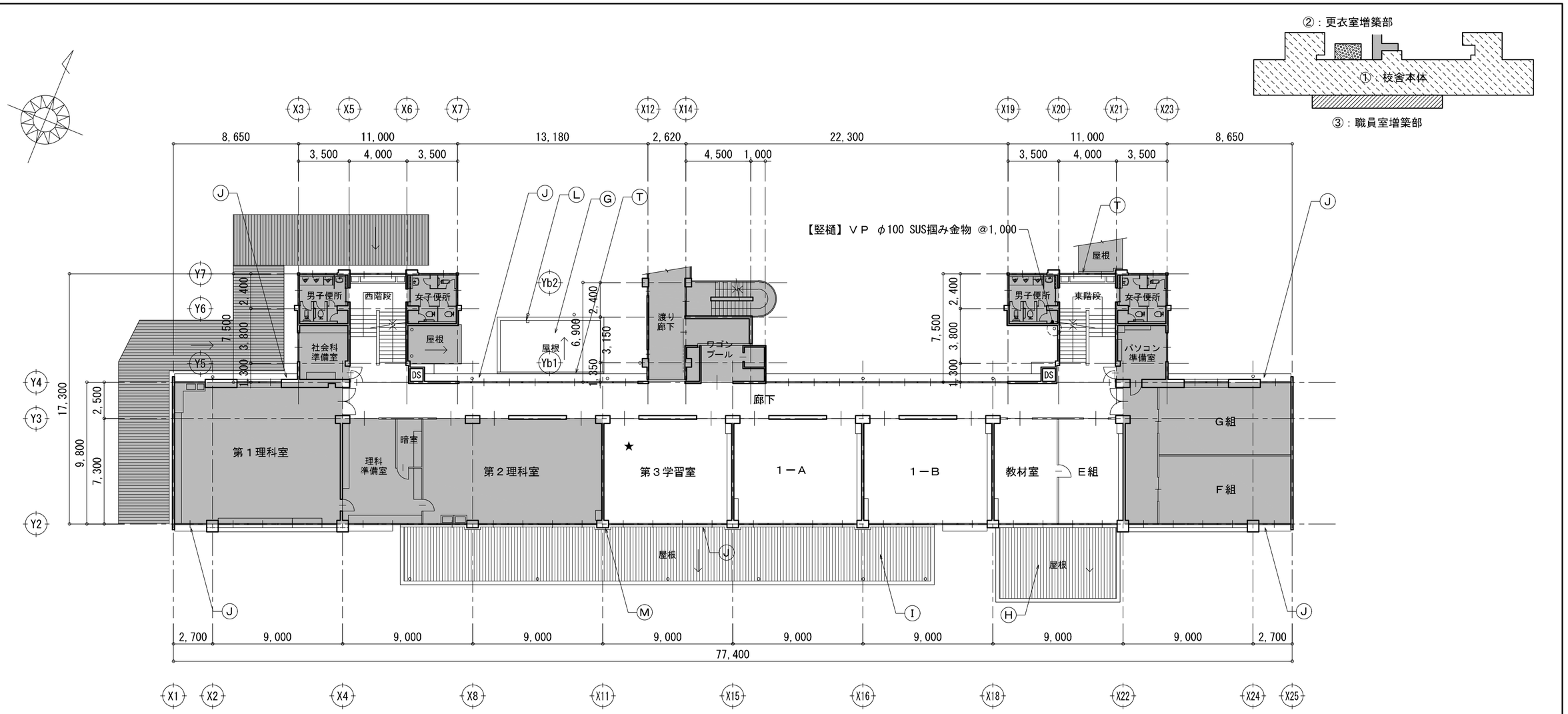
改修範囲外を示す

外 部 仕 上 表

凡例	箇所	改修前	改修後
A	初期防水層 A	防水モルタル金コテ仕上げ t=30 均しモルタル t=15 シンダーコン t=70 均しモルタル t=15 アスファルト防水 A-2 伸縮目地共	
B	屋上防水Ｂ	初期防水層の上【タールウレタン系塗膜防水】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(階段はX-2)
C	屋上防水Ｃ	初期防水層の上【ウレタン系塗膜防水 脱気筒10ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》(斜面、庇はX-2)
D	屋上防水Ｄ	初期防水層の上【ゴムシート防水 脱気筒4ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》
E	屋上防水Ｅ	初期防水層の上 自閉樹脂塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
F	屋上防水Ｆ	初期防水層の上 ウレタン系塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(斜面はX-2)
G	屋上防水Ｇ	シート防水 モルタル下地	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
H	玄関屋根	瓦棒葺き カラー鋼板 t=0.8	既存のまま
I	屋根	瓦棒葺き カラーSUS t=0.6	既存のまま
J	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》
K	ルーフドレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
L	コーナードレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
M	谷樋	SUS製 t=0.6	既存のまま
N	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧
O	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》
P	玄関床	フェロコン系床仕上げ	既存のまま
Q	犬走り	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
R	犬走り、階段	ＲＣ金コテ押え	既存のまま
S	階段	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
T	Exp.J	SUS製	既存のまま
U	屋上防水	―	《下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素) SUS脱気筒共》
V	コーナードレーン	―	《鋳鉄製 φ75》
W	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
X	フェンス	スチールネットフェンス H=1,250/550 ＶＰ	《ネット：張替え》《支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》

※ 表中(屋上防水、防水立上り) 《下地調整》：ポリマーセメント下地調整(ケレン掛け、清掃共) 《目地処理》：既存伸縮目地撤去の上 目地処理テープ貼り 《脱気筒共》：脱気筒SUS製 1ヶ所/50㎡ ※ 細部は詳細図による

アルテック設計	三重県津市大谷町２３３番地 TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	最終更新	原図：A2 【 】内は撤去を示す。《 》内は新設を示す。 カッコ無しのものは既存のままとする。	津市立東観中学校長寿命化改修工事	1階平面図(改修後)	A － 27 S: 1/200



２階平面図　S: 1/200

凡例

改修範囲外を示す

★ 化学物質濃度測定箇所を示す
改修前１ヶ所/改修後２ヶ所

外 部 仕 上 表

凡例	箇所	改修前	改修後
A	初期防水層 A	防水モルタル金コテ仕上げ t=30　均しモルタル t=15　シンダーコン t=70 均しモルタル t=15　アスファルト防水 A-2　伸縮目地共	
B	屋上防水Ｂ	初期防水層の上 【タールウレタン系塗膜防水】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(階段はX-2)
C	屋上防水Ｃ	初期防水層の上 【ウレタン系塗膜防水 脱気筒10ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》(斜面、庇はX-2)
D	屋上防水Ｄ	初期防水層の上 【ゴムシート防水 脱気筒4ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》
E	屋上防水Ｅ	初期防水層の上 自閉樹脂塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
F	屋上防水Ｆ	初期防水層の上 ウレタン系塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(斜面はX-2)

凡例	箇所	改修前	改修後
G	屋上防水Ｇ	シート防水 モルタル下地	《水洗いの上 ウレタン系 塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
H	玄関屋根	瓦棒葺き カラー鋼板 t=0.8	既存のまま
I	屋根	瓦棒葺き カラーSUS t=0.6	既存のまま
J	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》
K	ルーフドレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
L	コーナードレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
M	谷樋	SUS製 t=0.6	既存のまま
N	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧
O	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》

凡例	箇所	改修前	改修後
P	玄関床	フェロコン系床仕上げ	既存のまま
Q	犬走り	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
R	犬走り、階段	ＲＣ金コテ押え	既存のまま
S	階段	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
T	Exp.J	SUS製	既存のまま
U	屋上防水	―	《下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-1) (上塗材：フッ素) SUS脱気筒共》
V	コーナードレーン	―	《鋳鉄製 φ75》
W	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
X	フェンス	スチールネットフェンス H=1,250/550 ＶＰ	《ネット：張替え》 《支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》

※ 表中(屋上防水、防水立上り)　《下地調整》：ポリマーセメント下地調整(ケレン掛け、清掃共)　《目地処理》：既存伸縮目地撤去の上 目地処理テープ貼り　《脱気筒共》：脱気筒SUS製 1ヶ所/50㎡　※ 細部は詳細図による

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

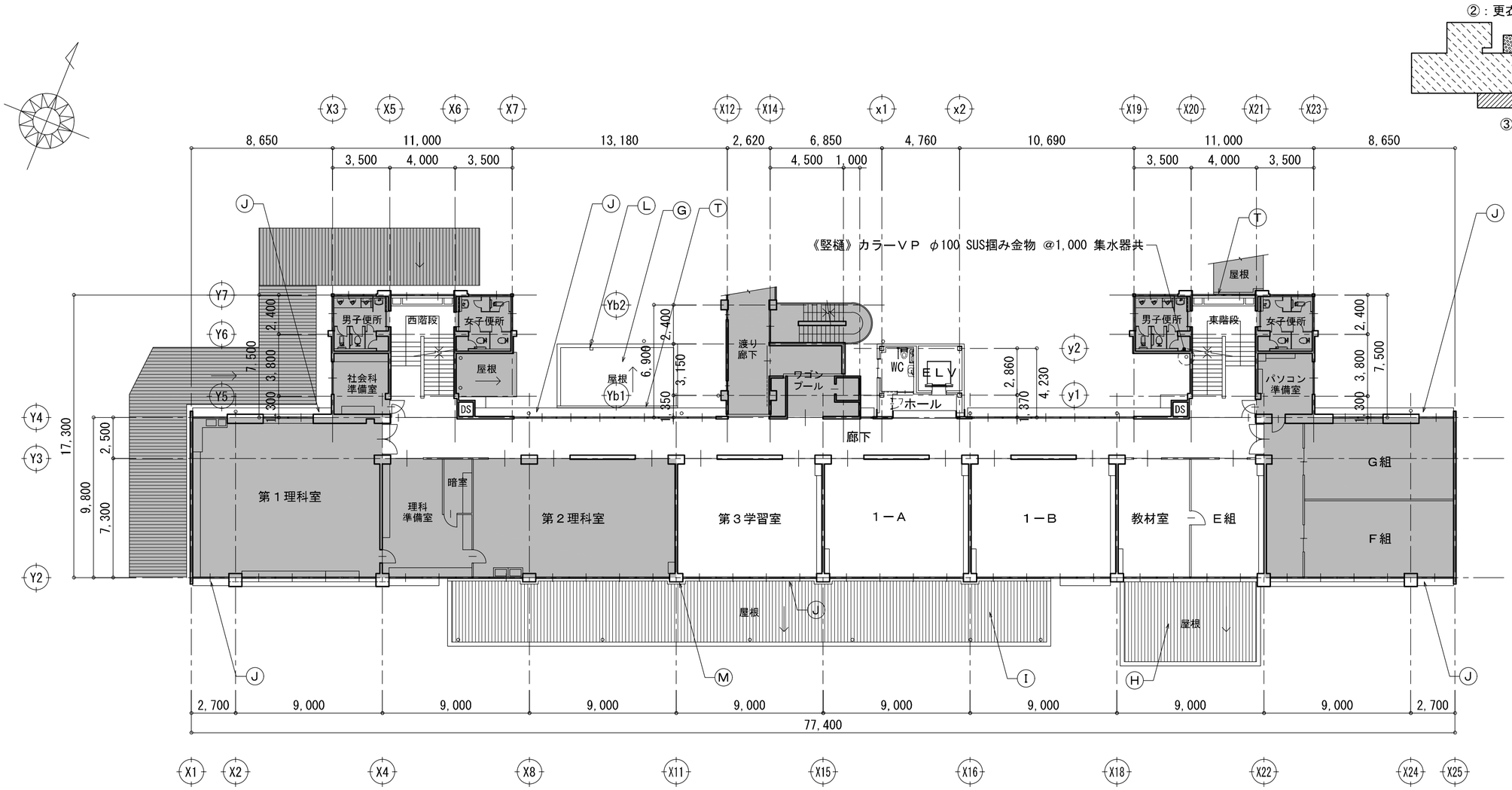
原図：A2
【 】内は撤去を示す。《 》内は新設を示す。
カッコ無しのものは既存のままとする。

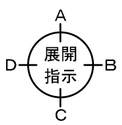
津市立東観中学校長寿命化改修工事

２階平面図(改修前)

A － 28

S: 1/200





２階平面図　S: 1/200

凡例

改修範囲外を示す

外部仕上表

凡例	箇所	改修前	改修後
A	初期防水層 A	防水モルタル金コテ仕上げ t=30　均しモルタル t=15　シンダーコン t=70 均しモルタル t=15　アスファルト防水 A-2　伸縮目地共	
B	屋上防水Ｂ	初期防水層の上 【タールウレタン系塗膜防水】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(階段はX-2)
C	屋上防水Ｃ	初期防水層の上 【ウレタン系塗膜防水 脱気筒10ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》(斜面、庇はX-2)
D	屋上防水Ｄ	初期防水層の上 【ゴムシート防水 脱気筒4ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》
E	屋上防水Ｅ	初期防水層の上 自閉樹脂塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
F	屋上防水Ｆ	初期防水層の上 ウレタン系塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(斜面はX-2)

凡例	箇所	改修前	改修後
G	屋上防水Ｇ	シート防水 モルタル下地	《水洗いの上 ウレタン系 塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
H	玄関屋根	瓦棒葺き カラー鋼板 t=0.8	既存のまま
I	屋根	瓦棒葺き カラーSUS t=0.6	既存のまま
J	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》
K	ルーフドレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
L	コーナードレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
M	谷樋	SUS製 t=0.6	既存のまま
N	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧
O	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》

凡例	箇所	改修前	改修後
P	玄関床	フェロコン系床仕上げ	既存のまま
Q	犬走り	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
R	犬走り、階段	ＲＣ金コテ押え	既存のまま
S	階段	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
T	Exp.J	SUS製	既存のまま
U	屋上防水	―	《下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-1) (上塗材：フッ素) SUS脱気筒共》
V	コーナードレーン	―	《鋳鉄製 φ75》
W	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
X	フェンス	スチールネットフェンス H=1,250/550 ＶＰ	《ネット：張替え》 《支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》

※ 表中(屋上防水、防水立上り)　《下地調整》：ポリマーセメント下地調整(ケレン掛け、清掃共)　《目地処理》：既存伸縮目地撤去の上 目地処理テープ貼り　《脱気筒共》：脱気筒SUS製 1ヶ所/50㎡　※ 細部は詳細図による

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

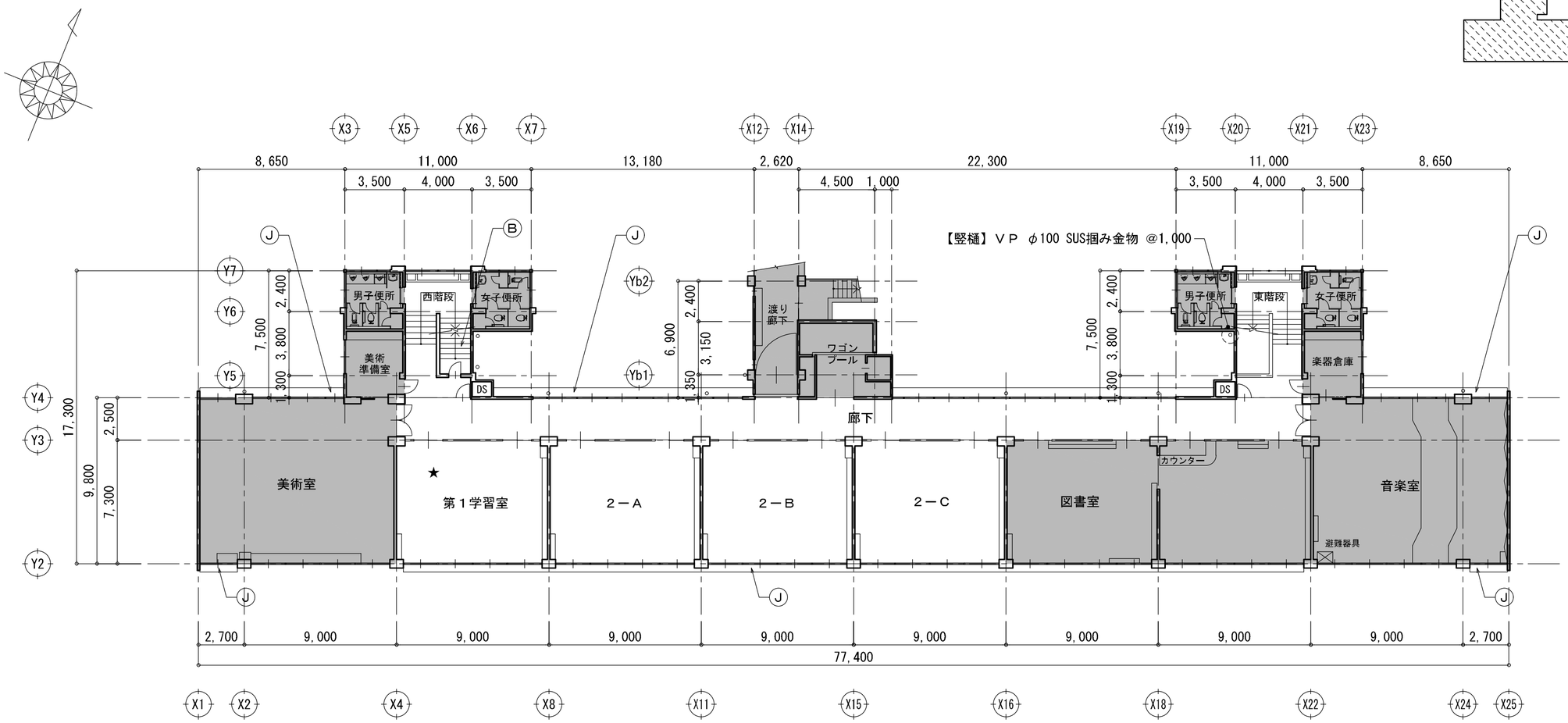
原図：A2
【 】内は撤去を示す。《 》内は新設を示す。
カッコ無しのものは既存のままとする。

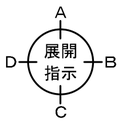
津市立東観中学校長寿命化改修工事

２階平面図(改修後)

A － 29

S: 1/200





３階平面図	S: 1/200

凡例

改修範囲外を示す

★ 化学物質濃度測定箇所を示す
改修前１ヶ所/改修後２ヶ所

外 部 仕 上 表

凡例	箇所	改修前	改修後
A	初期防水層 A	防水モルタル金コテ仕上げ t=30　均しモルタル t=15　シンダーコン t=70 均しモルタル t=15　アスファルト防水 A-2　伸縮目地共	
B	屋上防水Ｂ	初期防水層の上 【タールウレタン系塗膜防水】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(階段はX-2)
C	屋上防水Ｃ	初期防水層の上 【ウレタン系塗膜防水 脱気筒10ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》(斜面、庇はX-2)
D	屋上防水Ｄ	初期防水層の上 【ゴムシート防水 脱気筒4ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》
E	屋上防水Ｅ	初期防水層の上 自閉樹脂塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
F	屋上防水Ｆ	初期防水層の上 ウレタン系塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(斜面はX-2)

凡例	箇所	改修前	改修後
G	屋上防水Ｇ	シート防水 モルタル下地	《水洗いの上 ウレタン系 塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
H	玄関屋根	瓦棒葺き カラー鋼板 t=0.8	既存のまま
I	屋根	瓦棒葺き カラーSUS t=0.6	既存のまま
J	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》
K	ルーフドレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
L	コーナードレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
M	谷樋	SUS製 t=0.6	既存のまま
N	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧
O	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》

凡例	箇所	改修前	改修後
P	玄関床	フェロコン系床仕上げ	既存のまま
Q	犬走り	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
R	犬走り、階段	ＲＣ金コテ押え	既存のまま
S	階段	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
T	Exp.J	SUS製	既存のまま
U	屋上防水	―	《下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-1) (上塗材：フッ素) SUS脱気筒共》
V	コーナードレーン	―	《鋳鉄製 φ75》
W	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
X	フェンス	スチールネットフェンス H=1,250/550 ＶＰ	《ネット：張替え》 《支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》

※ 表中(屋上防水、防水立上り) 《下地調整》：ポリマーセメント下地調整(ケレン掛け、清掃共) 《目地処理》：既存伸縮目地撤去の上 目地処理テープ貼り 《脱気筒共》：脱気筒SUS製 1ヶ所/50㎡ ※ 細部は詳細図による

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

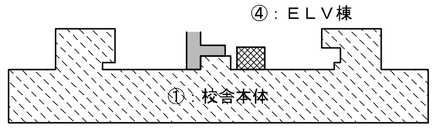
最終更新

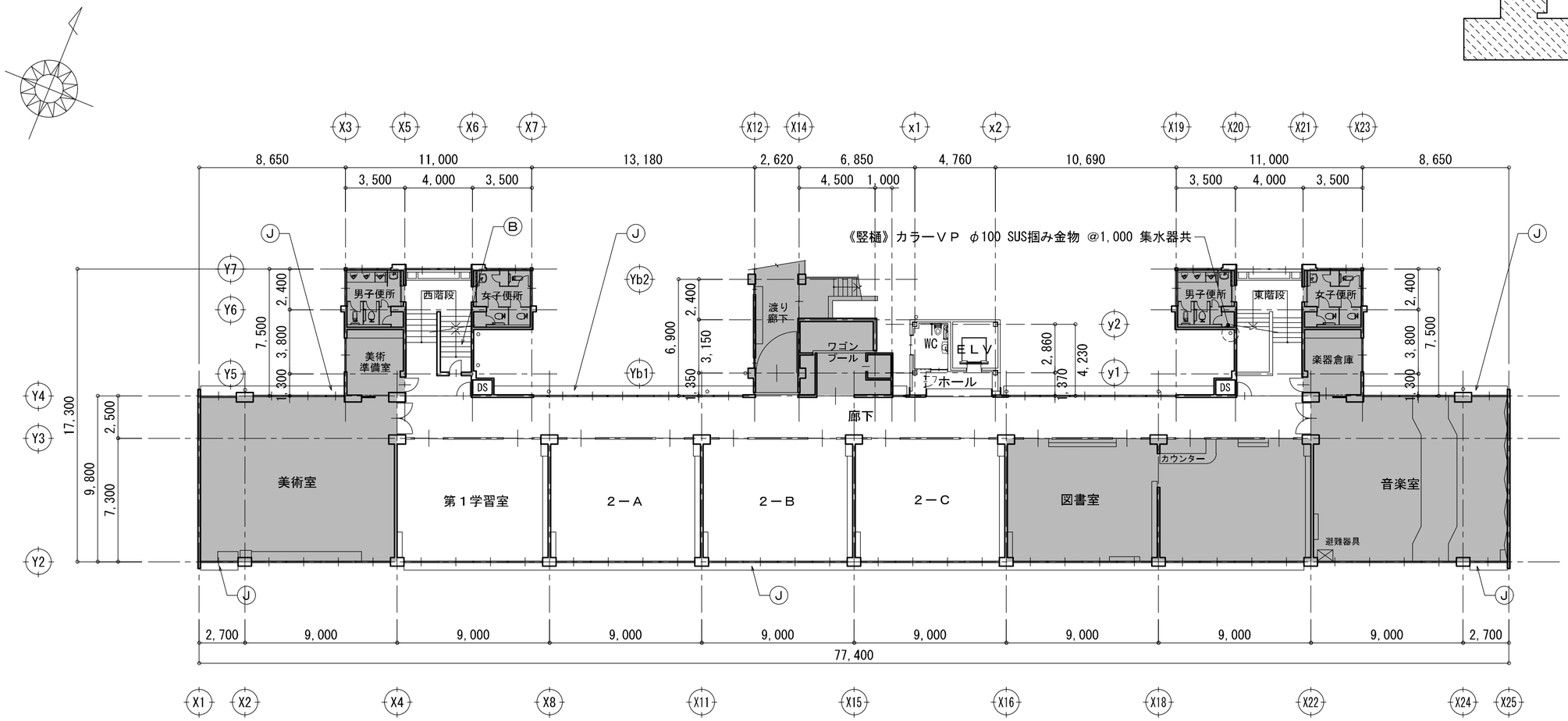
原図：A2
【 】内は撤去を示す。《 》内は新設を示す。
カッコ無しのものは既存のままとする。

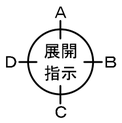
津市立東観中学校長寿命化改修工事

３階平面図(改修前)

A － 30
S： 1/200







３階平面図	S: 1/200

凡例

改修範囲外を示す

外 部 仕 上 表

凡例	箇所	改修前	改修後
A	初期防水層 A	防水モルタル金コテ仕上げ t=30　均しモルタル t=15　シンダーコン t=70 均しモルタル t=15　アスファルト防水 A-2　伸縮目地共	
B	屋上防水Ｂ	初期防水層の上 【タールウレタン系塗膜防水】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(階段はX-2)
C	屋上防水Ｃ	初期防水層の上 【ウレタン系塗膜防水 脱気筒10ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》(斜面、庇はX-2)
D	屋上防水Ｄ	初期防水層の上 【ゴムシート防水 脱気筒4ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》
E	屋上防水Ｅ	初期防水層の上 自閉樹脂塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
F	屋上防水Ｆ	初期防水層の上 ウレタン系塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(斜面はX-2)

凡例	箇所	改修前	改修後
G	屋上防水Ｇ	シート防水 モルタル下地	《水洗いの上 ウレタン系 塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
H	玄関屋根	瓦棒葺き カラー鋼板 t=0.8	既存のまま
I	屋根	瓦棒葺き カラーSUS t=0.6	既存のまま
J	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》
K	ルーフドレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
L	コーナードレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
M	谷樋	SUS製 t=0.6	既存のまま
N	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧
O	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》

凡例	箇所	改修前	改修後
P	玄関床	フェロコン系床仕上げ	既存のまま
Q	犬走り	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
R	犬走り、階段	ＲＣ金コテ押え	既存のまま
S	階段	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
T	Exp.J	SUS製	既存のまま
U	屋上防水	―	《下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-1) (上塗材：フッ素) SUS脱気筒共》
V	コーナードレーン	―	《鋳鉄製 φ75》
W	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
X	フェンス	スチールネットフェンス H=1,250/550 ＶＰ	《ネット：張替え》 《支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》

※ 表中(屋上防水、防水立上り)　《下地調整》：ポリマーセメント下地調整(ケレン掛け、清掃共)　《目地処理》：既存伸縮目地撤去の上 目地処理テープ貼り　《脱気筒共》：脱気筒SUS製 1ヶ所/50㎡　※ 細部は詳細図による

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

原図：A2

【 】内は撤去を示す。《 》内は新設を示す。

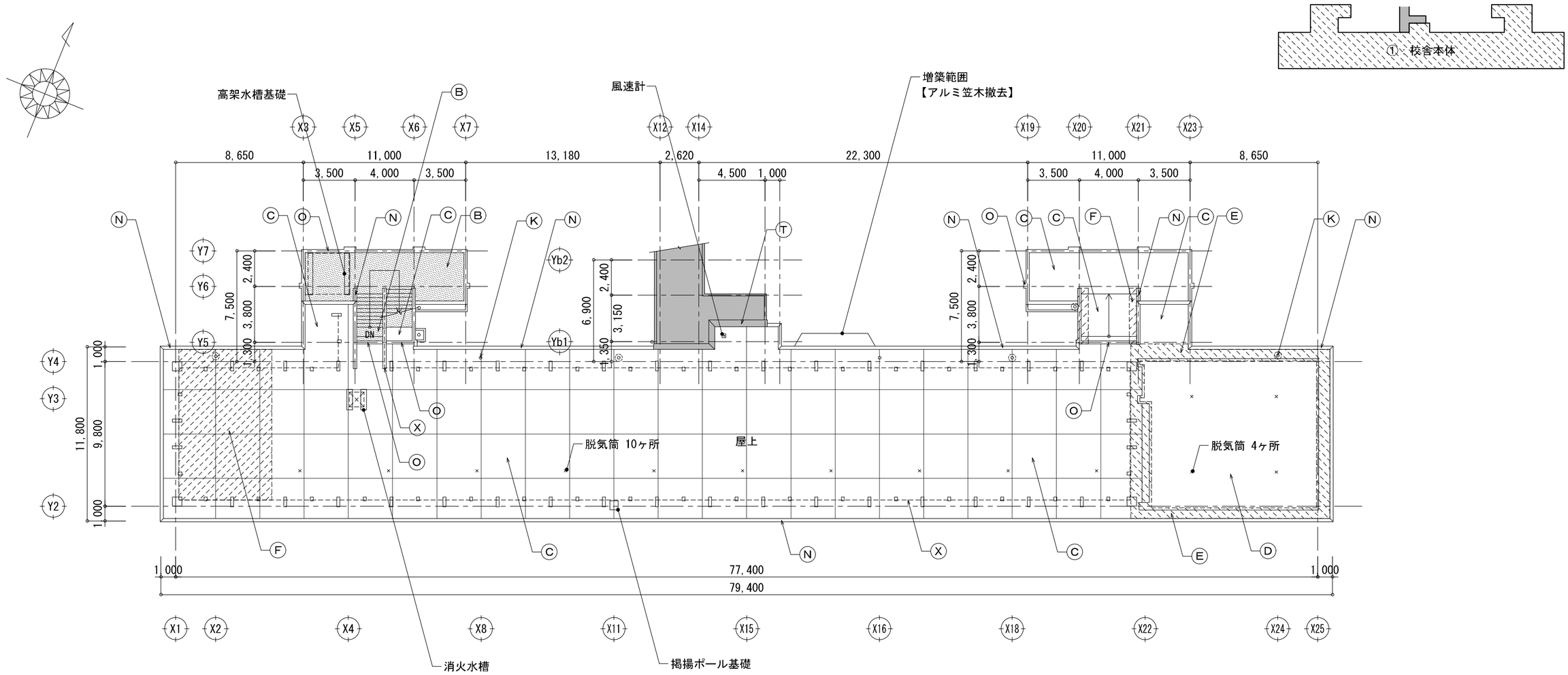
カッコ無しのものは既存のままとする。

津市立東観中学校長寿命化改修工事

３階平面図(改修後)

A － 31

S： 1/200



R階平面図	S: 1/200

凡例

改修範囲外を示す

外 部 仕 上 表

凡例	箇所	改修前	改修後
A	初期防水層 A	防水モルタル金コテ仕上げ t=30　均しモルタル t=15　シンダーコン t=70 均しモルタル t=15　アスファルト防水 A-2　伸縮目地共	
B	屋上防水B	初期防水層の上 【タールウレタン系塗膜防水】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(階段はX-2)
C	屋上防水C	初期防水層の上 【ウレタン系塗膜防水 脱気筒10ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》(斜面、庇はX-2)
D	屋上防水D	初期防水層の上 【ゴムシート防水 脱気筒4ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》
E	屋上防水E	初期防水層の上 自閉樹脂塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
F	屋上防水F	初期防水層の上 ウレタン系塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(斜面はX-2)

凡例	箇所	改修前	改修後
G	屋上防水G	シート防水 モルタル下地	《水洗いの上 ウレタン系 塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
H	玄関屋根	瓦棒葺き カラー鋼板 t=0.8	既存のまま
I	屋根	瓦棒葺き カラーSUS t=0.6	既存のまま
J	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》
K	ルーフドレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
L	コーナードレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
M	谷樋	SUS製 t=0.6	既存のまま
N	笠木A	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧
O	笠木B	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》

凡例	箇所	改修前	改修後
P	玄関床	フェロコン系床仕上げ	既存のまま
Q	犬走り	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
R	犬走り、階段	ＲＣ金コテ押え	既存のまま
S	階段	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
T	Exp.J	SUS製	既存のまま
U	屋上防水	―	《下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-1) (上塗材：フッ素) SUS脱気筒共》
V	コーナードレーン	―	《鋳鉄製 φ75》
W	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
X	フェンス	スチールネットフェンス H=1,250/550 ＶＰ	《ネット：張替え》 《支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》

※ 表中(屋上防水、防水立上り)　《下地調整》：ポリマーセメント下地調整(ケレン掛け、清掃共)　《目地処理》：既存伸縮目地撤去の上 目地処理テープ貼り　《脱気筒共》：脱気筒SUS製 1ヶ所/50㎡　※ 細部は詳細図による

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

原図：A2

【 】内は撤去を示す。《 》内は新設を示す。

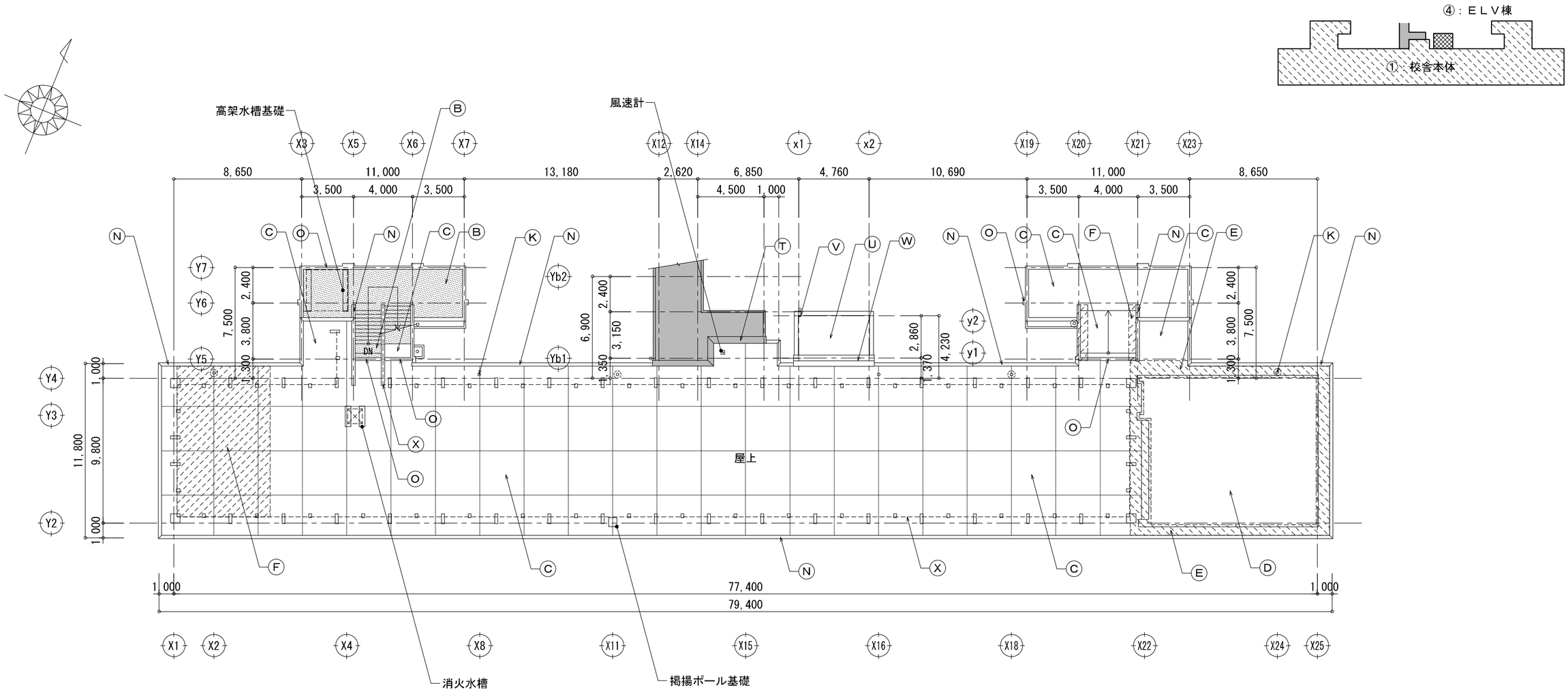
カッコ無しのものは既存のままとする。

津市立東観中学校長寿命化改修工事

R階平面図(改修前)

A － 32

S: 1/200



R階平面図	S: 1/200

凡例

改修範囲外を示す

外 部 仕 上 表

凡例	箇所	改修前	改修後
A	初期防水層 A	防水モルタル金コテ仕上げ t=30　均しモルタル t=15　シンダーコン t=70 均しモルタル t=15　アスファルト防水 A-2　伸縮目地共	
B	屋上防水Ｂ	初期防水層の上 【タールウレタン系塗膜防水】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(階段はX-2)
C	屋上防水Ｃ	初期防水層の上 【ウレタン系塗膜防水 脱気筒10ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》(斜面、庇はX-2)
D	屋上防水Ｄ	初期防水層の上 【ゴムシート防水 脱気筒4ヶ所】	《水洗い、下地調整(目地処理共)の上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)脱気筒共》
E	屋上防水Ｅ	初期防水層の上 自閉樹脂塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
F	屋上防水Ｆ	初期防水層の上 ウレタン系塗膜防水	《水洗いの上 ウレタン系塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》(斜面はX-2)

凡例	箇所	改修前	改修後
G	屋上防水Ｇ	シート防水 モルタル下地	《水洗いの上 ウレタン系 塗膜防水(X-1)(上塗材：フッ素)》
H	玄関屋根	瓦棒葺き カラー鋼板 t=0.8	既存のまま
I	屋根	瓦棒葺き カラーSUS t=0.6	既存のまま
J	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》
K	ルーフドレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
L	コーナードレーン	【鋳鉄製 φ100】	《改修用ドレーン 鋳鉄製 φ100》
M	谷樋	SUS製 t=0.6	既存のまま
N	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧
O	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》

凡例	箇所	改修前	改修後
P	玄関床	フェロコン系床仕上げ	既存のまま
Q	犬走り	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
R	犬走り、階段	ＲＣ金コテ押え	既存のまま
S	階段	防水モルタル金コテ仕上げ	既存のまま
T	Exp.J	SUS製	既存のまま
U	屋上防水	―	《下地調整の上 ウレタン系塗膜防水(X-1) (上塗材：フッ素) SUS脱気筒共》
V	コーナードレーン	―	《鋳鉄製 φ75》
W	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
X	フェンス	スチールネットフェンス H=1,250/550 ＶＰ	《ネット：張替え》 《支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》

※ 表中(屋上防水、防水立上り)　《下地調整》：ポリマーセメント下地調整(ケレン掛け、清掃共)　《目地処理》：既存伸縮目地撤去の上 目地処理テープ貼り　《脱気筒共》：脱気筒SUS製 1ヶ所/50㎡　※ 細部は詳細図による

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

原図：A2

【 】内は撤去を示す。《 》内は新設を示す。

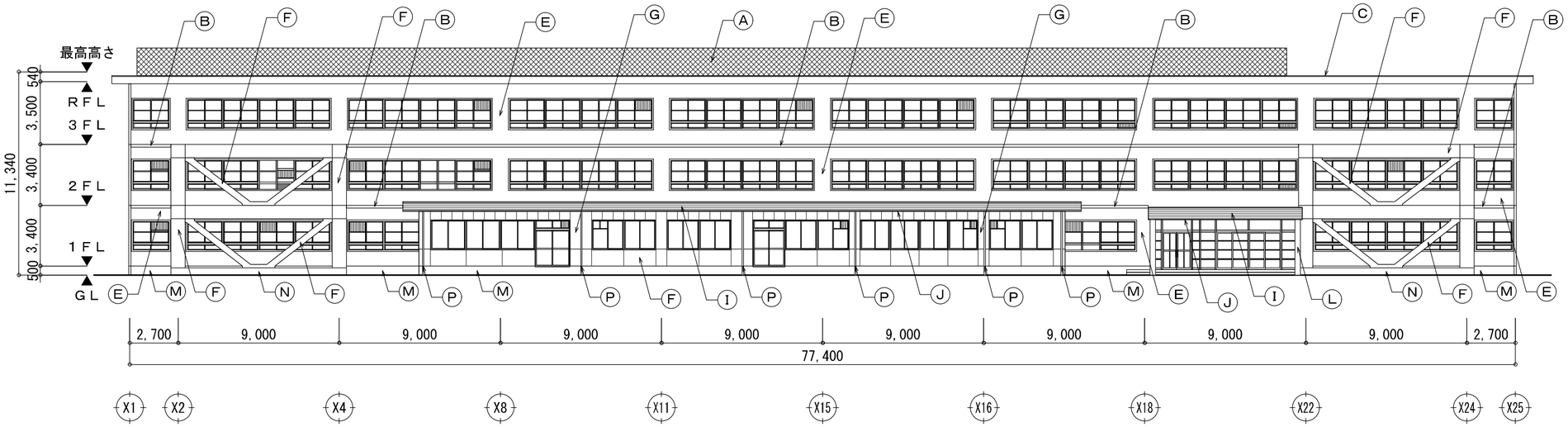
カッコ無しのものは既存のままとする。

津市立東観中学校長寿命化改修工事

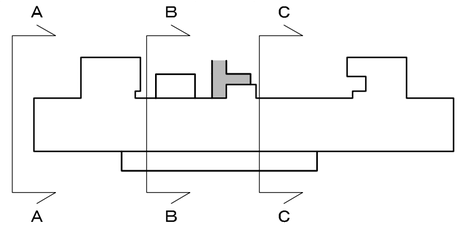
R階平面図(改修後)

A － 33

S: 1/200

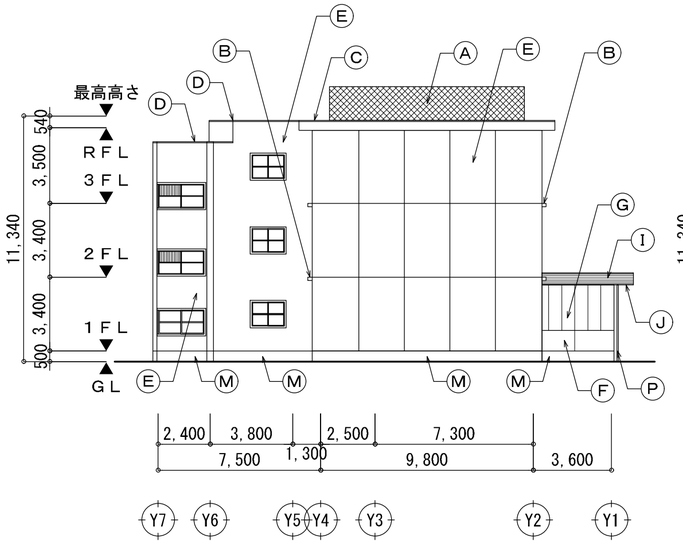


南立面図　S: 1/200

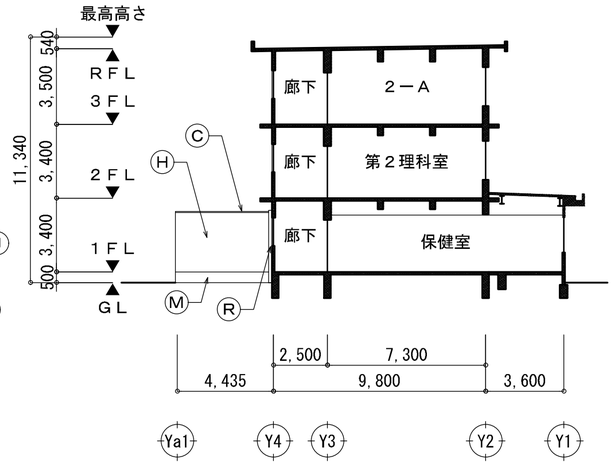


凡例

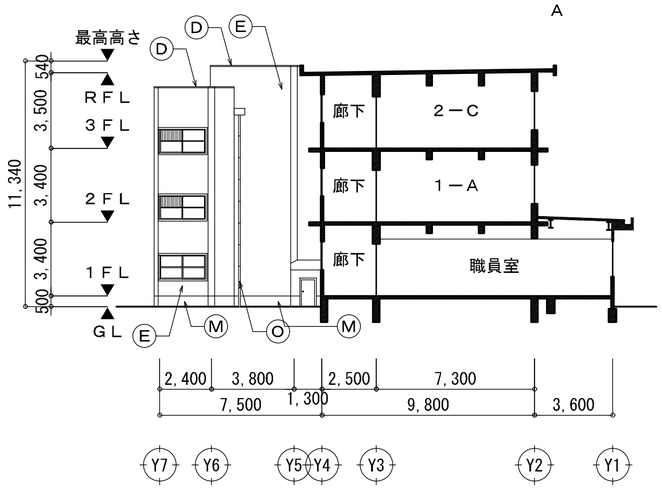
改修範囲外を示す



西立面図Ａ　S: 1/200



西立面図Ｂ　S: 1/200



西立面図Ｃ　S: 1/200

躯体の改修について（パラペット・庇・外壁）

◆躯体浮きの改修方法
- アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
  （一般部：16本/㎡、25ml/穴）
  （見上面、庇鼻先、マグサ隅角部：25本/㎡、25ml/穴）
  （細幅部：5本/m、25ml/穴）

◆躯体ひび割れの改修方法
- 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法（1mm未満）
- Ｕカットシール材充填工法（1mm以上）

◆躯体欠損、爆裂の改修方法
- 鉄筋防錆の上、樹脂モルタル充填

◆シーリングの改修方法
- 打継誘発目地は撤去の上新設（PU-2）
- 建具周囲、Exp.J取合い目地は撤去の上新設（MS-2）

・外部設備配管は脱着せず、養生にて対応する。
（脱着を行うものは設備図参照）

外部仕上表

凡例	箇所	改修前	改修後
A	フェンス	スチールネットフェンス H=1,350/550 ＶＰ	《ネット：張替え、支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》
B	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》
C	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧
D	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》
E	外壁	モルタル刷毛引き 複層塗材Ｅ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
F	外壁	ＲＣ打放し補修 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
G	外壁	ALC-100 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
H	外壁	モルタル金コテ押え 複層塗材Ｅ（ＲＣ/CB-150下地）	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
I	幕板	ALC-50 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》

凡例	箇所	改修前	改修後
J	下端見切り	アルミ製	既存のまま
K	壁見切り	SUS製	既存のまま
L	柱型	化粧鋼板	《下地調整の上 ＤＰ》
M	巾木	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い》
N	巾木	ＲＣ打放し補修	《水洗い》
O	竪樋	ＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000【一部：撤去】	既存のまま《一部：カラーＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000 集水器共》
P	竪樋	ＶＰ φ75 SUS掴み金物 @1,000	既存のまま
Q	飾り桝	塩ビ製 φ100用	既存のまま
R	Exp.J	アルミ製 t=2.0 加工品	既存のまま

凡例	箇所	改修前	改修後
S	Exp.J	SUS製	既存のまま
T	笠木	―	《アルミ製》W=275
U	外壁	―	《ALCパネル t=125 下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
V	外壁	―	《ＲＣ壁 t=120 モルタル金コテ押え 下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
W	巾木	―	《モルタル金コテ仕上げ》
X	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
Y	竪樋		《カラーＶＰ φ75 SUS掴み金物@900 集水器共》

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

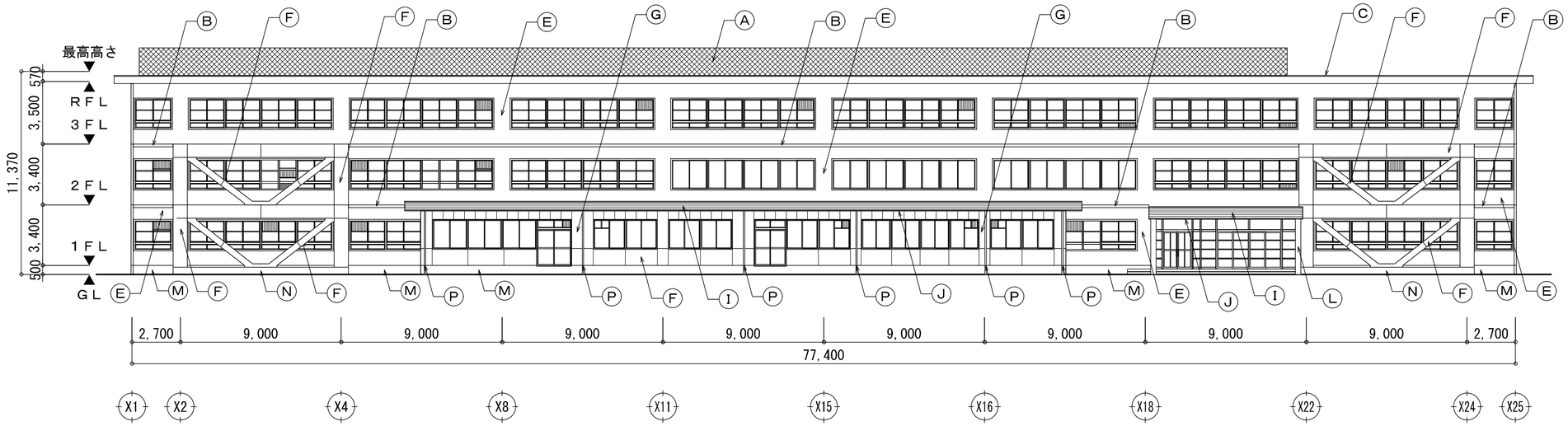
原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

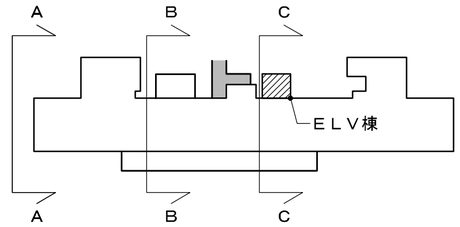
立面図１(改修前)

A － 34

S: 1/200

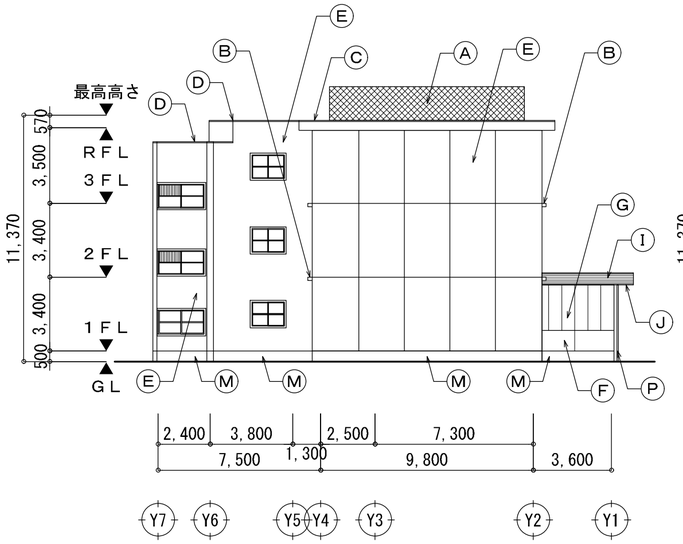


南立面図　S: 1/200

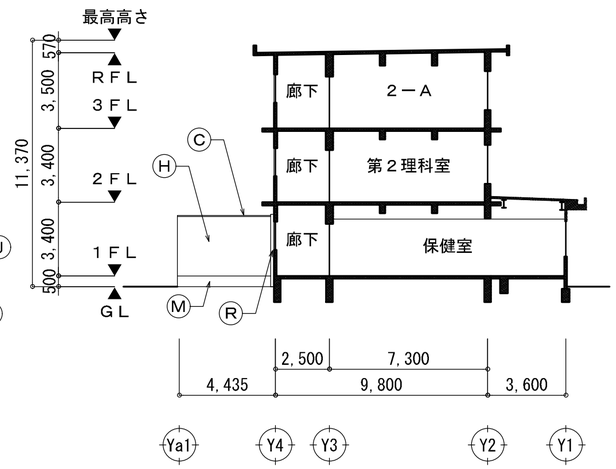


凡例

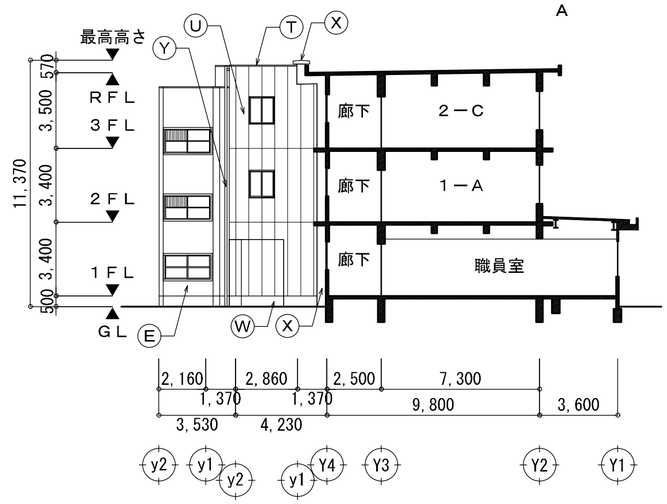
改修範囲外を示す



西立面図Ａ　S: 1/200



西立面図Ｂ　S: 1/200



西立面図Ｃ　S: 1/200

躯体の改修について（パラペット・庇・外壁）

◆躯体浮きの改修方法
- アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
  （一般部：16本/㎡、25ml/穴）
  （見上面、庇鼻先、マグサ隅角部：25本/㎡、25ml/穴）
  （細幅部：5本/m、25ml/穴）

◆躯体ひび割れの改修方法
- 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法（1mm未満）
- Ｕカットシール材充填工法（1mm以上）

◆躯体欠損、爆裂の改修方法
- 鉄筋防錆の上、樹脂モルタル充填

◆シーリングの改修方法
- 打継誘発目地は撤去の上新設（PU-2）
- 建具周囲、Exp.J取合い目地は撤去の上新設（MS-2）

・外部設備配管は脱着せず、養生にて対応する。
（脱着を行うものは設備図参照）

外部仕上表

凡例	箇所	改修前	改修後	凡例	箇所	改修前	改修後	凡例	箇所	改修前	改修後
A	フェンス	スチールネットフェンス H=1,350/550 ＶＰ	《ネット：張替え、支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》	J	下端見切り	アルミ製	既存のまま	S	Exp.J	SUS製	既存のまま
B	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》	K	壁見切り	SUS製	既存のまま	T	笠木	―	《アルミ製》W=275
C	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧	L	柱型	化粧鋼板	《下地調整の上 ＤＰ》	U	外壁	―	《ALCパネル t=125 下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
D	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》	M	巾木	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い》	V	外壁	―	《ＲＣ壁 t=120 モルタル金コテ押え 下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
E	外壁	モルタル刷毛引き 複層塗材Ｅ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	N	巾木	ＲＣ打放し補修	《水洗い》				
F	外壁	ＲＣ打放し補修 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	O	竪樋	ＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000【一部：撤去】	既存のまま《一部：カラーＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000 集水器共》	W	巾木	―	《モルタル金コテ仕上げ》
G	外壁	ALC-100 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	P	竪樋	ＶＰ φ75 SUS掴み金物 @1,000	既存のまま	X	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
H	外壁	モルタル金コテ押え 複層塗材Ｅ（ＲＣ/CB-150下地）	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	Q	飾り桝	塩ビ製 φ100用	既存のまま	Y	竪樋		《カラーＶＰ φ75 SUS掴み金物@900 集水器共》
I	幕板	ALC-50 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	R	Exp.J	アルミ製 t=2.0 加工品	既存のまま				

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

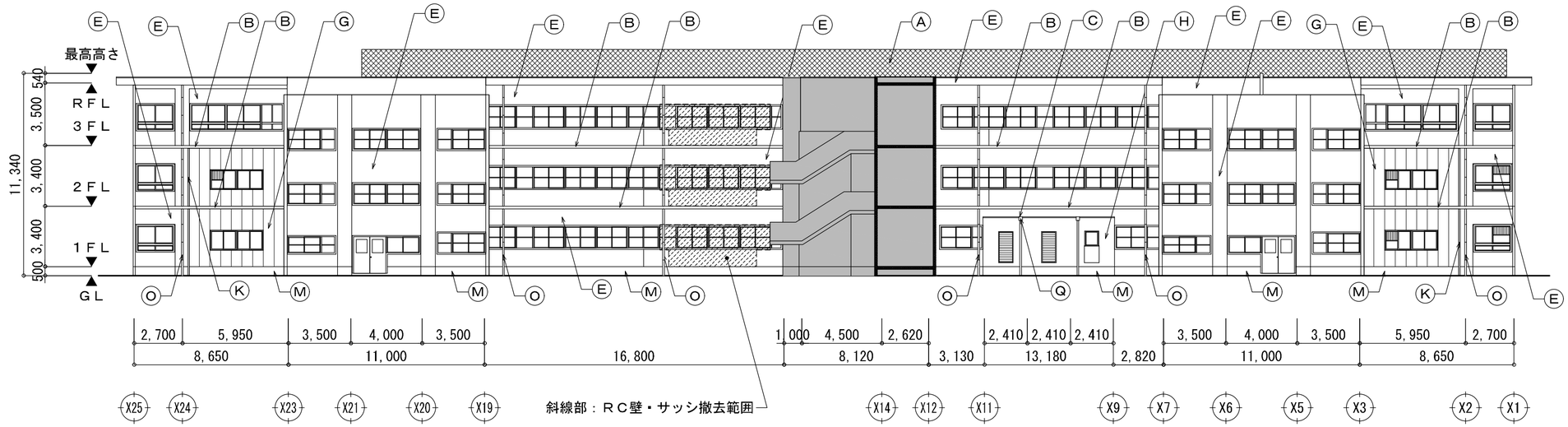
原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

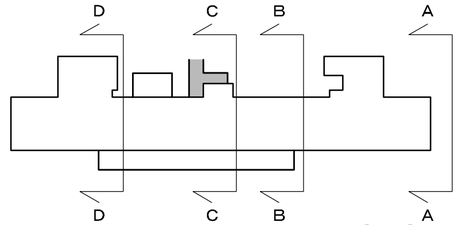
立面図１(改修後)

A － 35

S: 1/200

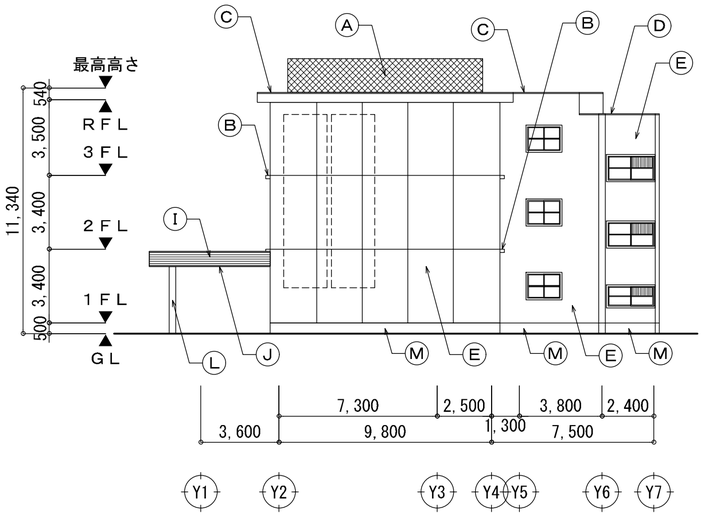


北立面図　S: 1/200

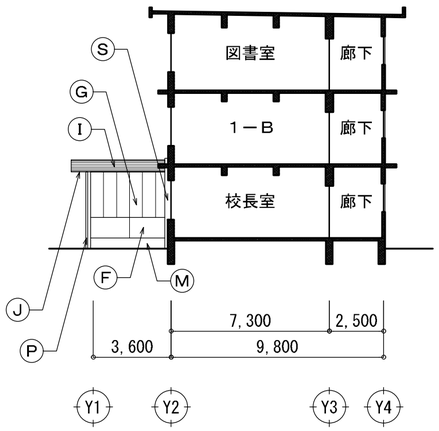


凡例

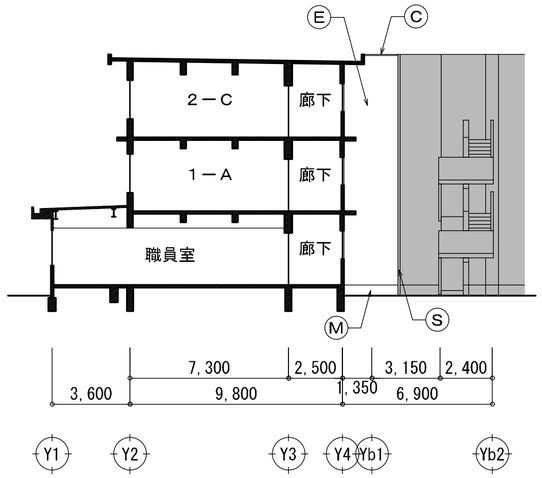
改修範囲外を示す



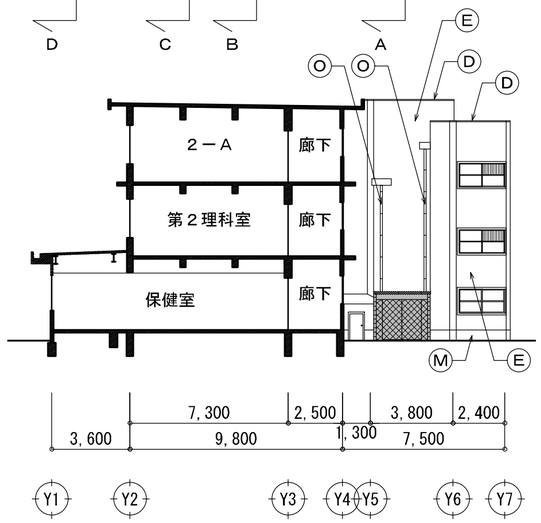
東立面図Ａ　S: 1/200



東立面図Ｂ　S: 1/200



東立面図Ｃ　S: 1/200



東立面図Ｄ　S: 1/200

外部仕上表

凡例	箇所	改修前	改修後	凡例	箇所	改修前	改修後	凡例	箇所	改修前	改修後
A	フェンス	スチールネットフェンス H=1,350/550 ＶＰ	《ネット：張替え、支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》	J	下端見切り	アルミ製	既存のまま	S	Exp.J	SUS製	既存のまま
B	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》	K	壁見切り	SUS製	既存のまま	T	笠木	―	《アルミ製》W=275
C	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧	L	柱型	化粧鋼板	《下地調整の上 ＤＰ》	U	外壁	―	《ALCパネル t=125 下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
D	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》	M	巾木	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い》	V	外壁	―	《ＲＣ壁 t=120 モルタル金コテ押え 下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
E	外壁	モルタル刷毛引き 複層塗材Ｅ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	N	巾木	ＲＣ打放し補修	《水洗い》				
F	外壁	ＲＣ打放し補修 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	O	竪樋	ＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000【一部：撤去】	既存のまま《一部：カラーＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000 集水器共》	W	巾木	―	《モルタル金コテ仕上げ》
G	外壁	ALC-100 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	P	竪樋	ＶＰ φ75 SUS掴み金物 @1,000	既存のまま	X	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
H	外壁	モルタル金コテ押え 複層塗材Ｅ（ＲＣ/CB-150下地）	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	Q	飾り桝	塩ビ製 φ100用	既存のまま	Y	竪樋		《カラーＶＰ φ75 SUS掴み金物@900 集水器共》
I	幕板	ALC-50 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	R	Exp.J	アルミ製 t=2.0 加工品	既存のまま				

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

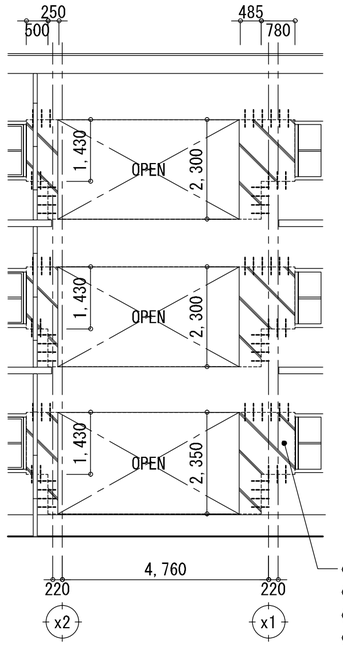
原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

立面図２(改修前)

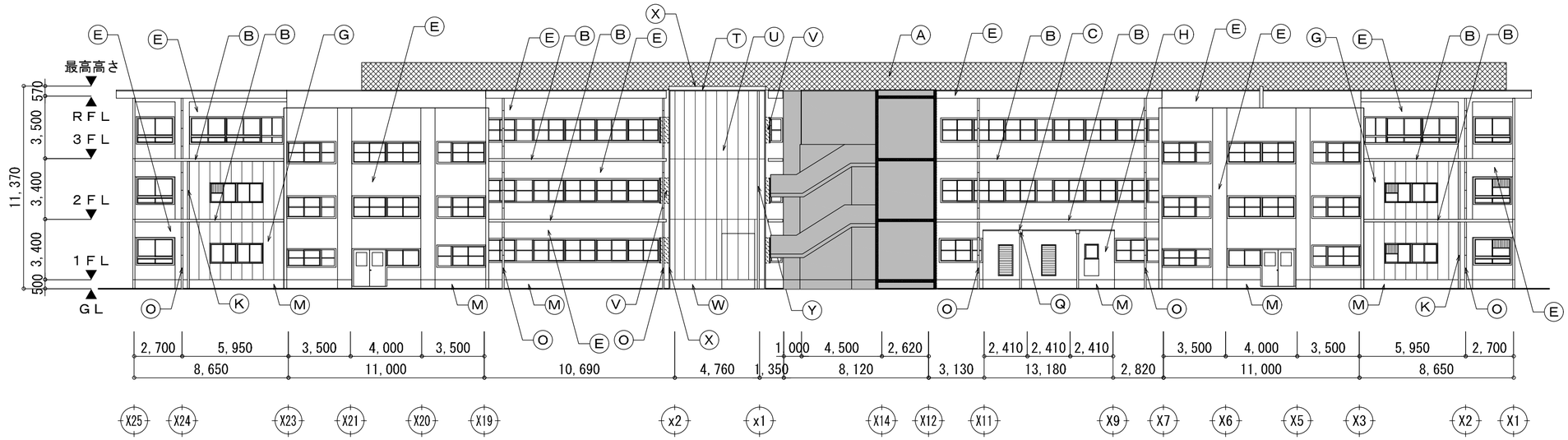
A － 36

S: 1/200

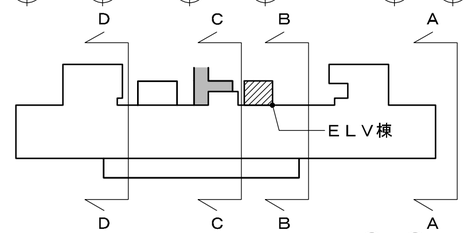


《ＲＣ壁》 t=120 D10-200@ﾀﾃﾖｺ(Fq=21N/㎟)
《無収縮モルタル(上部)》 H=50 グラウト充填
《打継部シーリング》 PU-2
《接着系アンカー》 D10-200@ L=200(埋込 L=120/長期許容引張荷重4.0kN)
※ 既存ＲＣ壁、庇のハツリ跡の鉄筋小口はサビ止め塗りとする。

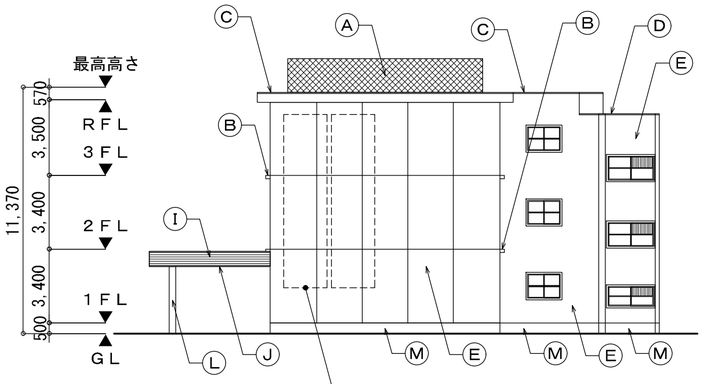
ＥＬＶ棟 取付部	S: 1/100



北立面図	S: 1/200

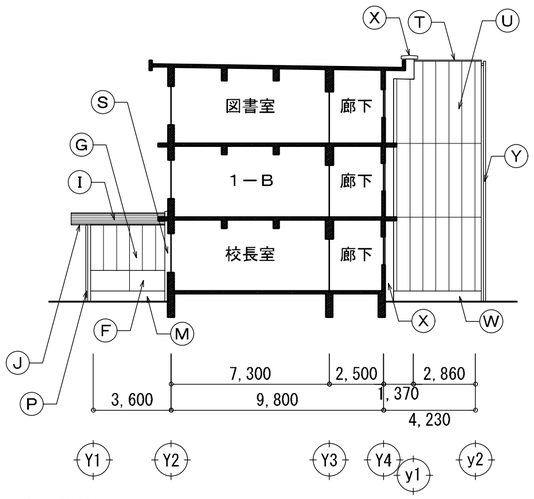


凡例
改修範囲外を示す

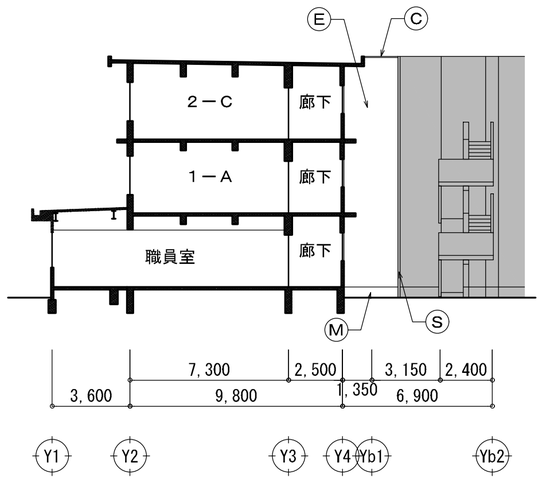


《吊具用インサート穴埋め PU-2》
φ13.5×63ヶ所

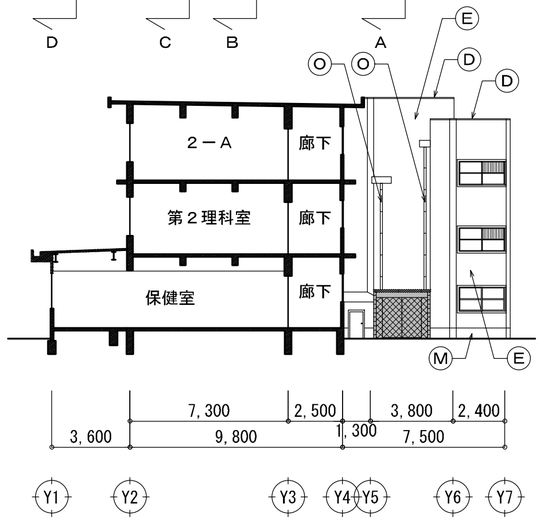
東立面図Ａ	S: 1/200



東立面図Ｂ	S: 1/200



東立面図Ｃ	S: 1/200



東立面図Ｄ	S: 1/200

外 部 仕 上 表

凡例	箇所	改修前	改修後	凡例	箇所	改修前	改修後	凡例	箇所	改修前	改修後
A	フェンス	スチールネットフェンス H=1,350/550 ＶＰ	《ネット：張替え、支柱及び枠：下地調整、錆止め塗装の上 ＤＰ》	J	下端見切り	アルミ製	既存のまま	S	Exp.J	SUS製	既存のまま
B	庇	防水モルタル金コテ仕上げ	《水洗いの上 自閉樹脂塗膜防水》	K	壁見切り	SUS製	既存のまま	T	笠木	―	《アルミ製》W=275
C	笠木Ａ	アルミ製 W=225	一時取外し、復旧	L	柱型	化粧鋼板	《下地調整の上 ＤＰ》	U	外壁	―	《ALCパネル t=125 下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
D	笠木Ｂ	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い、下地調整の上 外壁用アクリル系塗膜防水》	M	巾木	モルタル金コテ仕上げ	《水洗い》	V	外壁	―	《ＲＣ壁 t=120 モルタル金コテ押え 下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》
E	外壁	モルタル刷毛引き 複層塗材Ｅ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	N	巾木	ＲＣ打放し補修	《水洗い》				
F	外壁	ＲＣ打放し補修 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	O	竪樋	ＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000【一部：撤去】	既存のまま《一部：カラーＶＰ φ100 SUS掴み金物 @1,000 集水器共》	W	巾木	―	《モルタル金コテ仕上げ》
G	外壁	ALC-100 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	P	竪樋	ＶＰ φ75 SUS掴み金物 @1,000	既存のまま	X	Exp.J	―	新設（詳細図参照）
H	外壁	モルタル金コテ押え 複層塗材Ｅ（ＲＣ/CB-150下地）	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	Q	飾り桝	塩ビ製 φ100用	既存のまま	Y	竪樋		《カラーＶＰ φ75 SUS掴み金物@900 集水器共》
I	幕板	ALC-50 複層塗材ＲＥ	《高圧水洗、下地調整の上 複層塗材Ｅ(上塗材：フッ素)》	R	Exp.J	アルミ製 t=2.0 加工品	既存のまま				

アルテック設計
三重県津市大谷町２３３番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192
一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

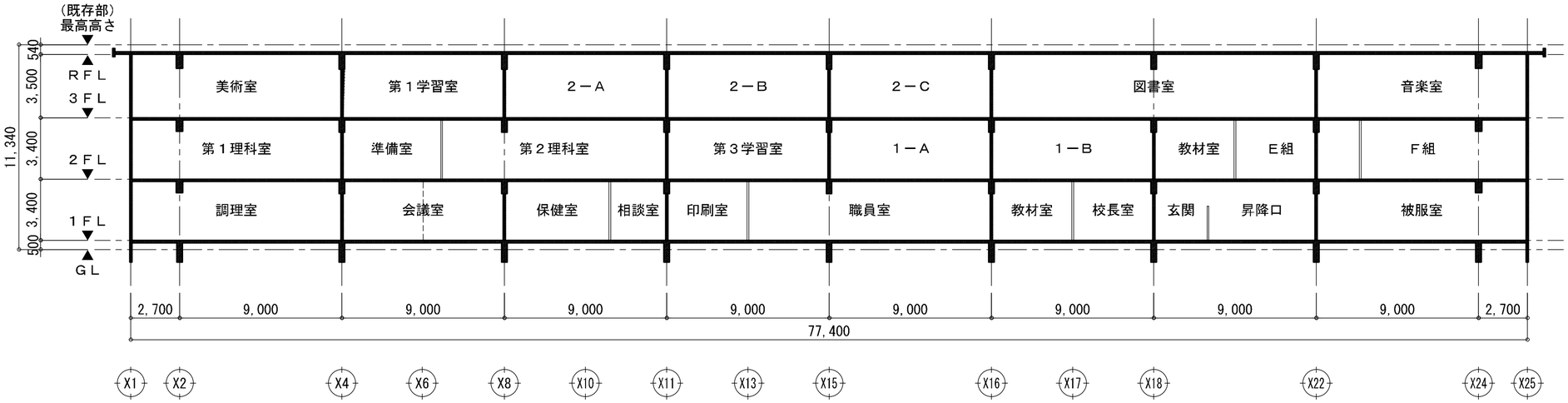
原図：A2

津市立東観中学校長寿命化改修工事

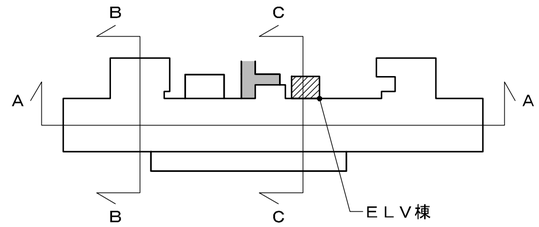
立面図２(改修後)

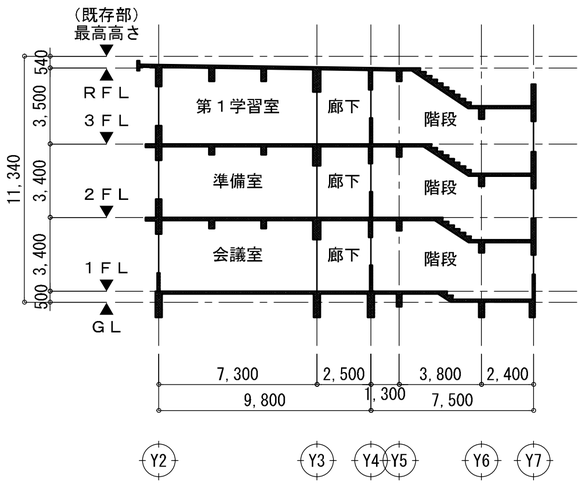
A － 37

S: 1/200

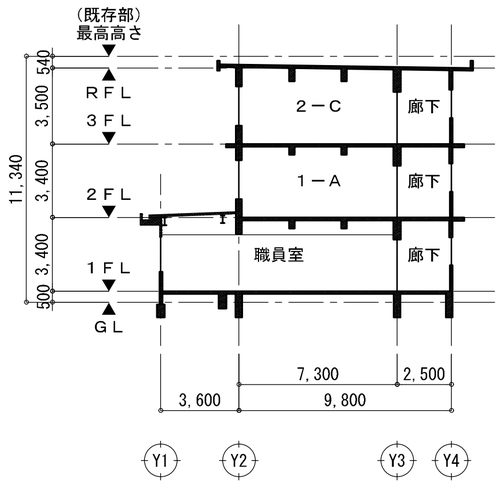


断面図Ａ	S: 1/200

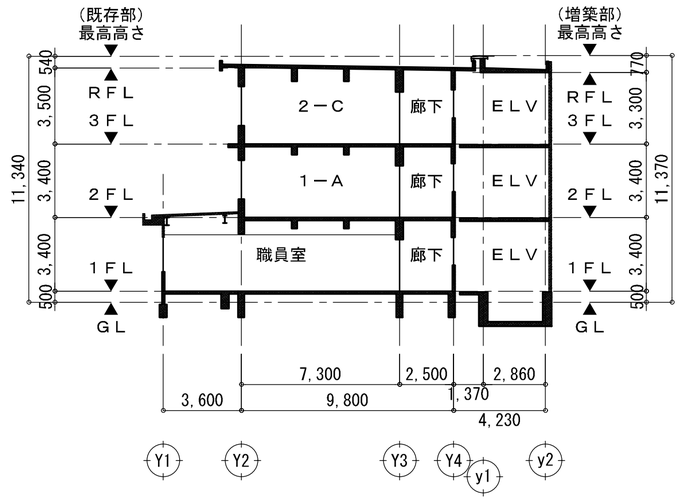




断面図Ｂ	S: 1/200



断面図Ｃ(改修前)	S: 1/200



断面図Ｃ(改修後)	S: 1/200

アルテック設計	三重県津市大谷町２３３番地 TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192	一級建築士 第177266号 伊藤 公智	最終更新	原図：A2	津市立東観中学校長寿命化改修工事	断面図	A － 38 S: 1/200